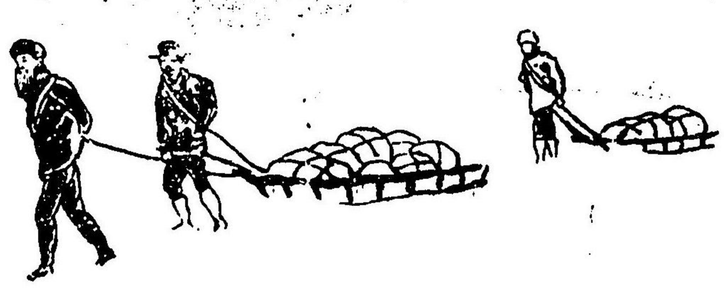
榎本子爵題字

池田良游 著

# アラスカ氷山旅行

東京 雲梯舎藏梓

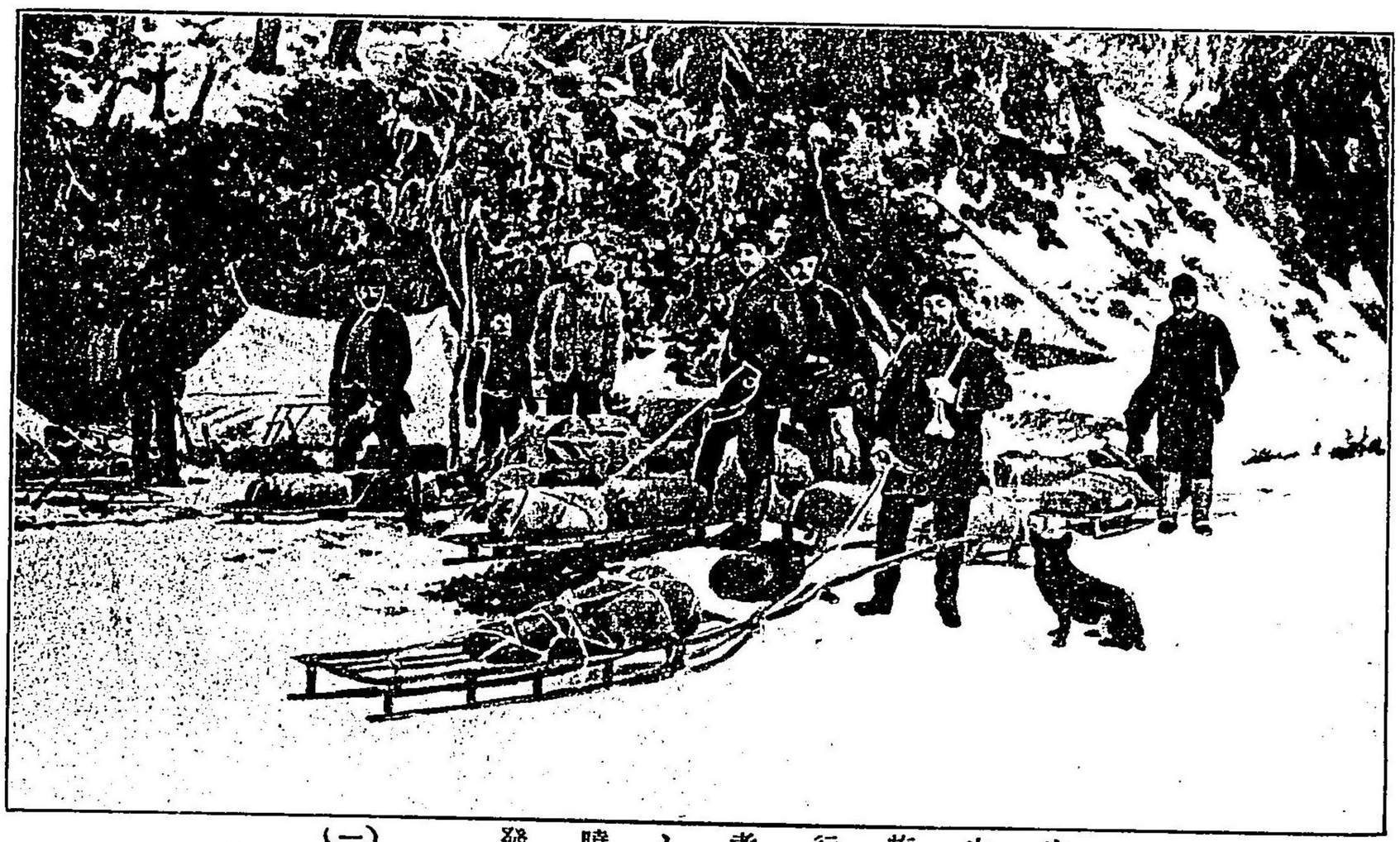


97-16

不入虎穴
不得虎子

明治三十六年
雒夏月落佛日

梁川題



氷山旅行者ノ曉發（一）

氷山旅行者ノ小憩（二）

氷山ノ風雪（三）

夏期ニ於ケル氷山ノ欠裂　(四)

數年前米國の北ユロンタイキに於て始めて金鑛を發見するや一時盛況を極め舉國狂呼稱して黃金熱と謂ふ往々官を棄て職を擲ち之に趣ものあり余時に米國に遊ぶ體健氣逸亦焉んぞ遲疑せん乃ち同志と俱に山河を跋涉する累月其擧頗る兒戲に類す固より以て大人と語る可らず何んぞ料らん頃ろ歸朝するや友人其事を聽んと欲する者多し余適業務煩忙にして閑話に暇なし賴に是紀行あり以て略ぼ當時の狀を述ぶ即ち某に囑して一本を淨寫して以て笑閲に供す殊に憾む當時倉卒走筆恐くは誤脫續出意義難曉而して再航發するに日あり自ら訂正するとを得ざるを冀くは意を以て之を邀へ讀みて其不文を措かれよ

明治三十五年六月

天遊生　池田有親識

曩日池田天遊の歸朝するや一の古き手帳を出して謄寫訂正を托せらる即ちアラスカ探檢記及其補足なり時に詩と畫とを挿む原稿洋筆を以て走るが如く書綴りあり字體明瞭ならず間或は意味の審ならざるものあり然れども天遊繁務今復た米國に航して此に在らず就て問ふに由なし因て難解は難解として勉めて原稿の儘にし敢て修飾を加へず畫の如きに至りても其癡笑ふべきが如しと雖も一に原圖に依り絲毫失はず以て其眞面目を見んとす

明治三十五年　月　日

友人某誌



## 天遊

桑港元日　明治三十一年

砲聲迎曉天地新。滿城風物入陽春。客懷偶騁北辰下。欲決不決幾吟呻。
少小負笈辭故國。中又辛酸滯異域。數奇心事多蹉跎。奈何歲月漫相逼。
僥倖我豈博利名。男子碌々悲無成。百挫須加百倍勇。世上是非任漫評。
蹶起推窓望太洋。天邊碧波來蒼茫。日麗金門朝霽處。慨然賦詩倚胡牀。

# アラスカ氷山旅行目録

千八百九十八年二月十日桑港を出帆す

シヤートル市の日本旅館

船岩礁に乗上ゲ

ジユノー市の日本人飲食店

人跡未到のバルデスに上陸す

バルデス灣半ば氷りて船を氷岸に纜ぐ

氷底に落て漸く救助せらる

橇にて荷物を運搬し氷山に向ふ

氷山の天幕風雪に捲かる

氷山の地震

風雪人畜を氷下に埋む

嚙煙草を呑て凍死せんとす
三十八日初めて綠林を見る
キユーテナ河畔に舟を造る
朝來熊を逐て大林に進む
奇獸を獵して食料に充つ
喰食店を開て以て歸來の費を作る
八月十三日遠征を斷念して歸路に就く
氷山に上らんとして路に迷ふ
氷上宿夜雨中コーヒーを煮て白人を慰む
氷裂の間に陷落せんとす
氷上夜雨荷物を燒て暖を取る
八月十六日バルデスに着す
漂船オルコットに乘り漸くアラスカ首都に到る



# アラスカ氷山旅行記

池田天遊著

西暦一千八百九十八年二月十日午後四時半余の同行者たる大堀君と桑港の華盛頓棧橋より漂船アリヤン號に搭じアラスカ金鑛探檢の途に上れり余等の此行は元來他聞を避けたれば此日棧橋に見送れるは柏蔦次郎君のみなりき斯く余等の行を秘したりしは種々の事情ありしに由ると雖も當時アラスカ金鑛の熱度極點に達し余が旅行の世に流布され爲めに輕擧の青年を誘起するを恐れたればなり余等が此長征の企は既に昨年八月に萠し前に耕作に從事し居りたるダンベルを去り十一月に出桑せし以來夜を日に續きて旅裝を準備し殆ど二ヶ月間を費し漸くにして完備せり其天幕より毛衣草靴に至る迄凡て余等の手に調製し以て多少の費を減ずるを得たり此等の費用は百弗に達し之に滯在費用を加ふれば實に一千弗に餘れりその外航海の船賃百五十弗を支拂ひたり其行季の重量は殆ど二噸に至れり當日船金門を

出んとするや濃霧蔽ひ來り僅に燈臺を船頭に認しのみ風起り波湧き大堀君は已に船暈に惱れり余も亦夜に入りて心地宜しからずして寢に入れり

十一日夜來の濃霧未だ晴れずして咫尺を辨せず余は屢々航海し波上の生活に慣れ嘗て船暈に感じたることなかりき今回始めて此苦痛を覺ゆ思ふに數日來風邪に侵され建康優れず胃又疲勞を覺へたるに因るなるを知れり大堀君は余より一層苦痛に見へたり今余は船内の概畧を記すべし船名は「アリヤンス」と號し「ポイリツメダ」會社の持船にして噸數六百七十噸六百馬力船の長さ大概四十間古船を修理せるものゝ樣に見受けたり此船の任務は桑港より「シヤトル」を經て「アラスカ」の銅河へ往復するものにして船内の裝置乘客に使せり上等室は六室ありて各室三人の寢臺を据居れども狹きこと譬かに肱を容るの外なし下等の方は頗る廣く貳百人位も容るゝを得べしつり臺を密接し以て寢臺と爲す其外食臺あり一時に八十人を座せしむべしこれらは船の中甲板にして下層は即ち荷物を容るゝ所且其半分は機關室及水槽等に充つ船の速力は一時間に十海里を走ると云ふ船長「ハードウィーク」と云ひ英國人にして若き人物なり運轉手「ジヨンソン」なる者あり此人血氣壯にして能く水夫を御し機敏



且つ剛勇にして水夫等震慴するものゝ如し亦能く客に親昵し船中第一の役者たり下等乘客の風體は實に下等賤劣極まれり日夜食堂に群集して花を弄するか或は各所に團欒して卑賤なる行動を事とせり其言語は最も下等の語を用るを以て得意の體あるに至りては見るに堪へざるものあり斯る卑賤なる社會にても食堂に就き喫飯する時のみは當國の風を亂さず自然日本人をして感心せしむるものあり去れども屢々皿を口にあて食事を催すの狀は日本の下等社會に見ると一般なり亦彼等は不潔を事とせず處を撰まずして物品を散亂し足の蹈み所なく床上常に唾を以て濕せり喫煙は彼等が口より離さゝるもの亦嚙煙草をなすが故に二層床上を汚せり厠の如きは實に入る毎に嘔吐を催さしむ斯る下等多數乘客の場合に腰を掛けて用る厠は甚だ面白からず食事亦甚粗にして麵麭とコヒーの外マシ、ビーフステーキ、コーンドビーフ、キャベーヅ、ポイルポテトー等毎日同樣の物のみ數名の給事人ありて斡旋すれども混雜云ふべからず

十三日此日は終日船暈にて困臥せり

十三日船暈稍々輕快大堀君と僅かに談笑を催せり朝來岩石を右舷に見大陸に添て船の進行

するを知れり發程三日目の午後船はビクトリア灣に入る兩岸の風光加州と異にして森々たる樹木海濱に聳え峯巒重疊して春雪の皚々たるを見る此朝二時頃船尚ほ大洋にありて暗礁を衝けり暫時機關を停止して狼狽せる者の如く客中既に投水の用意する者あるを見たり十四日霧、殆ど船暈を覺えざるに至れり而して午前一時頃船はシヤートル市に着せり吾等朝飯を終へ携帶品を始末し船中の勞を慰めんとて市中に出でたり此市は丘陵を負へ海岸に沿ひ頗る繁榮なり先づ日本人の宿屋を尋ねんと思ひ居りしに白人其處を指導したれば直に横濱ホテルとて廣大なるホテルに至り一泊せんとを申込みしに下女出でゝ曰く主人午後二三時頃にならざれは起床せずとて辭せるを以て先つ日本人の飲食店に到り夫れより日本人の旅店に投せり此夜日本風呂に浴したり今後一兩年は復た如此風呂に沿すべからざるを想遣し覺へす快を喚へり浴後日本料理を喫したり當市には日本人千人程も入込居る由にて婦女の賤業を營む者頗る多し夫の向に余等の訪ひたる横濱ホテルは賤業婦の巣窟なることを後にて聞きたりこの時旅順丸は吾等の船と同し棧橋に碇泊し居れるを以て事務長某を訪ひ日本の食料品を得んことを請求したり然るに其數日以前他の船に衝突され修理の爲め二三

週間の滯在を要したれば分つことを能はすとてその儘去れり某曰く此船は布哇へ四百人の移民を送り當港より綿花麥粉等を搭載し歸國するものなりと異鄉吾國の船に遇ふ轉た故國の情に堪へざるものあり

十五日晴、船中の疲を癒し大に元氣を快復したり當市に在留する日本人中甘名位ダイエーの方に向て勞働の爲め出發せし者あるを聞きたり當市當時アラスカ熱の盛なりしは實に驚くに堪へたり如何なる小店と雖アラスカ行の物品を陳列せざるはなく而して其旅具亦整頓せること桑港の比にあらず品によりては桑港の半價にて購ふて得たり吾等豫め此狀況を審にせば當市に於て總てを用意したらんには大に費用を節し得べかりしを信ず亦市中の熱鬧は非常にして往來するもの毛皮を芽ち雪靴を着くるを以て意氣揚々となす亦桑港に見ざる所各所の旅館多數は此類の客を以て充され此港より北地に向て出帆する船は一日數艘を以て數ふべし當市に於ける新聞紙亦アラスカのみの記事を以て其大半を埋め居れり以て當時の狀況を察するを得べし

十六日晴、昨夜中に當市を出帆する豫定なりしに乘客百人程を增し荷物亦夥多なりし爲め

積込に時間を費し加ふるに船中處々修理を要せし爲に遂に十六日午前八時半に出帆せり乘客凡百五十人餘船中隅々に至る迄殆ど寸隙なく喧騒せり當日恰も晴天にて船は西岸の松杉を送迎し終日灣内を迂回し景色甚だ佳なり午後八時頃右舷二十英里程に電燈星の如きを見る是れバンクーバーなりと

十七日雪、船は海峽を奔りて彌々幽邃の流に入る兩岸相去る五六百間岩石兀立綠樹叢生甚だ奇觀なり加ふるに降雪樹を裝へ白鷗常に船に從ひ來り水禽亦處々に出沒し海豚の戲るゝを見る此海峽は二百五十七英里水深く大船を通過すべし處々に茅舍を見たり皆山溪より材木を伐り出して生活するものにして稀に鮭魚を漁するの家あるを見る

船遡潮流二百程　山雲島樹入眸清　寒光遙指峰々雪　漸覺新寒次弟生

終日船は長江を迂回してアレスド灣に至り碇泊せり前路危險の虞ありて夜行を恐れたるに由れるなりと云ふ右岸に村あり四五十戸土人の村落なりと又鮭の鑵詰所二ヶ所あるを認む寺院の如き建物あり皆白堊を以て裝へり會々郵便船の北より來れるあり此村落にも郵便局ありて此處に暫時停泊し去れり偶々乘客中上陸して土人の群集せる處に到り見るものあり



土人の舞蹈を目擊せりとて其奇狀を笑語せり

十八日晴、拂曉船進て太洋に向ふ怒濤山の如く乘客の多分は再び醉ひたるも余等は幸に無事なりき四方の雪峯皚々として碧空に兀立し樹木多くは梢頭に靑を止めざるは枯死して千歲骨立せるを知る此等の光景此地に入らざれは知る可らざるなり、航海中昨夜より五艘の漁船に遇へり皆ダイモンより歸れる船なり以て其如何に北地に入る人の多きを知るべし日沒前シイテヤートル號の歸るに遇ひしが夜九時頃又大なる漁船に遇ふ漁船初めに靑色の燈を點し次に赤色に變す暫くして火光數百點船に向て飛べり云ふこれ會社の信號なりと此日土人の村落を左岸に認めたり灣内々〻、ボート數艘の泊せるを見る此間兩岸狹ふして河流の如く船の進む垣途を滑へるが如し松樹深欝雪を載き浦々氷を以て封せり甲板に溜る水滴晩來氷結して歩々危險を覺ふ

十九日大雪曇、船の進むに從ひ兩岸相狹りて五十間位に至る綠樹稍々短矮となり梢頭悉く枯立す山亦兀立して氷雪是を封す九時頃左岸に漁船の岩礁に衝突し覆沒せるを見たり何號たるを知らざるも船腹半は出て後方氷に投せり二本の檣にして其船體は本船の如し觀者頓

に慘傷の念を起さゞるはなかりき余等生來初めて沈沒せる船を見る殊に斯る氷流僻遠の地に於て此狀を目擊す坐に當時乘客の悲慘を想察するに堪たりき十二時過船は錨を投して中流に泊せり蓋し航進に困難なるが爲なり間も無く大風雪を捲て來り咫尺を辨ぜざるに至る

峯頭林麓雪紛々　咫尺舟行路不分　瀰漫忽到峽開處　天邊怒浪湧如雲

此村落をメトラカトラと云ふ船客夜に入りて小艇を卸して岸に達するものあり土人二百人位住し廣大なる寺院ありと傳導者はカナダ人にして白人四五名商店を營み居れりと

二十日朝大雪を浸して進行せり風波高く航路危險を覺ふ十二時過マシャに着せり此地に郵便局ありてボーイ來り郵便を集めたれは余は野田君に宛てたる一封を托せりこゝに止る二時間にして尙ほ咫尺を辯せさる大雪を浸して進航せり午後六時頃食事終て休息せしに船頭轟然として聲あり滿座驚き立て曰く暗礁に坐せりと余も徐ろに仕度し甲板に出つれは何そ計らん船は岩石高き孤島の岸に衝突し居れり林深く岸より叢生し飛雪紛々毫も咫尺を辨する能はす船員狼狽し水夫決死して動けり然れども大船の岩石に乘上げたるものなれは如何とも動かすべからす止むなく潮の上るを待つものゝ如し上汐は午前三時三十五分なれは其間に怒濤の爲めに船體の破壞するなきやを恐れ居れり幸に風力減したれども白浪岸を打つの勢は絶へす船底を打て船體を動搖せり而して余等が今にも破壞を待てる坐礁の船内に在りて如何の感を爲すか唯だ神に此身を奉て宜しき指導を仰くの外なかりき船内常には喧囂たりし乘客も今は一心不亂に其無事を祈るものゝ如し大堀君は風邪後の疲勞によりて無心に睡眠せる狀體童兒の如し吁今夜此數時間は實に此航海の一大難關なりき既にして午後十二時頃風更りて船を岩礁より打落せり是れ神の救と云ふへし徐々進てその中流に投錨せり

二十一日晴、未明甲板に出て見れは船は南岸近き溪流に碇泊せり右岸に二三十戸の村落あり漁村にしてキクチキャシと云ふ昨夜坐礁の處より一英里程下流にあり漁村の人民は吾等の航行を見て歡呼せり彼等坐礁の船安全に進むを祝するものゝ如く船よりも流笛を以て之に應せり此日は桑港を出ていより最も好き晴天にて四方の雪峰碧浪に映して晴景云ふ可らす蛙群を成して泡沫を飛し屢々船を掠め來る土人小舟に帆掛けて大流を渡るもの二艘に過ふ土人の舟は骨て博物館に見し形の儘にして怒浪に耐るものゝ如し午後五時頃にフートラ

ンクルに碇泊せりこの地に百戸位の都を成すあるを聞く此地よりコロンダイキに進むの道を開き且つ此地方に金鑛ありて近來繁榮を成し家屋多くは新築廣大なる旅館の建築を見る寺院あり棧橋あり大船を泊すべし當時新開の地松の薪材一棚(四尺)にして十弗に受負ひ居ると云へり余等の船飲料水を得んが爲め泊せしも得る能はずしてジユーノーに廻航するとなれり航進するに從ひ松樹短矮となれり

廿二日雪、九時ランクルを去りてジユーノーに向ふ數名の乘客此市より乘船し内二名の若き婦人乘込めり船は尤も狹き流を奔れり處々に浮標ありて淺瀨を示せり數種の鴨群を爲して遊泳し客甲板に出て銃を以て慰む午後六時頃に至り海峽開けり怒濤舷を打て雷の如く泡沫甲板を掃へり余等も上衣を濕し倉皇寢室に入込めり然ども大堀氏は既に慣れ船暈を覺へざるに至る喜悅此上なし船再び狹き海峽を奔れり時恰も雪晴れ日滿ちて灣に輝けり夜來雪を被るの密林は兩岸を蔽て碧流に映し幽邃實に掬すべし孤身銃を横へ岸に沿ふて行くものあり此孤島大林の中に村落ありとも覺へざるに此人を見る船客不思議の感に打たれたり船ジユーノーに進むに從て樹林亦發育の好きを見るこれ必竟風波を受くる少きに由るなるべし

廿三日晴、朝午前四時船はジユーノーに着せり乘客競て上陸し二時半頃より室内喧騒眠らざるもの多し船は飲料水を得る爲め此港に廻りたるとなれば六時に出帆する旨告知せり余等も五時半頃船を出でゝ市街に出掛け見しに寒氷に閉ぢられし夥多の店頭は唯飲食店と酒屋を除くの外未だ開かれず只船客の往來するのみなりし客中余等は指して日本人の飲食店あるを以てせり直に至り見るに既に船客五六名卓に着き居れり日本人一人ありてこれを接待せり余先づ陳列せるところのパイ一個を購ひたるに桑港にて十仙のもの二十五仙を出したり彼曰く暖爐の邊に來りて暖を取るべしと共に至りて座せり彼即ちコーヒーを饗應し以て談を披けり聞く當市は二千五百人程の人口にして日本人は十五六人居住せり此内に二名の醜業婦ありと至る處此汚點を印せざるなきは實に痛嘆の至りと云ふべし店主の名は木村某と云ひ二人の仲間にて此飲食店を開きたる者なりと他に二軒ありしもタイユーの方へ移りたる由なり日本人にしてコロンダイキに向ひしもの昨年二人ありと内一人は松本某と云ひ白人に扈從し行けり亦他の一人は犬養某とて或る礦山師に從ひ行けりと犬養某は十月に出發せる故行路困難を感ずるならんと相語れり茲に於て初めて日本人のアラスカに於ける

狀況を審にするを得たり當市の繁昌はダイエ及クロンダイキの開くるに從て加はるのみならず此地方の礦山の中央なれば繁昌を未來に理想するものゝ如し新聞あり週刊にしてアラスカ、ヘラルドと云ふ一葉を購ひたり其代十仙これを讀てアラスカの狀況を知得せるもの多し市に寺院六あり代言人あり醫士あり齒科醫あり萬事以て辨ずべしこの地初めてアラスカ土人を視たり皆肥滿せり内に小女あり能く吾が邦人に似たり

廿四日快晴、初て太陽の海波を出づるを見たりアラスカの連峯崎嶇として銀色を浮べ波上に飄べり風なく波立たずと云へども波濤自然に洶湧して船動搖し船客再び困臥せり午後二時頃船進行を中止せり曰く機關破損せりと暫時にして再び進行を初む海上稍々暖に甲板上の結氷溶解せり此船の乘客賃は上等船客百弗にして下等七十五弗僅に二十五弗の差なり而して其室其食物取扱ひに至る迄雲泥の差あるを以て下等の船客不平斷へず

廿五日午前十時頃船海峽に入る午後四時オルカに着せりオルカは峻嶺を背にし一帶の海峽を前に控へたり此處に當般の持主ポイリング會社の鮭鑵詰所あり製造場は長さ五十間横八間の建物にして鑵詰の器械亦充備せり夏時四百人を使役すると云ふ茲に郵便局あり飲食店あり此會社に屬せるものなれども冬時は唯數人の番人あるのみにして郵便局も休業し居ると云ふ余等こゝにて郵便を出さんと用意せるも休業のことを聞き船の歸るに托することせり余等こゝに上陸樹林の間に逍遙せり樹は皆樅なりきこゝを去る東四哩半土人の村落あり

と云ふ

[illegible]兩岸西開羣島浮[illegible]落霞孤鶩追船流[illegible]於留山上一輪月[illegible]照到家園舊故不[illegible]

日沒船はオルカを拔錨しベルデスに向ふオルカを出づるの海角小島群立夕陽に浮びて風光快絶云ふべからず[illegible]

廿六日晴、午前一時半滊笛熟睡を破れり船員呼て曰くベルデスに着せりと暫くにして起き甲板に出でゝに灣小にして數英里の湖面の如し雲岳四面を擁して峻嶂削づるが如く船は陸を離るゝ一英里程の處に在り八時頃四艘の短艇を卸して荷物を運搬せしが岸遠淺にして潮水去れば泥濘深く貨物悉く泥に混するとて數艘の貨物は空しく積戻せり奚に於て船長は實地を踏査しその好場所なきを以て船を五英里東に移し結氷海面を蔽ふ所に至りやがて此處に上陸するに決し先づ貨物を下せり此結氷は數英里に亘りて處々に薄氷踏むべからざる所

あり余等の荷物は殆ど五時頃に卸したり夫れより大堀君外に出てゝ夥多卸さるゝ荷物の内より撰出し此夜十時頃漸く余等は荷物を一纜として陸上結氷の上に運び了れり氷上の奔走雪靴甚だ便にして滑へることなかりき同船中多くは氷上に宿せるものありしも余等は辛ふして船中に數時間の眠を貪れり大堀君は氷上の荷物盜失せんことを恐れ五時間の内二回巡視せり故に眠るの時間は殆どなかりき空腹に堪へずして先づ干蝦夷を喫めり然も其効なかりしものゝ如し

廿七日曇、午前六時頃起出てたれども昨夜の疲勞に空腹を加へ働くと能はず因て五十仙を晴長に出し食を得んとを以てせり彼若し少時にしてビスケット四個とコーヒー一杯とを持來る是にて滿足すべしと其價不廉なるは云ふまでもなく此の如き到底余等の空腹を充すに足らず復た如何とも致方なく夫より船を辭して氷上に出て荷物を運へり一英里程にして陸に達すこゝに樹林あり枯木を聚めて薪と爲すべく小河あり氷解くる處以て水を酌むべしこゝに運搬して場所を河岸に占め丈餘の雪を蹈み固めて爰に天幕を張り据へたり他の人々は雪を撤して地上に作れとも余輩は朝より盡に至る疲勞と饑餓とにて何も成すの力無く唯天幕を張り庖厨具を出さゝれは此疲勞を癒す能はざるを以て漸くこれ丈の仕事を成せしなり

廿八日晴、此朝は昨日來の疲勞にて殆と何も爲す能はざるに至れり然し早く薪を作らざれば枯木は他人の手に入るべきに由り先つ枯木を需め初めたり斧斤未た入らざる深林のごとなれは枯木は忽ち天幕の近邊にて集め得たり余等の天幕の前に一小流あり水乾れて甚た淺く雪封して僅に水を現はすに過ぎす人皆來て之を酌めりこの林に鴉あり鳴聲少しく故國のものと異にして形大なり小鳥あり其肉食ふべしこの海邊は泥にして僅かに砂礫を混す貝類皆無なり

三月一日晴、此日家居天幕内の仕事に從事せり

ペルデス今は寂しながら數軒の住宅を構へたり是余輩か殆と初めて上陸せしものは五英里程西に當れる處にしてゝ二軒の小屋ある樣に見受けたり蓋し余等の船も初めこゝに着したりしが沿岸泥多く荷物を上る能はざる故に此地に來り氷上に荷上せしなり林中小河數流あり樹は楢の質にて皆繁茂せり悉く落葉樹のみなれは梢影雪に落て風力加はるその對岸の山は重に樅と思はる綠樹相連りて麓を廻れりこれ等の樹類は自然に區分されて林を成せり余等の同船

者にてケイストン、パーテーとて十六七人の連中ありき彼等直ちに一軒の小屋を作り店鋪を開き衣類等を賣出せり其地をケイストン、アベニウと稱したり中々機敏の連中と云ふべし然れども彼等は遠く銅河に出で金鑛を探檢すへき目的なれはこゝには久しく留まるに非すこの店鋪を他人に托し繼續せしむるの計畫ならん

二日快晴、此日も家居して荷物を改造せりさてケイストンの連中の内クレートンなる老人あり仲々親切に余等を遇し呉れたり多數人の内には色々の思付にて種々の物品を用意し來るものありき中に最も馬鹿らしき物品は十馬力もあらんと思はるゝ蒸氣機械を持來り雪上この蒸氣を借りて荷物を運搬せんとせしとなりき計畫は面白けれとも此機械を以て一も用を成さす暫時烟を出し氣笛を鳴し居りしか其儘海濱に棄て去れり余初め材木を引割る機械ならんと心に思ひしかその然らさるを聞き一驚を喫せり此連中三十八人一團の由なるが其中亦一名の智者なくこの大損を招けり樵を持たすして新に作るもの或はストーブを持たすして天幕の外にツルシ鍋にて真黑き土瓶を温むるものそれ等の失敗者は余等のみならす余等はストーブを持たされとも烟突をも造れり唯たビスケットの類を作る能はさるのみ寢臺は余等の最も誇る處恐らくは他に此類なからんとは船の大綱にて網の如く四角の框に張りつめ其上に厚きズックを張り熊皮二枚を敷き其上へ厚き毛氈を敷きたれは熊の皮は直くに身に着くれは却て冷ゆれとも上に毛氈を敷きたれは大に暖かなりし夜衣は二枚の上等の毛氈と毛皮を上にし毛氈を下にし中に澤山の綿を入れたる一枚の重き夜具とを以てせし故臥して寒きを覺へさるなり

三日快晴一日余はペルデス山中に夫の氷山を探險せんと銃を背にし出てたり此氷山は金鑛探檢の征途に於ては必由の難關なればなり凸凹せる雪路を行く六英里溪窮り谷絶すこゝに十八の天幕を張れるあり是余等の行に先て長征の途に上りたるものなるが荷物は氷上所々に積置けり此處より荷物を懸崖三四十丈の氷上に運ぶには船用の大綱トロクロにて橇を引上るなり如此ところ數々所ありて或は五十丈百丈に至る而して地盤は盡く結氷にして僅に薄雪を以て蔽ふのみなれば結氷の變體缺裂或は谷を成し或は劒戟林立するが如く或は怪岩倒掛するが如き險峻崎嶇名狀す可らずしてその頂は僅に一歩を容るゝの餘地あるのみ上る三英里稍平坦となりそれより尚一の懸崖を越へ初めて頂上に達す余この頂に至りて流汗背

を濕せり徒歩尚非常の難路なるを感ず然るに百封内外の物品を背にし數日間この險峻を登降せざるを得ざるは其困難危險想像するに餘りあり白人屈强能く耐ふれども大半疲勞して氣息喘々たる者多し余等此險を超へんとす加養せずして可ならんや

四日大雪此日余等雪を凌て代木し且つ昨夜來泊せる漁船リヴハーに至り書信を托し歸途釣を試むれども獲ず魚群大概時ニありて灣内を回るものと見へ時過ぐれば殆ど空如たり余等が上陸の時は快天打續き何に彼に都合好かりしが本日は大雪紛々加ふるに氷少しく溶け氷上甚だ危險を覺ふ全身を雪に濕され橇を牽き來る上陸者を見る實に困難を察せられたり又同行中數日前より氷山へ運びし夥多の荷物はこの降雪の爲め多分濕ひたるべく余等遲緩人に先たゝず却てこの幸を得たり世機萬端この類多し

五日曇余大堀君と携へて釣に行く一尾を得ず僅少の時間天幕に在らざりしに犬侵入し大切のベーコン及びドライ、ビーフを竊去れりこれ余等一ヶ月の食料なりき殘念措く能はざりし余等の寢具の完全せるを見て同行者は皆之を賞せり他は多く橇を以て寢臺となしその上に毛氈に包まれ臥し或は船中より敷布團を六十五仙にて購ひ來るものありてこれを下に敷きて臥する者の如し

六日晴早起して荷物を氷山の下に運び初めたり先づ米六俵と種子一俵凡て三百五十封及上に一列の薪材を積み以て運べりこの間六英里橇重しと云ふにはあらざれど二人前後に連り牽く頗る疲る初日大に疲勞して次日用を成さゝる如きを恐れ荷物は氷山下他の天幕の片隅に積置き午後一時頃余等の天幕に歸れりそれより午飯後余は今朝來泊せる二本檣の帆船二艘を見舞ひたり皆シヤートルより來りしものにして一艘に八十人他に五十有餘人を乘せ來れり廿一日間航海せし由余一艘に至り料理人に石油の空鑵を需めしに二個二十仙にて購ひ得たりこれ余等にとりて非常の用を成すもの一は衣服其他洗濯の用に供し一は身躰を洗ふの器とし大に其便を得たり此日大堀君又釣を垂れ亦得ず購ひ來りたる石油の空鑵に尚一合程の殘油ありければ直にミルクの空鑵にてランプを作れり之より數夜讀書又は日記を作るに便せり

七日早起荷物を牽き出さんとせしに夜來降雪路なきを恐れて止む因て大堀君は氷山下の荷物に油紙を蔽はん爲め六英里の雪路を踏て行き余は昨朝着せる船に至りて復た石油の空鑵

を求めたり然るに石油罐にあらずしてコヒー罐なりし一個の價三十五仙を支拂ひたり齎し來りて先づストーブ及び煙突を造らんとせしに仲々六ケ敷漸く大塀君の頓智に由りて出來たり余は煙突を受くる下部を作れり初て小形のストーブ完成し煙突天幕の片隅より出て天幕も何となく世間並となれり且つ幕内烟の宿るなく其夜よりは充分暖を取り煙氣眼を侵すの害を免れたり且此日は偶然鱈三尾を漁し得たりこれ上陸以來の大出來なりき朝一艘の滊船來りしが僅少の人を上陸せしめ直ちに去れり海上の氷は彌々溶解し去れり

八日朝來晴れたれば直ちに荷物を牽き出せり正午に歸りて午後に又牽き出せり此日午前に滊船オキシユルシヤ號碇泊し船客三百六十人を上陸せしめたり晩來余此船に至り賄長に遇ひ一弗を出して芋殆ど五十封又パン四本及鍋一個を二十五仙にて購ひ來れりそのパンと芋は實に廉價にして意外の悦をなせりこの船昏て余等が桑港に見送りしもの今こゝに再會す意盡きざるものあり余等近來日毎に魚を獲嘗て野田君が釣糸を惠贈せしを思ふて藥書を此船に托し禮を申送れり

九日夜來降雪三尺餘余等橇を出す能はず朝鱈二尾を得たり一尾を途中にて五十仙に賣り一尾はガネガーなる白人に贈れり尚ほ晩來又一尾を得て之を賣り都合一弗を得たり以てパン及び芋の代を償ふを得たり此の地に入りて始めて二尾の鱈を賣り一弗を得以てパンを得て喫せしときの快は亦一興なりき

十日此日も朝來降雪橇を出す能はず朝鱈を得亦一尾五十仙に賣れり晩來尚ほ一尾を得て五十仙に賣れり都合二弗を得たり而して一尾をフレッド、キンベルなる人に贈れりこの人及其一行等頗る親切にして余等が米國人民に非らざるを以て漁業其他の權利を得る能はざるの不便を想ひ勸むるに其歸化人たるべきを以てしやがて余に歸化願書を認めくれたり余は一時の手段として此を諾し歸化願書をば次の便船を俟つて出ずとせりアラスカの府廳はシテカに在り知事をブレディと云ふ日本人がアラスカに歸化するとは恐くは余が初めてなるべくその許可を得るや否やは知らざれども兎に角出願せしなり

十一日朝橇を出せり此日晝頃ケー、ストンと云ふ醫士來り余等が鱈七尾を干し置きたるを見て驚けり此人年若き醫者なるが中々親切に余等を過し呉れたり余釣を終へ氷上を歸りしに上汐にして氷上水漲り雪を浮流して路を辨せず而して氷は數百の上陸者陸續斷へず荷物

を運ぶなれは何時しか裂け或は一間位或は數間に破れ居れり偶余は數尺の裂けたる氷の上に足を置きしと見へ片脚倏ちに氷と共に海中に沒し攀上る能はす白人來りて余か手を引き漸く犬事に至らさりきそれより釣に出つるを怖れ初めたり

十二日朝來橇を出せり午後は寢床の支柱などを作り犬堀君は荷物を改作せりさて當地に於て麥粉一俵五十封其價七弗なり桑港にてはもと一弗五十仙のものなりき大概の食物衣類は桑港の三倍以上又日雇は一日六弗(我國の十二圓)なり多數の旅行者中上流の人もありて此難路に堪へ難く勞働者を需むれとも皆各自荷物の運搬に苦み居れは更に應するものなし中には無一物にして唯勞働を以て長途に進まんと上陸せるもの數名ありて孰れも善き主人を見出して已に隨行せり若しこの氷山を越ゆる爲めに特に其働きを營む邦人を招きてこゝに在らしめは莫大なる金を收め得べし然れともこれ本年雪中のみの豫想にして次年は銅河如何に形勢を變するや知る可らざるなり或人は此行に驢馬を牽き來れり先きに十弗位にてシヤトルに買ひ入れたる者なりし由なるが運搬上頗る其便を得たりと又多數の犬を携來りて橇に着け牽かしむるあり一犬能く百封位を牽くべし三四犬を連綴して四百封位も牽せ居れり元來アラスカ土産の犬は大にして力あり

ダイエーの邊にては能くこの犬を使用せる由なるか銅河の方には未た此の便なく皆携來れる小犬なりし

十三日晴午前橇を出せり午後は橇を手入し大堀君は荷物を改作せり晩來林梢鳴渡りて風起れり人々皆驚怖す傳言ふ氷山春に至りて暴風吹き渡り雪を飛し谷を埋むるとありこの時に當り若し山谷林なき夫の峻險三十英里の間にあらは唯雪中に葬らるゝのみ故に土人等も此を怖れて雲中旅行するものなしと亦海氷漸く融け初め潰裂して海に流るゝを見る

十四日朝來二臺の橇にて出てたり昨夜來より風起り居りしか朝に至りて增々加はり劒の如き連峯より電光の如く靡く雪は殆と噴火山の烟の如く路は埋り橇轢りて進む可からす余等の先に數臺の橇出てしのみ殊に數十間も後れなば雪に路を埋められ頗る難儀なりやがて一臺を途中に置き一臺を二人にて牽き初め漸くにして達せり先つ齋す處のビスケットを喫し歸りて中途に置きし橇を再ひ引出し晝頃復氷山の下に達せりこゝに天幕を張る恰好の場所を撰み置きしに何時しか人來りて占領し居れりそれより一段上に移るとし場所を見立て八天幕に歸りしか午後三時頃なりしも幸ひにビスケットの爲めに疲を感せすこの日余等の

如く櫂を路傍に棄てゝ其まゝ歸りし者多く見たり而して余等は兎に角前方まで搬ひ終りしは頗る大出來なりしを知れり天幕を温め久振りにて身體を浴せりシヤートルを出てゝより初めての浴なりければ甚た快なりき

十五日曇朝より櫂を出せり余等は明日天幕を移さんとして何に箇に繁忙なりき大概めものを運ひ置き唯天幕と寢具等のみを殘し置けり

十六日快晴朝天幕を疊み二臺の櫂にて移り初め漸くにして氷山の下に至りそれより峻坂を越て二段目に至れり而して三段目の昇り口にて數十の天幕ある其一隅を占め先つ雪を搗ひ土臺を作りこゝに天幕を張れり今度は天幕の柱及ひ凡て寢臺の柱など迄用意致したれば以前とは打て變り體裁宜敷く室内も大に廣く見へ萬事都合好き天幕住居となれりかかる住居も日增に慣れて天幕内に休み居るのが如何にも樂しく感ずる樣になれり午後チルコットと云ふ滊船着したり五十人の上陸者ありたる由なり氷溶け去り上陸の不便を感ずることと知られたり余がアラスカ知事へ願ひたる歸化願書もこの船にて行きしことと知らる

十七日晴余等二臺の櫂にて舊棲の處へ行き薪木を積み來れり且つ室内の方付けなど致したり大概の白人余等と同船せざるものは余等を目して土人となし途中色々當地のことなど聞けり或は一日幾金にて働くやなど殆と土人として疑はず余も大堀君も殊に土人に絶似せり土人は日本人と同樣の面相を持てり余が穿ち居る草鞋はこの間違の一原因となり居れり彼等白人は草鞋など見たることと無くよく之を說明して初めて了解し大に草鞋を望めり若し余が注文せる通り日本より數千の草鞋を持參し居らば一時に數百金を儲け得たりしなり余は防寒の爲め髯を去らざる故半面髯を以て蔽はれたり髯亦余をして老へしむるものと見へ多數の白人等大堀君を余の子息と見做し之が爲め屢々一笑せしことあり余等兄弟なりと稱し居れば彼等相似たる處ありとて確信するものゝ如し蓋し人種の異る人相を見分ること六ケ敷く余等も初めは皆百人が一樣の顏を持つ如く見覺へ付かざりきこゝに一人の土人ありて旅客の爲めに勞働せしが其面貌實に日本人に絶似せり余等若し自ら土人なりと稱せば彼等白人は少も疑はざるべし

十八日晴朝來氷山の下より天幕の處迄荷物を牽き上げたり僅々一英里半位の坂なれども雪路段一段と引上ぐるは頗る難儀なりき殊に上り口正面の大氷塊其狀危石怪巖の如く處々倒

崩の痕ありて日の暖かなる時には破烈の聲響き渡り危險云ふ可らず今はその直下を通るものなく其傍をのみ通れり外に一通路あれども多數組合の者のみこれを占領し長き船繩にて櫂を引上げ居れば余等はこの通路を借るに由なきなり本日は漸くの事にて悉皆運び終り余等が晝食を喫し居りし際地震ひ山鳴り初めたり訝りつゝ靜に考へ見るにこれ或は氷山の溶下せるものならんと思はる或は地震かも知れず余等の天幕は此大氷山の中腹にありて背後は即ち氷塊山なりその危險云ふべからず

十九日晴朝天幕を去ること數英里の處に伐木に行けり此地方の林は樅と楢樹の類のみなるが樅は灣の南岸にのみ青々として北岸は落葉樹のみにて寸青なく數千年其儘なる樹林枯木亦多し多數の人爭ふて枯木を伐るにより今は近邊に枯木を得る難き樣になれりやがて一本を見出し伐り倒せり爲めに午前半日を消し舊の天幕の場所に下り殘し置きたる薪材を積みたりそれより小河に鰛の如き小魚を看たるを以て之を獲んとせるに唯一尾を得たるのみ聞く一週間前この小魚河一面に群り居り容易に數百尾を獲られたりし由なれども今は殆ど取り盡せしとならんチルコットなる船は數日前着せしが岸淺くしてこの地に着する能はず對岸に着せりそれより人及び荷物を小漁船にて運べり總數六百人を乘せ來れる由盛なりと云ふ可しされば最早余等が着せる以來二千人近き人數はいづれも探檢を目的としこの數十英里の氷山前後に在りて苦難の旅行を成しつゝあるなり

二十日雪本日は日曜日なれば休息すべしとて朝六時迄眠れりそれより空曇く天幕の内に起臥するも本意ならねば前日の處に小魚を獲んと心掛けたり而して歸途には薪を積み歸ちんと櫂を牽き行けり既にして小河に至り見るに上汐の時節なれば小魚海より上るべしとて待てども見へず漸くにして十數尾を得たり余は此小魚を餌とし大魚を海に漁せんと釣を試みたれども近海皆泥にして目的を達せず小河の邊に立て辨當を喫し早々歸路に就くアルコット號の上陸者陸續荷物を運べりこの降雪の最中船より上陸し雪中住居をするは如何にも難儀に見ゆ余等の上陸せる時は最好時節晴天にして氷上を滑りたり此日テイ、エドワードナル夫婦者の天幕を訪ふて余等の郵便ものを托したりこゝには郵便局無く唯郵便物を此人世話し呉るゝのみ爲めに五十仙を拂ひたりこの地に於て此人商店を開き夫のケーストンの小屋に移る旨話せり他にも商店を設かんと小屋を造るものあるを見るこの夏に至らばこの

地は二の便利なる町とならん四弗十仙を支拂ふて無花果の乾したるもの二十五封を購ひたり余等此行些少の果物なく大に渇し得たればなり今にして最初充分果物を携へ來るべき機會を失ひたるを憾あり

二十二日雪二臺の橇を牽き伐木に出掛たりガネガーなる夫婦者は弱質勞働に堪へざるかの如く切に余等の援助を頼みければこの日二臺の橇にて一回丈け其運搬を助けんと約し余等彼等の處に行きしが彼天氣惡く橇重きを以て明日に延したり婦人は此の時ビスケットを作り居りしに余等がストーブを持たすビスケットを作り難きを知りて九個を與へたりそれより辭して林に入り前日伐り倒せし大木を截り初めたり雪降り風寒く全身雪に蔽はれたり大堀君は上衣を穿たざる故下着迄濕へたりと大に寒氣を覺へたり畫になりたれば彼の九個のビスケットを出し乘て用意し來れるパンケーキとを喰ひ指先を溫めながら停立したりそれより膝を埋むる雪を踏てガネガーに頼まれたるテントの棒十二本を伐り僅かの薪木を橇に積み歸れり雪路橇重くし困難なりなせり漸くにして氷山の下に至り橇を輕くして歸り先づ桑港の知友に贈る書信を認め次の船にて出すとせり先日漁獵に出掛け一小河流の對岸に一本の樅を見出せり雪を踏み分け樹下に至り其枝を伐り持歸りて戸口に樹て置けりこの氷山三十餘里の處一本の樹木なきにこの一小綠樹との見榮へなれ通行人毎に歡呼して曰くクリスマス樹トリーと中々に愛嬌者にして亦日夕吾等を慰むる四面皚々たる氷谷の一綠樹たり

二十三日晴夜來雪積ること尺餘風起りて働きに出掛くべからず因て共に天幕の雪を掃ひなどして潛居したり午後よりは氷山下に積み置きたる薪木を運び出せり然るに風增々加はり山谷は鳴動し雪を捲散し平垣砥の如き平地も丘岡となり峰も岡も瞬時にして谷となり變幻萬狀なる劔戟林立せる如き四方の山項は捲揚ぐる雪の爲めに噴火山より繁き煙の噴出する如く一望の慘狀バルテス山谷の壯觀と云ふ可し氷山の片隅に點在せる余等の天幕はこの暴風に漂はされ小さき三角形の屋根は斷續波を打て手製の煙突を調子よく打鳴し煙出しの小窓は風に吹き揚げられ飛雪躍て室内に散せり温度は大概華氏の二十度位なれば室内に在て左迄寒氣を怖るゝに足らざれども余等は雪上露天同樣なれば屢々烈寒に苦められたり

二十三日晴大風昨日より吹き續き何事をも爲す能はず午後林に入らばやと試みしも中途より道なく空しく歸り知人の天幕を訪ひ珍らしきアップリコットの煮たるものを馳走となれり

余等果物の用意少もなくこの類のものを味ふ實に云ふ可からざるの味あり若し最初に注意せば果實の如きはタンベルの農場にて得たるなるに大堀君と後悔話をする外なしこの知人の居は氷山の下なるが其近傍に今朝誤て人を射撃せるものある由を聞けり或る天幕内に一人銃を持ち遊びしに銃丸突然出て隣の天幕を射通しその内の人の肱を通されたるなりとその始末は聞かざれども負傷人に對して憫然の至りと云ふ可し亦其朝一人の病死者を聞けりそれは余等の天幕より少し高き處に天幕を張れる四五人組にして年も五十以上の人の由なるが北米合衆國ミチガタ州の産にして三人の小供と妻を家に殘し置ける由この人久しく病に罹りて旅行にあり四五日前より病床に就き遂に昨夜永眠せし由なり午後葬式おりて人々見送りければ余も見送れり氷山の下少しく路を曲れる處に埋めたり其場所は溪の入口にして劍の如き嶄岩の聳えたる寒山は寂しき雪と氷とに封ぜられ氷の瀑は結て青白く高き崖壁に懸り僅に雪を出で〻亂れ見ゆる灌水はこの墓地の四圍を守れり實にこの地に在りてこの所に臨む心膽慄然として云ふ可らざるの感あり見送る人二百人程にて或人聖書を讀み讃美歌を唱へ式を終へり

二十四日晴夜來風定まり朝に至りて晴れ渡れとも前日來の風雪にて路なけれは余等は氷山を下るを止め氷山を昇れり而してこの日か初めて氷山に荷物を運び出せし日なりき橇は到底及なけれは背に負むととし一個つ〻負ふて杖をつき一歩登りては半歩退き一英里半位の處へ運へり一日は九回往復せしか大に疲を感したり夥多の荷物は山上にて雪に埋められ處を知らざる者あるやに聞けり

二十五日本日はガチガーの天幕を氷山下に移すに付き補助する爲め三時半に起き食事の支度を爲し早朝出掛たり晝は同君の處に晝食すべけれは念入れて辨當を作れり昨夜中に無花果を好く煮たるものをつぶしこれを以て粉を蒸し殆と菓子の如く作りそれに先日購入れ置きたる唯一の珍味牛肉を燒き漬物を用意し同人の眼前に喰ふて恥しからざる晝食なりと思惟し氣込みて行きたるに豈計らん天幕は取去て其影もなし故に歸路薪木を運び氷山下に來りて人に尋ねたるに同君は昨日移轉を終りし由なりき此日桑港の知友に宛て一書を出せりベルデスにて馬數頭を見たりこれ此地に於ける馬を見たる始めなりとす馬の飼料山の如く持來れるは用意好きに似たれとも此飼料を携へて氷山を越すは容易の事に非す例令飼料を

運ひ得るも馬足果して此險を越るを得れや至難なり三十英里の間一樹一草の生する無き雪溪たるを知る者稀なり故に此通路を以て容易なりとして其用意なき者と見ゆ余等も其一人たるを免れざりし灣頭流船着し居れり九十五名を齎したりと云ふバルデスの林に入る毎にその地の漸次市街然となるを認む本日亦飲食店の設けあるを見たり唯天幕を張り戸口に食事店と書けり奇利を營むもの聞入し來る

二十六日晴本日は朝より氷山第三段の處に荷物を運へり一昨日の如く九回運へるがこの働きに慣れざる余等は肩の重きに堪へざりき殊に當日は風起り氷山の上を飛ひ廻りて四面を蔽へり草鞋は革靴に比し滑らす且暖にして輕し余等四足つゝ長き草鞋と二つの短き物を用意せり其一足は鞋の底自然長大となり余が足二つを容るべし初めその鞋の膨れて歩行し難きに氣付かす何故余は大堀君より足の運ひ遲るゝやと氣を揉み居りしかその自分の鞋底を見て一驚せり其大なること仁王尊の足に適合すべき樣に見へたり斯る靴にても余等二人の外凡ての人に於て新奇の品なれば或は近つきて之を撫て見或は質問し人毎に稱し合へるなり二人の日本人と云ふ事は大概の人に知れ渡りこの草鞋は亦直ちに余等を表示せり草鞋を齎せるは余等の大出來なりき大堀君は中々強健余の及ぶ處に非す余は進ひに常に大堀君に遲れ亦大事を取りしなり若き大堀君は中々の血氣にて爲めに雙方折中する故甚た好し余等完全なるストーブなし故に蒸燒きは一切出來ざるなり他人のパンなどを見る毎に食慾起る窮、極まれは奇智の湧くものにて色々と工夫しビスケットの如きパンの如き饅頭の如き奇妙なるものを作りて口を滿足せしむ一體斯るところにありて日々難儀を重ね歸りて天幕に入る食慾の高まるに驚けとも何も食する物なく多く食せは食料は欠乏を恐る

二十七日快晴朝より四回氷山の上へ荷物を負へると前日の如し日曜日なれは天氣の宜敷きにも關らす休息せり斯る無味の氷山上に在りて尚ほ日曜として休息するは無限の快樂を感するものなり去れとも薪木を作り寢具を乾し殆と暮内に閑居する時なかりき日曜は安息日として米人能く守るの習慣ある故この日午後に至りては旅行する人も稀れなりき大堀君はガチガーに薪木を與へたる者を案内せん爲め午後より行けり而して同君より二弗を薪代として與へたりとて持ち來れり余等曾て大なる枯木を仆し澤山用意せるも餘分に覺ゆれは之をガネガーに與へしなり同人はこれを以て充分の薪木に充つるならん余等か持ち來りたる

熊の皮を天幕の上に乾しけるに通行人目を注きて皆驚き語れり蓋し米國にては熊の皮甚た高價にして通常人の用意し能はざるものなればなり當日余等か襲きに乘り來れるアリアン號着せるやに聞けりベルデスには大概四五日隔に滊船若くは帆船にて客を乘せ來る

二十八日雪本日荷物を氷山の上より遠く十三英里半の處に運ばんため朝六時に畫食を携へ出てたり路は兩山の間を始終昇り進むのみにて少も降る處なしこの十三英里半氷谷にして其氷上埋雪の路を登るなり十英里頃にて空腹となり冷汗のみ出て足重くして橇を牽くと能はざればこゝに喫食し尚は三英里余を行きて次なる氷山に衝當れりこれを第二の氷山と云ふその下に數十の天幕あり又天幕建立の跡もありければ此處に余等の荷物を置き歸れりこれより數英里に亘るのとゝろ岩石氷山の上に盛り上り殆ど大洪水の跡を見る如き狀ありき而して嶄岩を以て成れる兩側の山少しく谷を成せる處は皆玻璃塊にして奇觀名狀す可らず此日常より少々荷物も重く雪降りければ殊に疲勞を感じたり路に或人雪の爲めに眼を病み少も見る能はざるものあるを聞けり余等は始終青眼鏡を放たず幸にこの患なけれども萬事注意すべきとにこそ余は身體冷へ指先知覺を失ひ一向用を爲さずズボンのボタンを掛ると出來ざれば用あるときは大堀君を頼みて其用を便せり此時は殆ど手の無き人の如し列寒當地の如きに來るには宜しく血氣の若者と俱にすべきことを感じたり

二十九日雪朝來二臺にて次の氷山の下に荷物を運べり風激く時には十間先きを見透すと能はざるに至る氷山の下にて畫食せしが飛雪食物の上に落ち來り寒增々加はり一喫總身慄然として水に入るが如し歸路人の語るあり日本人三名最近の船にて上陸せりと余歸宅後行き見ねと思ひ早く歸れども疲勞に堪へず止めたり午後三時頃より雨交りの雪となれり雪路益々惡く若し晴天結氷するとなき時は荷物を運ぶと甚だ困難ならんもはや四月近くなりたれば余等の旅行も急がざるべからず融雪當日の如きに至らば通路の危險大なりと云ふ可し歸りは三時なりしがそれより一盃のコヒーを煎て之と一握のクラカードを喫せりこれ此疲勞に對する無上の快樂なり時に鏡を出し余が面を看るに銅色に染められたる頰に一寸程の髯一面に生じ妙に肉着き桑港を出てたる時の相は少しも無し實に土人と誤らるゝも無理なち ぬ事なりき余は兎角脚力も健ならず屢々大堀君に一籌を輸せり然し腕力も躰力も一體に增りて健力なる如しこの寒氣の烈しき飛雪の間指頭痲痺して不用となるにも少しも意に關せ

ざる丈け習慣となれり大堀君は寒氣に堪ゆるに於ても余より強し一向平氣の如し

三十日昨夜より降り續きたる雨は尚ほ未だ晴れず天幕漏る處あり幸に日本より取寄せたる油紙二枚あるあり此等を以て其場所を蔽へり元來余等の天幕は三角にして九十度の傾斜に手製せしなれば充分なる角度にて降雨には雨を防ぐべし殊にズイク厚く容易に漏り難し實に斯る狹き天幕の内にあり方數尺僅に膝を容るゝ處にして雨に漏られなば苦痛甚しきものなるべし實に防雨的に我等の天幕を作りたるは幸甚なりとす他の者を看るにズイク薄く角度寛にして定めて雨の漏るゝ處多かるべし當日は路惡く且つ降雪止まざれば余等は休息せり而して昨日の話の日本人を見んと思ひ朝來二人にて朝飯を用意してバルデスに行けり然るに全く虛言なりき好曲の徒此地に多き恐るべし余はオルカの郵便局長に端書を出し余に宛てたる書面あらば廻送すべきを依頼せり初め柏氏よりオルガに宛て余に新聞紙を送るを約せり而して其オルカと當地とは大に遠隔にしてオルガに書面來るとも當地には來らざるなるべしこれ等を廻航する郵便船ありとも數週間を費すならん余等は例の谷に入りて小魚を獲んと試みたるも唯一尾を獲たるのみそれより食事店に入りてコーヒー一盃を飲みたり

一人分十仙を散財せり小なる一盃のコーヒーと一切のパンのみ然も此地にあり食事店に入りて一盃のコーヒーを飲む又無上の快樂なりきこの食事店は老あたる夫婦にて東部より來りたる者の由天幕の内に之を營み二室の内は寢室とも臺所とも座敷とも混合せり一食は五十仙の由數多の品を供ふを見たり

三十一日朝二臺の橇を牽て出てたれとも四英里の處より路なく昨日來の降雪は全く路を埋めたりき陸續として來る橇車は或は止り或は中途に乘を歸るなど路の開くるを待つものの如し余等も橇をとゝに乘てゝ歸り午後より背負ふて氷山の上に運べり一體米國は物品を竊盜する者尠く且つこの地に在りては各々注意して多少公德を辨へ人の物を盜みとることは爲さず時に路傍に遺失せる品あれはこれを見易き處に掲け置き掠取するものなし所謂道遺ちたるを拾はざるの風あり故に余等も大切なる品を載せたる橇なれとも之を路傍に委して歸れり或人袋金を遺したる故拾ひ來りし者には二十五弗の禮をなすと廣告せしものを見たりき此間若し人の品を竊まんとせば誠に容易なるとにして十數英里の路傍無數の荷物點在し中には荷造りの粗なる爲内部の物品自由に引出し得るか如き觀あれはなり余等の荷物

は白人の荷作りと違ひ堅固に作りしものなれは一見之を辨知するを得べきなれとも充分に荷置き場に注意し居りしを以て幸に初めより一の紛失なく今日に至れるなり

四月一日曇朝橇二臺にて出てたり第二の氷山の谷に入る寒風雹を交て吹き拂ひ堪ゆ可からす例の如く橇を椅子となし雨衣を背にして寒冷となりたる晝食を終へ凍れる水を數滴喉に入る時全身の寒冷殆んと耐ゆ可らす恰も好し相知る白人余等を招きて天幕に入り暖をとるべきを以てせり悅てこゝに入れり彼の名はセー、ダブルリウ、スタックウィーザーと申人にて加州サンタババラの人なり彼曾て余等の天幕に來りしときコーヒーを與へたる者その報酬として余等を招きたるものにや中食を用意し種々馳走して余等に與へたり去れとも人間は容易に心を許すべからす、毎日曇天日午暖に雪路挽橇甚た苦む人々通行を急けり

二日雪を凌ぐ橇二臺にて出掛けたり例の如く第二の氷山下に至り雨衣を頭より蔽ふて喫食せりてゝに至る迄に一回即ち十英里位にして何か喰はされは能はさる故毎日僅かの物を用意しその處に立て食すこれ亦大なる慰となれり歸路土人三人白人に雇はれ第一の氷山を橇率くを見たり立て其人を視るに丹本人に少しも違はず或は支那人かとも疑ひたり彼等は何處より來れるや知らずと雖も矢張吾等同樣の洋服を着け居れり英語に通ぜず柔順なる土人白人の奸徒に騙使さる後日彼等も奸智なる人間となるを免かれざるべし一體彼等の慾は食慾が重なれば甘き食を與ふれば賃金なしにも働くならん土人今は四人となれりこれより漸次白人の下に働く土人の增加するを知る

パルデスの詩あり

仙源何處問通津　白雨皚々寂寞濱　遐境從來無客到　一詩先著日東人

三日大風夜來風起りければ余等運送を止め休日とせり恰も日曜なれば安息するも好かりきこの邊の氣候實に惡く雪ならざれば風となり雨の時は最も好き勞働日なり若しそれ風に遇へば咫尺を辨せざる程紛々たる細雨に圍まれ路を失ひ歸る能はざるに至る風最も怖るべきなり余は幕中にあり米菓子を作らんとて火を作り居りしに煙幕中を去らず午前を通じて苦みたり爲めに眼大に病み開く能はず珍らしき米菓子を唯涙を拭ひ乍ら喰へり午後に至り二間先きなる人顏を辨ぜず元來雪の外一物無きこの谷に在りて常に雪眼鏡を離さずと云とも眼力漸々弱くなれり然るに今日の煙に苦められたれば今後は甚た注意すべきことにこそ大

堀君も病めとも余の甚敷き如くならず白人の中には殆ど盲目となれるものあるやに聞けり
先日の雨と毎日の雪は薪濕れて乾くの間なく火を焚くは第一の難事なりきそれに衣類衣具
凡ての物寒き爲め腐敗し臭氣を放たざるも濕て氣味惡く更に幕内寒冷を感ずるを覺え依て
火を焚き室を溫めければ床下の雪は融て蒸發し致方なし今此日記を書く眼鏡無きと方明
ならず
四日昨日來の風と雪とにて路無きを知り本日は午前七時に出發し五英里の中途に荷物を卸
し一日二回こゝに運びたり午後よりは近來に無き晴天となれり余の眼は昨日の如くならざ
れども朦朧として十間前の人を辨ぜず中途に亦この類の病者あり彼雪眼鏡無き者と見へ赤
きハンカチーフを顔の前に垂れ屢々腰を屈して休み殆んど進む能はざるの狀態は如何にも
憫然たると同時に余も斯る愍然者たらざるなきかを恐れたりき山より歸り持參し來れる眼
藥を以て今夜より充分治療を爲さゞるべからず大堀氏も病めとも余の如くならず實に眼の
惡きは斯る旅行に在りて苦しき者にこそ
五日雪三臺の橇にて二回五英里の處に運べり例の如く眼は朦朧として少し隔りたる人を辨
ず可らず歸りて眼藥を再び用ひたり昨日よりは余程快方なりきクレートン馬を購へり百五
十弗なりと而して毎日一束一弗づゝの草を與ふその失費知るべしこの雪中に目の光線を避
くる爲め白人等は眼下に鍋墨を塗れり殆ど眼鏡の黑玉を見る如くせり大堀君は屢々これを
爲して功あるを云へり余は一度も試みず何となく體裁あしき思あり
六日晴明日は天幕を十二英里即ち曩に余等の荷物を半分置きし第二氷山の下に移さんと用
意し先づ日用止む無き品のみ殘し餘は盡く五英里の處へ運び午後より他に運びたり余の眼
は少し快方なりきガーネガー復天幕を移す爲め余等に手傳ひを需めたり一時承諾せしもこ
の氷山を越ゆるは實に容易に非ず余等自分のものさへ無事に運び得るやを期し難ければ遂
に謝絶せり午後三時過ぎ余等はパルテスに至り例の書信が來らざるやを見んとて行けりパ
ルテスもこれにて見終りなるべければなり而して明日てんとを移すには午前中未明より働
かざるべからずそれ故此行は無理なれども五時間を費して行けり然るに手紙は一も着せざ
りき今やパルテスも日に增繁昌し天幕の數は減ずれども飲食店二軒も出來其他に店も殖へ
たり余等食事店に食事を爲すは最早此限りとし一弗を拋て食事店に入れり少し時間に遲れ

たればとて一時謝絶されたれども頼みたれば殘物らしきものを調ふて出せり生の人參にて作れるスチー豆の煮たるものハムの煮たるもの胡瓜の漬物位なりそれも此郷にありては無上の御馳走にて喰ふと馬の如く人の二倍も喰ひ殆ど卓上殘す處無かりき余等の健啖を見て老夫婦は唯茫然其顔を見詰め居るのみ歸りて明日の用意など致したれば午後十二時に寢に着けり余が先に呈出せる歸化願は到底許可なきかと思はる書面の配達取扱ひ所の如きもの二軒出來たり一封の書を銅河に運ぶに一弗なりと云へり余の處に桑港の知已より送る書も一弗をとらるべきか

七日午前三時に起て食事し天幕を疊み出發したりこの氷山を登るに橇を以てしたれば中々難澁余は横腹を病みたりそれに日高くなりたれば路惡くなり殆ど困難の内に荷物を運び上げたり三度上りたれば已に十二時過ぎとなりたりそれより荷物を二臺に積みたるに熟れも二百五十封はおりたれば橇重くして進み難く到底十三英里の處に達し難ければ途中兼て余等の停止すべき所に運び置き漸く行程五英里の邊迄人の移轉せし跡へ陣を搆へたりこの夜は吹き通しの野粗なる大幕の中に橇を寢臺として寢に就く疲れて臥せしとなれば寒さも夢中にて一霄明せりこの近傍今は一住者無く淋みしければ銃を柱の下に用意したりきこゝにこの疲勞を治せんと僅に殘せし二個の鷄卵を出し煮て食せり實に珍味舌を鼓したり桑港に於て用意し來れるグラッカリッパ、シ、會社より五十錢出しくゞ物半俵買ひたるものなりしが殆ど一ヶ月以上毎日余等を慰めたりき此郷にありて食慾の進むと共に何に彼に甘き物を欲し堪へざるなり故に二人の間に談話開くれば先づ日本の餅とか生菓子とか歸國せば如何に此等のものは甘きやなど最も好き慰め話なりき

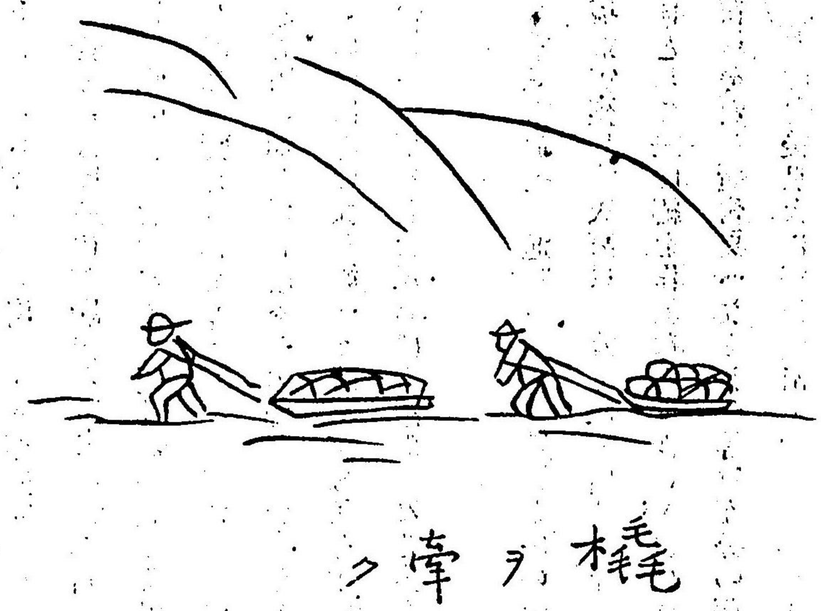
八日晴早朝亦一夜宿の天幕を片付け十二英里第二の氷山の下に進めたる荷物は昨日の通りに重ければ隨分疲れたりそれに一昨日來の疲が出てたれば氷山下に着して天幕を張ると隨分困疲せり今度は雪を深く堀りこの下に天幕ありと云はんばかりにせんと殆ど一丈も深くせり故に大に風を防ぎ寒を凌ぐに足るべし大澤氷の上なれば其寒きと甚だし今後は薪木最も貴重のものとなれりこれより薪木を採らんとせば十七英里も歸らざれば到底得べからざるなり購はんとせば恐らくは一把一弗一梱二十五弗以上も價すべし余等は充分間に合ふ計算にて用意し置けりこの余等が天幕を張れるは坂の中腹位の處なりこれ實に第三回目の天幕

なりき而してパルデスを去る十九英里位ならんこの處の山は大概氷を以て低き處に充され岩石然たる青き透明の氷を見るの外一木無く一鳥の吟ずるなし唯時々鴉ありて旅行者の食物を掠めんと飛廻る

九日朝大堀君は一人にて氷山上の荷物を運び余は五英里天幕より運べり大堀君再び歸り行きて五英里天幕より運べり隨分難路なりき路にラシャーに遇ふ氏はアリアン號上陸者中最も進みたる者ならん今や湖水の濱に達し居ると其從者云ふ湖水尚ほ結氷氷上行くに好し早ふ來れと彼等パルデスに行くものなりき余此地に入りてより鼻水出で殊に働きて難儀を覺ゆる時は知らざる間に鼻水髯に垂れて口に入れり大堀君も亦然り

十日雪日曜日なれば近來の疲勞を癒せんとて午前には充分休息しそれより食料品の不足せるものなど荷物より引出したり且つ御馳走を作りて體を養ひたりき午後晴れたれば余等は五英里キャンプに行きて荷物を運べり余尚ほ疲勞に堪へず睡氣のみ催し來り午後の働き最も大儀に感じたりき路にキャベルに遇ふ氏も既に林地に達し居ると氏曰く頂上より十五英里にして林地に入る林多くして薪材に充てりと午前余は馳走を作らんと思ひ火焚きせしに午後眼痛甚しく殆と失明せしものゝ如し十體余等はストーブを用意せす故空油鑵を以て手製せしとなれば烟常に室内に充てり火を焚かざれば寒氣に堪へ（第一）す火を焚けば烟に忍ひす畑出しもありその他に排煙の口あれとも烟は思ふ樣に去らすこれ眼病の一原因なりき

十一日雪朝三臺の橇にて一日に二回行き夫の五英里半に置きし荷物を悉く十二英里キャンプ即ち第二氷山下へ運ひ（圖）たりこれより頂上に進むのみにして後を顧みるとなきに至れり余等はストーブ無しに色々工夫しビスケットも出來



たり燒鍋の上にドウを作り其上に火を置けは上等のバスケットも出るなり亦饅頭は余等の得意の料理にして此饅頭に砂糖と醬油を着けて食ふとは唯一の御馳走なり其味云ふ可らす夜間睡眠中に在りて髯の上に露の上るとは實に氣味の惡きものなり毎夜此露か睡眠を妨けたり亦洌寒の夜天幕を圍める氷ば殆と鐵を叩くが如き響をなしてピチピチと鳴渡るこれ結氷の聲なり山谷雪融て氷雪萬丈の上より墮落す聲雷の如し近日屢々この聲を重ね余臥する時は頭に帽子を裁き足には厚き毛の靴下を穿ち肩には毛の衣を纏へり時々懷爐灰を用ゆれとも濕り居るか故に火好く保たす大堀君はこの類の防禦なし大堀君は一體温かなる方なれは無くも凌き得られたるなり

十二日大風朝新たに進路に就かんとしたれとも暴風雷を捲て進むへからす殊に余等の天幕は第二氷山の下にありて所謂吹落の場所故一層飛雪烈しく天幕は一丈も深く雪より下に在りしも風の爲めに動搖せり止むなく本日は休日として或は繩を作りなどせりこゝには薪材は最も必要にて一棚二十五弗以上も價すべし薪材を賣る廣告見へたりき余等は充分の薪材を用意しあれは安心して火を焚き寒を妨き居れり晩食後眼大に病む涙出て開くへからす早々寢に就けり

十三日風雪人行絶し亦幕内に蟄居する外なし閑臥眠を養ふに好しとは云へ火を作らされは寒凌くへからす火あれは烟充て眼癒へす苦みの中に唯寒を守るのみ枯木三四本これ雪上の床なり書を見んとせば眼痛む暖をとらんとせば薪材の欠乏を恐れ寢床に入て臥するの外なかりき小便も寢床の下に便し盥嗽皆座して為す躊躇身を動す處なく肱を曲くるに苦む然れとも心神北極に飛て寒山萬里を翱翔す亦旅中の困苦を慰むるに足る

眼界茫々無寸青　氷山雪壑路崢嶸　齋來樅樹一枝綠　慰籍天涯孤客情

堅氷形山岳千尋碧玲瓏移居雪深處淺處怕烈風

十四日大雪夜來余等の天幕は雪に埋められたり而して昨夜は却て風を防きて暖なりき朝余等の埋められたる天幕を埋り出し四方の雪を取除き午前中を消費せり日午雪尚ほ止ます本日迄三日間蟄居するに至れり食も進まされはコンミール、マシ又は米の粥を食し薪も節して焚き居れり今日は眼病大に快しこれ烟の室内に減したる爲めなるべし眼瞼脹れ頰も一體に脹したる如し總身あかの着たるためか何にかの源因にて顏の脹れるものか大堀君も脹れ

居れり一昨日より鹽豚を重に喰ふことにせり一體余等の食物は油質稀少なれは從て寒を感する故鹽豚を一日に二回つゝと成せり白人はペーコンの外殆と肉類無きかの如く澤山にペーコンを食し居るを見る休日のことて遊び居りても食慾止まず今度はパイを作れり例の無花果を煮粉を僅少の豚の油に混し空鑵の上にて伸しビスケットを燒くと同じ方法にて煮きたるに仲々よく出來たり是アラスカに於ける第一回のパイなり此傳手にてやれはパンも出來れともパンは種なけれは作り難し雪上肱を曲くる丈けの天幕内も色々の工夫ありて此旅客を慰むるは亦妙なりと云ふ可しパイは甚た好く出來たりこれ必竟氷水にて粉をねるに因るなるべし

十五日大風雪大堀君は二時に起き三時に朝食し四時頃より樏二臺にて先づ第二氷山の上に運び初めたり僅か半英里百封づゝ積み五回行きたる頃強烈風起り雪降り咫尺を辨ぜざる大暴風となり總身雪を以て蔽はれ鵠の如くなりて歸宅し早々盤居を初めたり未だ箱類を運ばざりし故閑に乘じ箱を開き藥類などを檢したりしに箱は皆濕りて藥の効用書も僅に認め得たればそれより火を焚き之を乾し或は書き直し別の箱に移して多少濕氣の浸入を防ぎたりき

余等の荷物雪でさへも濕氣浸入せざるなし若し雨來るあらば如何に防禦すべきかと案せらるそれより余は火を焚き居れる爲め大に眼を痛めたり今やこの日記を書するに眼朦朧として分明ならず或人喚ふあり薪を賣らざるやとこの四日間の暴風雪人皆薪によるの外なし而して用意不足の者は殆と凍死を免るゝ數歩若し余等にして薪餘裕あらば一束數弗を獲たるなるべし余等の今回の幕居は餘程風致ある雪屋にして戸口に正しく五尺の雪垣を作り二つ割の薪を並へ中ごろに例の愛嬌ある青々たる樅を飾れり稀に通行の人之を見てあゝ日本人なりと喚ふ亦一興ならずや

十六日大風雪あり

萬仞氷摧風勢狂　動搖山壑響雷碩　幕中征客悄相對　坐擁毛衣談故鄉

午後少しく止みたれは第二氷山の上より樏二臺にて進み最頂上に上れり然るに途中より大風雪となり咫尺辨ぜず且つ雪路僅にあるのみにして樏甚だ重く曾てなき難澁に出合たり初めての路ゆへ五英里の處なるも十英里とも覺へ五時間を此行に費し歸りは遂に六時半となれり余等逆上の氣味あり唇裂け血出すること毎日なりき思ふに雪溪青色なき爲めか或は雪

氷を飲む爲めか野菜の不足にはあらざるべきかを疑へり[illegible]
十七日朝五時半に出で矢張終日雪の内に二回頂上に運べり歸りは六時頃となる毎日雪と風とに慣れて最早雪中に働くも苦しと成さず指動かす能はざるに至るも平氣となれり實に習慣は貴きものなるかを知れり[illegible]
十八日雪朝五臺の橇にて前日の如くに運べり毎日疲勞すれども故日記を書するに暇なく且つ甚だ六かしく感ずるなり大抵歸りて日沒に食事を終れば已に八時に近し若し少く暖をとる長ければ九時過ぎとなり十時となる而して翌朝三時には大堀君先づ起き余は三時半頃起きるなりこの難路におりて食事充分ならず眠も亦足らざれば身も魂も地へ難きなり大堀君は極めて健康强忍なり余の及ぶ處に非ず余も三十歳位迄は頗る强忍決して働きの上に於て人後にあらざりしが今となり此の難に遇ふ少しく身の老ひたるを覺ゆ若し大堀君に更ゆるに羸弱者と同伴せんにはこの行は其目的を達する能はざりしならん余は大堀君を得たるを甚だ幸福とせり同君は艱難に於て決して不平なしこれ當の美事なりき[illegible]
十九日昨夜少敷く遲れて眠に着きしと思ひしに既に十一時となりぬ今朝早く幕外に呼ぶ者あり日本人の天幕は何處なるや昨夜は通霄話し明かせり云々と惡口をなせり余等少しく遲く眠りしと思へばはや已に人に惡口さるゝに至る寢食に安せず孜々働く此の類なり[illegible]



二十日晴、本日は天幕を移さんと思ひ朝來雪上の居所を方付け九時に牽き出せり荷物一重ければ少し殘し置き中途に用意の晝食を喫し二時半に絶頂に達しそれより登て同船者の居りし跡の雪穴を少しく修理しこゝに天幕を張りたり實に本日は晴天にて暖なり」

（圖）

二十一日、早朝より頂上に運び初めたり大堀君は先の天幕の處に殘せし物を牽き來ら

んとて行けり然るに其荷物案外に多くして殆ど二百五十封を越ゆ大堀君之を糸て又々彼の難路を登り來れるは實に驚き入れり若し余ならは一英里を出てざるに其儘棄て歸れるなるべし白人と云ども此の荷物を運ぶは二人を要するならん大堀君の力試しこそ一樵にありき扨又余は五十封づゝ背に負ひ頂上に運び出したりき此上は四分の三英里あるが余等の處より急にして直線の路なり一歩一歩足踏みありて此處に上るべしこの朝寒氣烈しく寒暖計十五度なりしが頂上は十度位なりしならん顔の皮も縮むが如く覺へたり殊に頂上に近けば吹落しの風烈しく人々皆鬚を氷に封ぜらるさてこの頂上はバルデス、ハアスの絶頂にして二千尺以上あるべく此よりバルテスの綠樹を望見すべきなり第一氷山に天幕を移せしよりこゝに三十五日毎日荷物を運びたる此の難路は頂上より一望すれば一躍して渡らるゝ計りの一溪谷に過ぎず而して日數を費すこと此の如しその難路たる推知すべきなり

二十二日晴、暖なる日なれば久しく濕氣に込められたる夜具類を乾したり明日は此處を去りて頂上を越へ十四英里を下りて樹林地に移らんと計畫せり此の頂上の下は實に物凄きと筆に顯す可らず第二寒氣十五度或十度に下り一も凍らざるものなく今日迄無事なりしものも皆凍り初めたり種子の馬鈴薯も圍ひ蓆より露出て居りしなれば或は氷凍せざりしかを心痛せり若し夫切の種子をして凍らしめば當夏は饑に叫ばざるを得ず大堀君は血氣壯にして曾て懐爐を用ゐたるを無きもこゝには余の仲間入りをなし毎夜之を用ゐ寢るにも帽子を脱するを無かりき斯るところなれば一日も早く此場を去らんとて夫に奮登せり第一食物が宜しからざれば働くべからずとしてベーコンも三切れ位づゝ食ひ初めたり辛勞すれば空腹になり易く米も粉も餘程多く消費せり而して益々空腹となれり俗に謂ゆる饑鬼腹とも稱すべき程となれり何に彼に喰へたけれども何も無く唯加州や故山の美味を想起するのみ漸くにして荷物は大概運び上げたれば明日は漸く豫て望みたる樹林地に移ることゝなれり

二十三日、此日も稀れなる晴天頂上にも風無き暖き日なれば神の導きは常に余等の上に豐なるぞと勇んで朝二回に天幕寢道具などを牽き上げ一樵を殘したり頂上に晝食を喫せしが曾て昨夜豆と無花果とを用意せるとて實に美味なりき殊に今は此頂上を難無く越ゆると思へば二層悦ばしく二度の分の食物は一度に食ひ終り飽迄食ひたりき跡に薪林少しく殘りしが賣らんとするも若し賣れざれば棄つるも惜しく寧ろ夫のグレートンに與へんとて彼に

話したるに大に悅びたりき三十英里半青色無き處に於て余等を慰めたる一樅枝も彼れに殘し置き別を告て去れりそれより頂上を下りしに峻坂極急にして飛が如く甚だ危險を冒す九英里程下りて平地に達せり其處に雪を穿て河水を酌むあり余も四十日餘にして始めて一杯の河水を飲めり稍々行けば岩上に樅疎々として立てるを看たりき吹き吹かれて樹梢縮み殆ど支那の畫圖にあるが如く頻りに大野君の畫を想起せりそれより十二英里のキャンプの場所に至る小流山を廻て數多の天幕山を背にし樹梢繁く殆ど村落を見るの光景ありて其快樂言ふべからず大堀君は故郷に歸れる想ありと叫ぶ實に三十八日間一樹無きこの凄然たる寒溪難路を渡り今や無事に頂上を降りて此の樹林地に出て河流を看る殆ど蘇生の思ありて、に於て初めて神の惠の深き加州の如く故山の如く到る處人類の生息する處には慰籍の多きを知れり余は十三英里半キャンプの處に至りて天幕を下さんとせりこゝには樹林多く薪材充分なればなり已にその處に至れば樹林の間に天幕の點綴するを見る路より一丁程入りて此林に入りたりそれより場所を撰み林樹の梢開ける處に天幕を張れり用意し來れる薪を出して火を焚きコーヒーを作り先づ神に感謝してこれを飲みそれより寢臺を作りなどして夜食せり

二十四日晴、本日は再び頂上に荷物をとる心算なりしも前日大に疲れたるに特に日曜日なれば休日とすべしとて休み朝八時頃起きたりしが實にバルデスを出でゝより復た無き安息日なるを喜べりこの樹林は大概樅にして斧斤曾て入れられざる處なれば薪材多く甚だ便なれども河流は一丁程離れたる路に沿ひあればそこ迄酌みに行かざる可からず然れども四十日間程實に名狀す可らざる險惡の地に暮せし余等の生活今此樹林地に入る四方の眺め一として心を慰めざるはなし雪上樅の小枝を敷き天幕内の床は青枝を以て蔽ひたりこれ一は眼を癒し空氣を好くするに足る且つ靴のまゝ居るも暖にして實に故郷に歸りて爐邊に暖をとるの思ありたりき余詩あり大堀君亦發句あり

五旬漸越氷山頭　林外始看溪水流　移幕鳴禽翔翼處　雪深風穩宜小留
爐中薪足鄕話細　還有鴈聲牽旅愁　此地固無火跡到　彷彿千古武陵遊

此地にて初めて聞ねる雁の音

二十五日、早朝二人にて絶頂に殘し置きし荷物を運びに行きたりその麓なる一樅を牽き上

げ積み來ちんとせしに昨夜頂上に非常の風にて余等の荷物は全く埋められたりきそれより知人の鍬を借り雪を堀り初めたり風雪强く吹き拂ひ手足凍るが如し通行の人其名をカーラントンと稱する者余等の苦痛の狀を見兼ねたるにや懷中より嚙煙草を出して余等に與へたれば余は其厚意を謝し一口之を嚙み其小片をその儘余の懷中に收めたり後ちに考ふるにこれは殘りし分を其本人に返すべき禮なるに心附かずして失禮せり然るに余は嚙み煙草なるもの初めて口にせると故其味を曰へ嚙み樣も知らず嚙て其汁を咽喉に降せし爲め寸時にして心身醉が如く足蹣跚として定らず一時その爲め寒氣を覺へざるも身體倒るゝ迄に醉へり

それより胸惡く直ちに大病人の如くなりて倒れたり去れども荷物をこゝに棄つべきに非れば大息しながら五百封を積て下れり途中實にかゝる苦楚を感ぜしことなかりき屢々大堀君に助けられ漸くにして九英里程の氷山の峻阪を下りそれより平地に至れはその儘二人にて橇を棄て歸れり余はその處に吐瀉し苦痛に病みたりき歸りて直ちに臥したりしか平日身に餘る激働を爲すより一時に疲勞を感じ食氣もなく睡れり大堀君大に心配し大切に藏せし四五個の鷄卵を一つ煮て與へたりき是れ此地にありて無上の美食なりとす鷄卵は凍て石の如く決して腐敗せす之を煮れは凍らさるものと異るなし多量に持參せざるを遺憾とす

二十六日　昨日の疲れにて余は橇に出つる能はす朝食後も寢臺に臥したりき而して氷山下の平地に昨日棄て歸りし橇は大堀君午前と午後と二回にて牽き來れり午後余は稍々病氣回復したれは薪林を作りなど致したりき樅の林は皆大なる古木にして枯れて其儘に倒れ居るもの亦少なからす曾て余か信州輕井澤にありし時此の如き枯木を以て薪とせり今又此地に樅を焚き座ろに當時の狀を想起せり輕井澤當時開墾場として頗る不自由の境遇にありしもこの天幕の內雪上に床するに比しては尙ほ天淵の差あり余等曾て逆上の氣味にて屢常に裂け出血せしか此地に入りてより大に薄らきたりこれ慥かに綠林の空氣然らしむると信せらる綠無き處には動物存在す可からす而して余等は四十日間寸綠無き谷に苦勞せり今日の悅知るべきなり大堀君一首あり

荒凄むパルデスパッスにひきかえて綠うれしきレッキレジョン

二十七日　雪、昨日より降り續て止ます林中響き渡る頂上の慘狀推察すべし定めて余等の荷物も雪中に埋沒せられしならん大堀君は洗濯を始めて終日を費せり五十日以上一度も洗は

す其儘着流せし吾等の衣類は垢に染み顔や手首の邊一種の色を成せりその衣更へたる心地の好きと言ふ可からす洗濯を天幕の内になせり其の法方ははげに石硷を塗り余か曾て車隊に在り日の如くなせしか旅行にありては此方甚た便方と思はる余昨日疲て仆れたる爲め大々余の狀態を大堀君に問ふ實に當國人殊に此境遇に在りて互に慰籍の念ある感心の外なし余等休み居るも餓鬼の如く空腹を告げて堪へざるなり砂糖は大に喰込み粉も同樣なれば今後少しく節約する樣互に話したり慰むるものは食物のみなりとするこの境遇にありて食込みの爲め節約せんことは頗る苦痛に堪へず唯共に故郷の食物の話をなし歸國の曉飽迄喰はんと一笑に附する外無きに至る午後二ヶ月目にて沐浴せり天幕を暖め充分暖にしたる爲せしなり其氣分の好きこと言語に絶へたりき頭髪より肌に至る垢の出ること甚し互に身體の輕きを覺へ悅び合へり粉も一俵を空ふし米も一俵を空し終ちんとす二ヶ月間にしてこの二俵とロール燕麥二十五封と他に粉半俵ほど食せり少し喰ひ込みたる如くなれども今後は彌々喰込むべし激働に於て致方無きなり

二十八日、此日も風雪にて行く能はずこの處天幕を動し林末を渡るの風聲烈しければ頂上は大風雪にて荷物を吹き埋むるや推して知るべしこの處は實に吾郷の三月雪中の如く頂上は輕井澤の酷寒の如き差あり本日大堀君二ヶ月半目にて頭髪を刈れり余は風邪に襲はるゝを怖れて止めたりその後直ちに風氣にて臥したりき余の身體の弱さには自から呆れ居れり而して大堀君の强きは以て頼むに足れり余の眼と頰は髪との間より顯れ居るのみ殆ど北海道の土人の如し蓋し當地の土人は髯無し余はレモンの半切れを熱湯に入れて飲めり之れ無上の藥なりき尙ほ數個の凍れるレモンを殘し置きたるこそ悅しけれ午後馬鈴薯を開き見しに豈計らん悉く凍りて殘りしとところなし僅少なる葱は凍らざる如けれども如何か未だ知れず是れ頂上に二三日止め置きし爲めにして致方なかりき藥にて充分に包みたるところ少々腐れされども外部に顯はれし處は腐れて黑し五十封の種子これ余等耕作上尤も望を屬せしものなりしに種子悉く棄つるに至る遺憾限りなし種子の凍れるものは今より毎日の食料に充つべきのみ

二十九日、朝雪少しく晴れ加減なりしかば大堀君は二時半に起き余等四時半に出掛けたり三英里程にして風雪亦吹き來り溪谷一面見る可からず余等今一回の荷物なれは大概の暴風

に耐ゆる覺悟にて外套及ひ食物等皆用意盡せしが此風雪には頂上に上ると到底能はさるを知り中途より歸れり此日余等の外荷運ひに行きしもの亦皆陸續として數十人中途より歸れり余等の居所なる林に入れは林末只風聲あるのみ余等は此好地にありて烈寒を知らす薪の欠乏する憂なく唯一回の荷物か頂上の雪中に埋沒しあるを心配するのみなれとも頂上の下にある人々は此の風雪に封せられ薪欠乏し動く能はざるもの實に推察に餘りあるなり朝來出て行く時に或る天幕の跡にブレッドの厚き一切を拾ひたり此地にあり一片のパンと雖其價高し然るに米國人は一向に心を用ゐす能く棄抛する者あり大堀君殊に拾ふに妙を得或はコンを拾ひ板を拾ふ時々不意の馳走に與るとあり殊に板の箱は便甚し第一釘を獲その板は青葉の上に敷て座となし亦雪上丸木を腰掛となす荒涼に病みし余等の眼は大に好く余の如きは早朝なれば眼鏡を用す行路すべきに至れり大堀君も余と同しく快方せりこの處には薪十分にして人々天幕を移す毎に殘せるものを棄て行けり之を拾ふて山の如し今や十五英里隔てる頂上に一束の薪幾弗の價するを思はゝ如何そや

三十日雨、早朝又頂上の荷を運はんと試み例の腰辨當を要意し出掛け行く數丁一の天幕ありこの處の人昨夜風定りたれは十二時に出て頂上間近に至りたるに風雪路深き數尺唯今空く歸れりと早朝戸口に立ち嘆息致し居れり余等も之を聽き行て空く歸るを詮なしとし湖水の方へと進まんと直ちに立歸りて荷作りし二人にて進みたり初め湖邊迄行く心算なりしが途中人の話には十六英里あるを確め一日の行程に六ヶ敷且つ夜來の雪にて路僅に通する位なれば樵從て重く六英里キャンプより一英里先に荷物を卸したり此に到るの路は大概溜れたる河底にして雪深きは六七尺もあるべし處々河流の氷上を横斷して行けり内に氷融け路殆ど斷せんとするところあり多分一兩日中には此の處通行を斷つべし人々之が爲め進行を急ぐもの〻如しされども余等は頂上の荷物を運ばざれば幾日滯在するも此處を動く可らずこの溪谷を行く風色丸で北越の山家の如く處々の林は村落あるかと訝かる樅あり柳あり故山の感念座に浮べり歸路大堀君キャンプのある跡にて粉の袋の殘れるを拾ひ粉二食位を得たり大堀君は二年前本月今日桑港に上陸せる紀念としてウドンをこれにて作らんと腕前を奮ひ大に不時の馳走を得たりき人の殘棄せるものを拾ふは卑きとなれどもこの地にありてはこれらの利を得る又不可なるなし粉は一封二十仙にも價すべきなり午後雨となれり行

路雪解け歩すべからず若し強雨とならば六千人一時に歩を止むべきなり唯恐るゝは湖氷の解け去らんことを

五月一日、昨日よりの降雨未だ晴れず風且つ之に加ふ雪融け路益々悪し余等本日も進行する能はず因て幕内に蟄居し糸捻りを成せり始終路傍に注意し屑糸あれば之を拾ひ來り貯ふ蓋し後日銅河に出でなば網を作りて漁せんと心掛けたればなり今より休日毎に之を業として日を消し得べし大堀君第一テンパー、キャンプを見廻り又糸及豆クラッカーなど拾ひ來れり且つ旅行の知己ケーストンの天幕を見舞御馳走に預りたる由その話を聞て余の舌を鳴さしめたりその跡へ書狀を運ぶを業となせるジャクソン來れり此人はノルウェー人にて十八年前米國に渡り桑港におりし由なるが四年前當地に來りそれより當地の己に適せるを悦び既に土人の妻を娶りて居住し居る由彼云ふ昨年ニークスサイドに行き千五百弗の砂金を獲たりされども銅河に金有るを知らず土人の金を作らざるは一向土人が金の何たるを辨知せざるに因る故に多少或場所に金あるべく斯く人々を勵せしは新聞屋の手なりと彼れはルデスより始終郵便を銅河に運び三通多分五十仙を得べし五千人の書信を取扱ふ彼れの所得大なりと云ふ可し余彼れにコーヒーを供し種々質問をなしたれども彼れ永く留らざるを遺憾とすその質問せしと下の如し

土人は何を最も好むか？

茶砂糖クラッカー、煙草酒を呑むを嗜む常食は魚と肉とのみ

土人の數は幾人？銅河附近の地味如何？

大概五百人位のものならん銅河近傍には林あり草能く成長し氣候好し實に好土地なり若し馬鈴薯等を作らば充分成功すべきを言へり且つ曰く夏は四ヶ月間にして銅河漲水は七月なりとす又土人の船は細木を組み合せ獸皮を以て外部を包めり而して獨木船は作らざる由銅河迄は此地より七十英里餘なりとて彼れ筆記せる地圖を示したれば余之を寫したりき

五月二日月曜日、本日は兎に角頂上の荷物を見る爲め行かんとて出立せり充分頂上に達する路無きを疑ひたれば麓迄到て樣子を視んとの考なれば中食の用意も匆々に仕度し出掛けたり此日少しく晴れたる故百人餘の人々は皆頂上に向て己れの荷物を氣遣ひ列を成して出掛けたりき余等も之に從ひ麓より思はず上り始めたり雪路僅に通じて空橇と雖も頗る困難

を覺えたりき頂上に達する三英里の邊より路無く積雪二三尺を踏み分け先者は路を作り後者は之を修め百人一列となりて峻嶺を上る鴻雁の白雪を銜くが如き觀あり十歩にして休み五歩にして止る漸く午後二時頃頂上に達せり途中荷物を置し所は棍棒を樹てゝ目標とせしにその目標沒して荷物を見出得ざるものありたり扨又不思儀にも頂上には數多の天幕ありき何故極寒の頂上に天幕を構へしやと近き見しに是れ前面の麓より急に移轉せしものなりし聞けば頂上及び其麓は非常の風雪にて曩に余等が天幕を張りし處などは一夜に一丈二尺も降雪しその隣りの天幕には二人住し居りしが此雪に埋められ出づる能はずして死去し他の六人は大怪我の中に堀出され助かりける由若し余等一日天幕を移すを延ばせしならば慥に此の連中に加はるべかりしに神の導は常に余等の上にあるを感謝せり扨又余等の荷物は何處に埋められたるやこの頂上も十丈位の降雪路を夾て積み列ねたりし夥多の荷物は皆雪中に埋まりて少も辨ぜず又その上に天幕自在に搆へあれば以前は路の何處なりしか余等の荷物は那邊にありしかその方向も何も一向知れず茫然として立ちたりきそれより頂上から大概距離を見計ひ多分此近傍ならんと其週圍を立廻り或は神に祈り或は考へたりし若し吾等こゝに荷物を失はゞ今より差向き餓死する外なく僅少の粉を殘せる外凡ての食物こゝに埋めあればなり余が少憩の中に大堀君は其位置を見廻り居れり然るに大堀君はホー、ベー會社の記號ある一の小箱を堀出し居れる一行を見たるに彼等は汝の荷物はこの隣りならんと注意しくれたれば如何にもホー、ベー會社なるものを記臆し居りし故直に鍬を入れ雪を除きしに箱に觸れたれはそれより余等手製の繩を見出したり茲に於て初めて余等の荷物なるとを認め喜悅に溢れ感謝に滿され余も其時には實に蘇生の心地せり慘憺たる頂上の此光景も余等の心中は花鳥に醉ふが如く唯喜びの外無かりきそれより悉く堀り出したり空腹を告げたればこゝに殘しありしクラッカーを出して腹を盈し勢を付け此の場を去れり余等此の日中食は頂上に至らざる前に食ひ盡し荷物若し搜し得ずんば饑ゆるも亦食を得るなかりしに此の幸を得たりこの荷物と共に二本の枯木ありき之をクリストン會社に與へんと思へ探したるに余等が荷物の直く近くに彼等の天幕と人とを見出したれば直ちに之を與へしに彼等の悅一方ならす以前與へし薪にて此回助かり且二個を尙ほ殘せりと若し余等の與へし薪無かりしならば彼等は此暴風雪數日の間火無くて酷寒に堪へざりしならん此暴風雪に火

無くして凍死せるもの火なくて食物に窮せる者比々皆然らざるなし或は天幕を風に裂かれ或は潰され荷物を失ひ薪を埋むるもの或ば焉を仆せしものなど其惨狀はこの旅行中の最大難事なりしならんこの間幸ひに余等は林中にありて唯降雨に閑日月を送りしのみ嗚呼主の手は如何に感謝すべきかな余等此頂上を下り平地に至れば既に夜の十時頃なりし故こゝに橇を棄てゝ歸宅せり寢に就きたるは十二時なりき斯る疲勞も荷物を容易に見出せし爲め其悦に失せたりこれにて頂上の荷物は悉皆運び盡し再び頂上を言出し案ずることなきに至れり

三日火曜日雨、昨日の疲勞にて午前は休み午後より棄て置きし麓の橇を運べり昨日はもはや頂上に到らざるを期し少しく無理にも多く積み下りたれば本日は一橇を二人にて牽き歸れり途中路甚だ悪く漸くにして天幕に歸りしは五時頃なりしか一人の白人余等の天幕に來りて告げて曰く我れ本日湖畔に到りしに途中氷融け通路氷の爲めに斷絶するところ多く且つ夥多の荷物は各危險なれば人々之を山手に避け移せり依て云ふ汝等の荷物もあるやと余等曰く七哩半キャンプの處に置きしなり彼れ曰く甚だ悪き場所なり今より早々行きて見さるべからずと茲に以て余は昨夜の疲勞未だ癒へず漸くにして本日も働けることなれば大堀君一人にて行くに決し余は直ちに辨當を作り大堀君持ち行げり空腹は何處の場合にても余等を苦むる故なり六時過ぎに大堀君は天幕を去れり其の所に到りたる時は九時過ぎなりき余等の荷物は水の灣曲して流るゝ處より僅々一間半を隔てし處に雪消て積み置ける荷物潰れ散亂し居れりとその他夥多なる荷物は皆山手に運び去られ余等の荷物のみ若し今夜經たるなら夕ば水中に沈沒さるゝ程に瀕してあり大堀君の喜は一方ならず之を山手に移し先づ用意の食事を爲し居りしにその傍に天幕あり人呼で來り暖をとるべきを以てせり大堀君行きたるにコーヒー等の馳走を受けたりと歸路に就きしに月光寒溪を導くと雖も雪路白くして辨ぜず殊に河流路を斷ち二三ヶ所ゴム靴を浸し水足に入り或は水上に倒れ或は雪路を失し漸くにして家に歸りしに十二時なりき其困難殊に先日來の疲勞を以てす若し余ならば必ず疲病を釀せしなるべし大堀君の强壯なる余の因て此の至難なる旅行に耐ゆる所以なり

四日水曜日、昨日の疲れもあれば余等九時頃起き一橇殘せし麓の橇を運べり通路日に悪く砂礫現はるゝ處あり絶頂より天幕を移せし者比々續けり途中橇に怪しき包を載せ來れる者

ありこれ死體にして昨日暴風雪に倒れし者ならんと思はる余等の天幕の隣に嚢に麥粉を余等より借りし同船者二人ありしが近頃見えず彼等は屢々人の荷物を運び賃金をとり居れり或は此の二人の仆れしにや氣の毒の至りと云ふ可し若し彼等過慾ならず己の荷物のみ運ばいこの暴風雪を知らずして湖上を渡り過ぎしならん人世斯の如くその何れに歸着するを知らずと云ども先づ危險を避くるは冒險者の余等にとりても第一の注意なりとす路傍日本米の棄てあるを見る大堀君之を收めたり米は此地にありて非常に貴きもの白人等一向注意せず若しそぼせばそれ成りに棄て去る亦無頓着と云ふ可し余等は之に反し大に節約且つ棄却せる物を拾ふて屢々得るところあり

五日木曜日、朝六時に出で夫の曩に置きし七英里キャンプの處に二橇にて運べり然るに通路前日の比に非ず路凹凸して橇も碎けんばかりなり且つ重くして地上を滑る如し或は薄氷を踏み碎て兩足腰丈けに水中に入るあり或は水に入り一々荷物を橇より落して之を運びなどすると數回平日なれば一時半に行くべきところ既に六時間を費せり而して尚ほ七英里のキャンプに達する能はず漸々路惡く橇一歩も進む可らず止を得ず路傍に棄てゝ歸れり余亦空腹を告げ殆ど歩を移す可からず中程中食をなす晝食後アーモンドト菓子を披き互に味ひたりアンモンドはダンベルにありし時毎日に倦きたりしに今餓えたる此塞溪にありて之を味ふ實に言ふ可からざる味あり今日は曾て無き難路に出遇ひ語る能はざる珍味を以て慰めらる神の余等を惠み給ふ感謝すべきかな歸路になれば雪彌々解け處々ぬかりて通路行く可からず蓋し余等の通路は皆河流の上にして日に增々融け行く雪は處々に岩を顯はし居れり故に午前に通りても午後は流れとなる其危險日一日に加ふ人あり湖畔より來る多分己の荷物を融雪の爲め失ひたるものにやバルデスに到りて食物を得るなりと且つ曰く誰人も未だ通行せず唯其塲に留り居るのみその日余等の通路に橇を運ぶ者數人あるのみなりき昨日拾ひたる米は今より粥餅となし互にその慰めに與からんとす

六日金曜日晴、最早午後に至れは雪解け一歩も進む能はず依て唯晴れて凍る時を待ち進行するの外なきに至れり然るに行路は從來幾多の小川に跨り居る故雪融け川顯はるれば一英里半英里或は數丁にして川を渡るの苦難ありその深きは三四尺淺きところは荷物を橇より卸し一個づゝ背にして渡るを得べけれども深きに至りては到底渡るべからず中には氷流れ

て下部にありて其上を渡り淺さが如くなれども屢々穴ありて人之に陷るとあり故に平日の路なれば一時間に達するところ五六時間もかゝる路は皆深き穴と凹凸とを以て作らる橇は唯余等の力によりて進むの外無し中には破氷路上に滾轉し其足を取らんとし僅に路傍の枝を横へて其上を通ずる處ありその危險言ふ可からずされども一歩にても前進し置かざれば後日尚困難の出來るを案じこの難路を急げり天幕を取り惡き場所は進退に窮する者あり或は唯天幕を移して己の荷物をその場に運び得ざる者あり余等は此朝二時に出て辛ふじて五英里の處に荷物を卸せり途中の困難は非常にして僅か五英里にして六時間を費せしなり歸寨疲勞甚し

七月土曜日晴、午前三時に出てたり夜來寒かりければ雪凍て何處も橇を滑すべし余等本日到底五日の路は陷落して川となり通すべからざるを知り新に路をとらんと期したりき行く亞英里婦人の組ありその婦人余等に語て曰く汝等此先を進む能はず我れ荷物をこゝに置き新に路を作らんとす汝等もかくせば互に助からんと余は默せり初めより期せしとなれば直ちに路を他に向て林の内に進めり人の曾て進行せざりし處なりき幸にも路の陷落する少く



或は川ありて流れ居れども僅の場所雪尚殘りて橋梁となり余等を渡せり二時間にて五英里の處に到り一回も河流に妨げらるゝこと無かりき實に神の導きは吾等の上に常に絶えざるを感謝せり余等此通路をとりたるを見て人々跡より陸續として來るクーストンの連中も見えたり其五英里に達せる時は快云ふ可らず歸りに亦天幕の跡を見しに夥多の殘物棄てありたれば例の通り之を拾ひたり此日は午前六時半より休息し大に氣力を養ひたりき斯の如く天幕毎に屢々獲物ありて余等を慰むる又奇なりと云ふ可く米人が節約の心なき笑ふ可きなり毎晨二時に至れば東雲既に曙光を漏し五時に太陽山上に出づ夜は九時に至らざれば暗くならず五月七日にして然り夏に至りて終日晝となる左もあるべきを信ず人あり余の處に來り語て曰く我は曩さの日暴風雪の爲めに絶頂に於て盡く衣類を失ひ唯衣着せる外一物なしと實に其時衣類のみならず食料を失ふもの多かりき而して吾等は一物の失ふ無く平穩に今日に至る感謝の外無し

八日晴天日曜日、昨日にて荷物は五英里の處に運ひたれは本日は天幕を七英里の處に移さんと午夜十二時喫食し河上雪の凍るを待つて出掛んと用意したり然るに夜來少しく雪降り

疊りたれは凍結柔かにして歩行す可らす又眠に着き午前五時に起きて通路を視察せり或は一英里山手に路を作りて茲に移る者あり或は他の方向に路を作るものあり各々先を急きて行くものゝ如し依てその便路を見歸りて直ちに天幕を疊み余等午前七時頃にこの場を去れり路を林にとり行くこの路は昨夜を通して作るものありて今朝余等に便せしものなりきされとも矢張氷雪柔にして屢々陷落を免れさりき行く一英里半位小山あり此路絶つ亦進むべきなし因て余等もこゝに留り林に入りて天幕を張れり蓋しこの夜を宿して明朝その凍るを待つて進まんとするなりこの處に四五の天幕あり人々相待て午後より路を作らんと議し而して余等もこれに加はれり余等は雪踏器不完全にして用をなさゝれば又他に作らんとて作業せり午後に至るも路作りの人誘へ來るなし天氣の模樣明日は晴天故凍ると見做せしにより余等は日曜として此日を休み得たり大堀君雪踏器を作り余は明日の辯當など調へるならん余等は日曜として此日を休み得たり大堀君雪踏器を作り余は明日の辯當など調へたりき實に此の旅行は困難にして時日を費すこと著しく風吹けは進むを得す雨なれは凍らさるを以て進むを得す僅かに進行の時期は晴天にして烈寒凍る甚き午前一時頃より八時頃までのみ人々船を作りて今日より銅河に出てんとすされとも材木は唯樅の小なるもののみ且つ河瀬尚ほ淺し余等か望む七英里キャンプに至らば稍々瀬河の深きを得べきか

九日晴月曜日、夜十時過きに起き十一時喫食し出發せり此朝はやゝ凍りたれば難無く七英里キャンプの場所に着し先つ天幕を張る可き地形を一覽せり蓋しこゝに舟を作り長く淹留すべき見込あればなりされて天幕の場所は岩を以て成れる丘にして上に樅の林あり東南を廻るの溪流滾々さして氷を流し溪開き山遠く風色甚た佳なり其丘上に陳構せり天幕を張りつゝ早忙として働ける時に一人の白人チャーレーアンダーソンなる者ホープマン、バアーテに屬しウイスコンシン州の者なりとて歳の頃二十五歳位の男來り朝來十八英里第二の湖畔より來り甚た疲勞且つ衣裳濕ひ殆んど困難なる故願くは一泊を天幕内に助かりたしと嘆願せり其人相の柔和なると氣の毒のことなれは之を諾したり彼大に悦び樅の葉を伐り來り其上に熊の皮を貸して臥せしめたり彼れはバルデスに至る者なれば幸ひ一書を認め桑港に出さんと晩食後疲れを押して匆々書き初めたり蓋し第一の氷山に於て書を認めたりしか當時最後の書と致したりき故に其後の狀況を認めたり一書を出し五十仙を手數料として托するは當時の通慣なれば余等金の代りに米食を饗して厚く彼れを遇したりしに彼の滿足一方

ならず彼れの出立する時二十五仙を出して彼れに馬鈴薯數個をバルデスに得來るを托せり
余等の馬鈴薯氷山の絶頂に於て腐敗したれば其種子を得んと欲せしなり
十日火曜日晴、早朝三英里の處に殘し置きし夫の荷を取り來らんと出掛けたれども雪柔に
して進む能はず中途より歸れりそれより天幕内を修理し休日とせり大堀君は鳥網を以て雀
四羽を獲來り類無き美味に慰められたり鳥網は六七年前日本よりとりよせたるものなりし
が今日に至りて非常なる助となり今日より小鳥のある處屢々美味を以て慰めらるべし小鳥
を喰ふはアラスカに入りてより今日が初めにて殊に悦むかりし丘下に天幕あり其一人來り
て余に頭髪を刈ちんとを依頼せり余快く諾し彼れの頭髪を刈れり彼れはスウヰデンの生れ
にて船乘業者たりし由スウヰデンの話を聞くにアラスカと比して夏期短し馬鈴薯大麥など
は重なる産物なりと今此地に來り居る者大半合衆國の北部若くは歐洲の人多く其寒氣に經
驗あるにあらざれば白人等も躊躇するもの〻如し
十一日水曜晴、早朝昨日の荷物を方付けんと行けり日増に雪柔にして殆と行く可らず或は
匍匐して橇を滑らせ或は一歩又一歩踏み落ちて腰を動かし能はざるに至るの場所を越ゑ漸

くにして荷物の處に達せりそれより一度にこの六七百封の荷物を運はんと荷作りて歸りし
も橇埋り動かすべからず因て路を作り數町隔てる河岸に達し此の河を渡り向ふの岸に荷を
棄てて歸るべきを思へり試みに歩みたるに雪少く堅けれは二度に運ばんと荷を輕くし通路
に出てこゝに半分の荷を置きて歸れり而して又河岸に來れは雪漸く解け且空腹となり一歩
も進む可らず止を得ず一英里の處に橇を棄てゝ歸宅せり此間或はアーモンドを出し或は凍
りたり馬鈴薯の焼きたるものなど出して腹を充てたりき馬鈴薯の凍りたるを焼きたるもの
實に喰ふに堪へざるものなれども余等は已に食物に於て土人にも劣らざる程に卑しくなり
居れば此馬鈴薯も仲々味ある如くなれり笑て曰く此の馬鈴薯にて滿足するに至る生活に苦
むこと無けん晩來第二回目のパイを作り拾ひたる豆にてポークニビンスを作り大馳走致し
感謝して喰ひたりパイは余等の唯一の美物なりとす白人の一人來りて余等の天幕に一泊を
請へり止を得ず又宿をなせり彼横柄者にて曾て余等か初めて視たる時は余等を輕視せしが
來宿するに至りて大に腰を曲け居れり余等の天幕は他の者に比し大なるを以て人の來り頼
む者屢々なり

十二日木曜日晴、午前二時出掛けて昨日殘し置きたる荷物を持ち來れり人々處々に荷物を疊き運搬に時を消すのみならず或者は到底運搬し能はもるものに比し余等は實に感謝すへきなり八時に中食じそれより此の方一英里の林に入りて造船材を探出せり一小丘の内尤も大なる樹二本を得たり根に於て五尺三寸の周圍なりきこの小丘は縱材爲生し造船の材を取るに此地方隨一の處なり隣家の白人先つ來りて少々の板材を取去れるのみ未た人の入るものなきは余の幸と云ふ可し直ちに余等の名を記し歸れり

十三日金曜晴、本日は金曜日なれば造船を初むるに好ましからすとし（米國に於ては金曜日は事を始むるに惡き日の如く呼ひ居れり）或は荷物を纏め或は造船道具を修理せり早朝大堀君は起きて小鳥を獲たりさ余等縱引の鋸なければ板を引き割ること能はすこゝに於て造船の一大困難を覺へたり先つハンドボーンを直して縱引となしたれともその功薄きを覺ふ殆んど今の處呆然たるのみ亦鉋なし如何にして板を合すへきや余等か道具の用意に不注意なりしを恨むも詮なきなり必竟金の不足なりし爲め節約過度に因せしに因れるなり余は屢々夢に鉋を得るを悅ふ余の鉋に於ける常に苦痛し在る此の如し余等は五時間を經は空腹直ちに襲ひ來り體衰へ力なく如何共する能はさるに至る余等食物の不足を恐れ米も粉も分量して食へり而してこの分量今は甚た不足となり食毎に空腹に攻めらる如何なる物と雖唯口に入れは滿足す能く人の拋棄せし物を拾ひて口腹を悅ばせしも近來雪柔に路通せずして拾ひに出つる處なく殆と餓鬼の如し嗚呼飽食暖衣の時を思ふ轉々感に耐へさるなり前溪に舟三艘來れりこれ蓋しアラスカに於ける初めて見る小舟なりとす人々皆造船に着手せり舟にニウヨークの記號ありこれその市の人たるを知れり

十四日土曜日晴、風あり本日は初めての造船日として大に神に祈り出てたり先つ雪を拂ひ臺木を作り周圍五尺三寸の木を體よく切り倒したりきこの木の目を數へ見たるに百二十五年を經たるものなるに寒地のことゝて少しも腐れの入るなかりきそれより手製の墨壺を出し墨を打ちなどして船底の形を取りたり中食は持參して行きこゝにパンケーキを作り所謂野火にて料理し大岩石の陰に居を占めしかアラスカに來りたる以來初めての野火且つ料理なりけれは大に快を覺へたりそれに引換へ余はヂボンを燒きたりき然も新しきヂボンにして大切のものなりしが野火は遠慮なく之を燒けり又昨夜枕邊に蚊的數疋安眠を妨害せし

か本日林に入りたるに大なる蚊夥多襲來せり嘗てアラスカは蚊の名物にして人の之に苦むもの多きを聞けり然るに夏に至りて此の苦痛あるならんと思ひしに雪未た消へざる今日に於て湧き來る夏期の蚊群思ひ知るべし余は忙しきゆゑに數日日記を打棄たるため一日を失ひたり本日は土曜日なりとて明日休業せんとせしに豈計らん本日は日曜日なる由諦りて隣人の休業し居るを見て之を知り大に疎忽を感じたりき何れの時之を忘失せしが一向氣か付かず幸に隣人ある故に十年を通じて日を誤るなけれとも今後毎日失はさる樣注意すべきとにとそ聞く銅河の旅行者中最進のもの多くは第二の湖水を渡りデビットなる所に達すと而して此邊は雪消へ泥膝を埋め一歩も進むに由なく却て退却して第二湖畔に來りその流を取て銅河に出つるに至る亦絶頂は例の風雪日々に吹き少しも晴日なく茲に止まるもの必死の有樣なりと是等に比して吾等は實に幸位置にあり聞く絶頂は今や越ゆること能はず折角二ケ月以上も掛りて茲に至れるものも空しく歸路に就くものありと且つ一日荷物を運べば一封五仙を拂はざるべからす其困難名狀すべからず此の夕一白人來りて余等の天幕を訪ひ話せり名はゼームス、ラスアテートと云ふ加奈陀の礦山師にして目下合衆國陸軍の依頼により五名の兵士と共にマウント、スプリット地方を探檢するものなりと其天幕を余等の隣に張れり他に三十五名の兵士はヴアルデスに在りと而して此等は探檢の途を異にしゼームスは銅河に出て他の者はユーコンに出づるの命を受けたるものなり談話殆と三時間夜十時に分れたり余は大切なるレモン湯一杯を彼れに饗せり

十五日月曜日晴、本日は月曜日なれとも昨日より日曜として休業すべき筈にてあれば働くの氣も無く何となく面白からざる内に休業と定めたり余等休業せりとて閑日を消すに非らず種々なる修理など殆と暇なし昨夜ゼイムスの話にバルデスは酷寒に至れば氷點下四十度に降るとその寒氣推察すべし亦絶頂は七八月に至れば氷塊裂け通路斷絶する故他の好通路を見出さゞるを得ずと銅河の落口は四十英里の幅ありて水甚だ淺く四五寸位なり且つ泥濘深く歩すべからず船を通ずること又難し到底船にて海より入る能はざる河流なりと夫れ銅河地方の旅行は難の難なるもの十二月初めより氷點下五十度位の烈寒を侵して進むに非らざれば到底冬の内に銅河に出づると六ケ敷く若し僅かに期日を失はゝ今日絶頂より空敷く歸路に就く如きに至らん余等の前途は如何に成り行くか毎日激働の爲めに食物は喰込み到

底一年間を支ふ可らす今より銅河に出づる尚ほ五十英里余その内に種子を播くの期節を失はゝ中途に耕作すべきか寒氣の恐れあり若し作物出來ずとするか食物は唯漁獲の一物あるのみ而して余等の目的地に進むと能はざるべし唯これ神の導きに任せ此の行路を決するの外なきなり

十七日火曜日風、多少の雪あり此日背後の林に入りて舟を造れりこの場所に到る僅か半英里程なれども行路雪消え唯細く歩む丈けの處水となり膝を埋め一歩又一歩この細き水を渉りて往復するなり　ハンノ木と小なるもの一面に生ぜり實に小山の外一面に雪と水とのみ何處にも進行する能はず余等例により岩石の傍に火を焚き晝食を作りて喫せりその味料理屋に金を投ぜしものに勝る互に語て曰く　トランプ（米國に於ける徒歩旅行者）もこの流ならば餘程氣樂の生涯を送るに宜しかるべし一個のフライ、パンと一個の鑵とベーコンと麥粉とあれば事足れり林中に猛獸の糞を見たり何獸なるを知らず亦兎の糞は至る處に夥し雪消え草生せば彼等此の地を見廻るべきなり鴨雁の類は林中の流に徘徊せり例の路なれば余等容易に至る能はず唯空中に飛翔するを見るのみ毎日風烈しく一日として晴日なし氷山絶頂の旅客實に推察するに餘あり

十八日水曜日晴、本朝は久し振りにて凍結し山林に入るの路も水に入るの虞なく何處も自由に行を得たりければ先日來作れる舟の片側を橇にて運ばんと出掛たれども日既に高く雪消ゆるに近けば止めたりき日出は近頃三時半頃と覺ゆ余は四時に起きしに日既に山に高く昇りたりしなりこの晴日に乘じ氷山の絶頂より移れる者多きを知れり

十九日木曜日晴、本日も凍りたれば午前二時半に起き朝食して橇に畫を牽き出し昨日荒仕上せし船の片側を山林より持來れり實に幸にしてこの凍なかりせば一日の仕事に漸く一英里程の所を運ぶべきに僅か半時間を費さず安々と持ち來る余等の幸ひ此上もなかりき余等が要する時に神は斯の如く與へ玉ふモーセか埃及より出で紅海を渡る時水開きてその間を歩行せし如く余等の旅行中斯る奇跡を證す感謝の至りと云ふべく余等天幕に歸り悅んで感謝せりそれより再び山に入り新たに片側の材木を探したり漸くにして一本以前と同じ周圍の物を見出し鋸せしに豈に計らんやこれは中央腐れ居れり去れども亦斯る木を見出すこと困難なれば船を造る丈けを撰び墨を打ち見しに幸に之も間に合ふ如く成れり蓋し此の樹は

節の少き甚だ好き樹性なりき今朝わが大鴨四羽と或獸を獵したりきその獸の名はヴヰヴァーとて犬なる犬位にて海豹の如きあり尾は水搔きの如く奇妙の獸と云ふ可し端典の人曰く此の獸同國にありその肉美味にしてその皮又二枚二十五弗位の價あり蓋し寒國の獸なるべし

二十日金曜日晴、本日は雪路柔かなり漸くにして造船場に至れり前には三日間掛りて船體の片側を穿ちしが此處は二日にして之を仕上げたりされ天氣の模樣變りなば樏を以て運ぶ能はざるを以て其工を急きしに由る、昨日近隣の人ウィーベーなる獸を獵し得て前夜余等に與へんと天幕に來りしも余等既に眠に就き居りしゆへ彼去れりとて今朝犬堀君行きしに其儘皮を剝きたるものを與へたり其大さ殆と羊の如し余等肉に乏しく鴨の頭まで拾ひ來りその骨迄骨めゐる程になり居る所ゆへこの一頭のウィーベーの如何に余等を悅せしか聞くが如くせば定て味美ならんと早速晩食に料理せしに少しく臭氣あれどもその味小羊の如く亦兎に似たり端典人某等來り犬に其肉を望まし氣に話せし故分配すべきを以てすれば彼辭せり此より余等も暫時は肉に於て飽くことを得大に得意となりしのみならず大に米粉を節し得たり紀念の爲獸牙を取り保存し置けり

二十一日土曜日晴、本日は郵便を配達するチャグリンなる者歸途余の書面を持參する故家に居るべき旨約し居りたれば余は家に在りて片側の船の修理をなし居れり犬堀君は林に入りて横板を作るべき木を捜し漸くにして二本を伐り仆したりと本朝雪柔にして片側の木を持ち來るを得さりきさて本朝よりウィーベーの御馳走にて充分腹に滿てり此肉を惠みたる人はロドッヤとて此午後湖畔に移れり彼はウアス會社の社員にして彼れの友人日本にあり多くの寄眞を送り越せしとて余等を珍らしく思ひ居る者の如し彼は夫の絶頂の暴風雪に六百封の荷物を失ひたる由氣の毒の至りと云ふへし處々の天幕に住するもの盡く船を作らざるなく八方に伐木及鋸の響あり前を廻るの流には種々なる船や筏を往復し此寂寥なる林下も中々風流に感ずるなり

二十二日日曜日快晴、本朝は雪凍りたれば早速午前二時半に起き船の片側に持來れりアラスカは總て雪の上の仕事なり此地に若し雪無かりせば此等の大木は決して二人の力にて一英里の所を移すと能はす故に余等は到底造船の見込無かりしに雪尙ほ五月の二十二日に於

て深きは五尺淺きは一二尺下は一面にパンノ木なり而して晴夜に凍るなり余等寒天を得て難なく二つの大木を運び得たれは大に神の惠を感謝せり本日は日曜とて休み且つ安樂をなせりフライ、アーモンドを少しく作り半ば腐れたるレモン同樣のミカン唯二個を殘せし內一個を出して大なる珍味に與かりたり晩食にはヴイーバー、パイを作り小鳥を入れて味を取れり實に安息日を遵守して馳走にて鼓腹せり郵便の配達者遂に來らす明日も亦家居待たさるべからす

二十三日月曜晴大風、毎日郵便持の來るを待つ然れとも昨日大堀君の倒せし大木は一人にて動かす可らさるを以て朝三時に出掛け林に入り二人にて角材に作るべき樣に仕組み余は書置きして七時迄に歸れり而して例の船體の片側を作り居れりクレートン久し振りにて自分の荷物を見舞はんとて來り會せり余は彼れに縱引の鋸を借ることを約せり其の後隣の兵士之を聞付け兵士か明日より余に貸す故自由に使用すべきを以てせり余はその早速の間に合ふを以て同兵士より借るごとにせり毎日余等朝早く起き殆と午後二三時頃に至れは眠氣生じて倦怠致方なし

二十四日火曜日曇、余はジャクソンなる者郵便を持ち來るを待てり大堀君は林に入れり午後二時頃隣人呼て曰くジャクソン來れりと悅て河端に到れは一の天幕內人群を爲す一人郵書を取て一々其受信人の名を讀めり余ジャクソンに余の郵書如何にやと問ひしに何そ計らん彼は一向知らすと答へたり彼六日前余の隣人に告ぐるに池田に向けたる信書を屆くる故他出せずして待つべきを以てし余をして六日間毎夕之を待たしむ今如此をの地に在りて知已の書を得るは金塊を見出すが如き樂あるにジャクソンの答こゝに至る大に失望落膽せり此三日間は忙はしき仕事を繰合せてこゝに待ちし者なりき蓋し余桑港の知已へ書信を送るべきを通知せしより茲に六十日間程を經たり而して一の返翰來るなし余等の此行之を公にせずして來りしより彼等知已深く余等の意中を察せず自然返書を疎遠にせしやと心快からずされども知已余等に背くに非ず書信の間違ひより返書なきものならん余等今より一週間にて船を造り銅河に出ず最早人間と相遇はざるを期す故に幾年間も知已の書信を得るの機會なかる可し好し初めより期せしとなれば全然背後を顧みず念を知已に置くなく銅河に苦行して目的を達するの一途あるのみ幸に神の余等を捨て玉はざる限りは如何なる境遇に在

るもこの露命を凌ぎ得べし齎らし來る糧食盡くるはは や數ケ月の後なるべしと云ども天は菓實か又は魚か獸か余等に與へ玉ふならん唯鹽は今より節して使用せりこの時川端に物品を競賣するものありき余等は嚢中一弗三十仙を殘せるのみなれば何を求めんとても致方なし聞く粉は五十封九弗鹽は一封十仙なりとその他の價之に準す亦驚くべきの價格と云ふ可し而して人々爭ふて此高價の物を購ふ余此の所持の一弗を以てヲヰクソンが持ち來る信書の代に挑はんとせしに今は用なきものとなれり亦余等より今後書面を送らざるべし襄きに馬鈴薯の種子を得んとて二十五仙を人に托して尚音信なし然れども健全なる主命あり以て神に感謝するのみ

二十五日水曜曇、本朝は夫のロバーテーより縱引きの鋸を借りたれば之を携へて林に入り兼て用意し置きたる十一寸と七寸長さ一丈九尺の巨材を高さ十丈位の處に引揚げ其所にて臺を作りたりさて之を引揚ぐるには實に困難を極めたりしが色々工夫を凝らし三時間餘を費して漸くに引揚げたりきそれより挽き初めたるに一丈に餘る大鋸重くして自由ならず挽けば左右に曲りて墨糸の直線を通らず殆ど板の用をなさゝるに終らんとす仕方なければ此日は之にて止めたり然れども板出來されば余等は船を造る能はず實に當惑の至りと云ふ可し是必ず鋸の構造宜しからざるが爲めなるを察し曩に頼み置きしチーストンより他の鋸を借るとして歸れり夕方ロバーテー來り鋸の樣子を聞きたれば非常に困難せる旨語れり彼れ曰く初めは誰人も皆な此の難に遇ふ一週間を經ざれば熟練せず且つ明日も不用なれば使用すべきを以てせり因て之を謝し明日も前器を使用することにせり余等の疲勞甚だし然れども之を爲さゝるべからず作事の場所に到るには水深くハシノ木叢生して一歩一歩木を分け梢をくゝりて往かざるべからず水の下には氷尚解けず若し氷の解けたる所に入れば水脚を沒し長靴より浸入し寒冷爲に氣分甚だ惡く言ふ可らず余等屢々此難に遇へり

二十六日木曜日、雨を侵して作業場に行けり昨日よりは稍々鋸を用ひ易しと雖も困難の仕事にして殊に心臟に感ずるやの氣味ありて胸甚だ苦しくなれり元來長途の櫂に心力を勞し盡したる爲め心臟を傷めたるものと見へ難儀なる仕事をとる毎に心臟に痛苦を覺ゆ余か友背で心臟を傷めしとき前胸苦しとて仕事に倦怠を來たし且つ疲勞せしが余今日同樣の徴候あるを知る本に氣遣ひ居れりされとも今日の處如何に困難にて心臟を傷めたりとて此の仕事

を止むる事能はす唯勉強して鋸
に手を掛け默然として手を働か
すのみ若し加州にあらば余一の
病人として身體を養ひ醫藥を取（第）
るべきなり今日の境遇斃て後止
むの外なし歸來何事も爲さす此
日記を作るのみ鋸は明日よりザ　三
ーデン、エーグルより借りるこ
とに致せり
二十七日金曜日大風。昨日の如（圖
く作事に山林に入りたり本日サ
ーデン、エーグル會社より別の
鋸を借りて使用せり其鋸は昨日

の器具より使用ひ易すかりき且つ引き加減を悟りたれは左右に曲るとなきに至り大に容易
なりし何事も實驗が大切なることを知れり余は例によりて胸惡しく苦みたり然れども造船
の機を失ふを恐れ大に勉むるのみ昨夜蚊の襲ひ來る甚しく大堀君の額及手は腫れて異狀の
形をなせり
二十八日土曜日曇、作夜蚊の襲擊を受け殆ど眠る能はざりき早朝又林に入りて作事せり其
困難前日の如し漸くにして幅一尺の六枚の板を作り終れり切り口を見るに灣曲丕形を成せ
しところ多し因て其難儀なるを追想したりき色々ど鋸の樣子木の曲り工合凡てに於て注意
し居れども未だ手の熟練無き爲め致方無し此難儀なる仕事も四日間にして終り大に安心せ
り余等毎朝糧とせし凍りたる馬鈴薯も今日全く盡きたりき此の馬鈴薯は微て紫色を呈せし
か熱湯に洗ひて之を喰へり又大に惠まれしヴイーバーも盡きたりき恰も鋸使用中はこれ等
の食物ありて助りしなり此地方野鴨群を成すされども余等の銃丸惜く鴨の爲めに一丸を放
つべからざるを以て曾て試みす大堀君屢々鴨の皮又は首など拾ひ來るに會し之を味へり小
鳥は屢々大堀君捕へ來る

二十九日日曜日雨、安息として休業せり終日降雨天幕の内無聊に過きたり或は聖書を繙き或は小説を讀みたり余が胸病は尚未た癒へざるも安居せし爲め多少輕狀を覺へたり餓鬼腹は又も閉居に乘して食慾を告けたり時に大豆二升程あるを思ひ出し茶椀に量り之に米少しを煎りて所謂煎菓子を作りたりき煎り菓子は米國にありて初めての馳走故非常に珍らしかりき大堀君は蚊張を作りたり唯頭部を蔽ふに留るスヴヰヨデヤの人々等は毎夜蚊軍に攻められ手先き腫れたりとて余等に示せり蚊張の用意無き者終夜眠り得ずバルデヌにて隣人たりし者又此の丘に來りて隣りに天幕を張れり相分れて三ヶ月餘何となく舊知の思あり彼等はポストンのものにして内一人は黒人なりし彼曰ふ去る四月西班牙と合衆國とリヅビン群島に兵を搆ひ西の軍艦十一隻合衆國の三隻の爲めに盡く打破られ千餘名の死傷ありたりと余等桑港を去て四ヶ月餘世事を棄てゝ仙境に入るか如し一切世間の事を聞知せず唯清山幽谷の中に造船の勤めに服するのみ

三十日月曜日曇、早朝余等は挽き終れる板を運ぶ爲に林に入れり漸くにして板を天幕の傍に持ち來れり例の通り路惡しく殊に余は心臟の痛を覺へたり路は日々益々惡しく長さ三十尺以上の大板を持て此の荊棘の中を排し雪水股を没する所を踏み渡るは實に言ふ可らざる難路なりしそれより船底を作れり午飯後余り間もなく空腹となりしか止を得ず惜むへき粉を一杯練りてパンケキとなし大堀君と共に食せり昨夜蚊張を得たる爲め蚊の攻撃なく安眠をなせしは大悦なりき白晝殆と蠅の如く飛ひ廻はり鳴き渡る蚊張なき客は愁然として顔色なし

三十一日火曜日快晴、早朝殘れる板を運ばんとて林に入りたり例の難路漸にして盡く運びたり一人にて持ち得るものは大堀君後にて運べり余四回運びたるが既に倦怠を來たし復た往くの勢なし余が病を得てより以來仕事に臨んで兎角精神を籠めること能はず直ちに倦怠を來たし亦少しく難儀すれば胸痛みを覺へ實に此の難旅行に在て此の知れざる病を得余の心中語る可ざるの感あり運命を一に神に任せ唯悠々として成るに任するのみ午後或人來り訪へり余の横挽きの鋸にて縦を挽けるを見て鋸を貸し與れたり二日も掛るべき仕事半日にして終れり且つ此人ナポキン日本紙製のもの一枚を與へたりき彼曰く米國ミゾリーの者なりと又隣人昨日マスクラツトを撃ち其皮を剝ぎ肉を捨てたれば拾ふて之を味へたり此獣は

麝香鼠なるものにて鼠と同樣の味を持てり三四英里隔てゝ小熊を獲たる由を聞けり亦隣の黑人は鮭二尾を漁し來れり余等も熊を獵し度く思ひたれども余の病に障るを恐れ早朝飛び廻るを止めたりき大堀君は瑞典の者の天幕の跡より豆を拾ひ來れり余等何でも拾ひ來る一片のパンも尙ほ見逃がさゞるなり

六月一日水曜日快晴、朝一時四十分頃二人の白人余等の天幕を叩き起せり聞けば二英里河下に船を覆し全身濕て凍らんとす希くは火を作り助けくれと依て起て火を作りコヽヒーを煮て與へ且つ下衣など着替へさせたり彼六時頃迄暖をとり去れり一は白髮の老人生國はスコットランドにして北米キャンザス州に居るものなりと余等已に起きたれば亦眠る能はず依て余は獵に出て見んと二時頃に銃を負ひ嘗て材木を作りし背後の山に入れり川あり激流處々瀧をなせりその源は半英里程の湖水なりき岸に沿ふて上る十丁柳叢生し河面を掩ふところ水脚を沒す時に小波を起して河上に遡る者ありこれこそビーバーならんと一發を放つ中らず彼れは續いて泳ぎ上れり追て再び發したり此度は身體を翻したれば中れるなりと知れども亦泳げりやがて柳の下に止り動かざるものゝ如し依て到り見れは麝香鼠なりき携へ歸れり鴨の類は此地に夥多なれども銃丸を失ふを惜みで獵せず天幕に歸り皮を剝き肉を料理せしにその肉麝香の如し依てこの名あるを知れり午後ケートストンを訪ひて鉋を借らんと出掛けたれども水深く河を渡る能はず空しく歸れり早朝起きたれば終日倦怠して仕事を爲す能はず大に疲れたれとも本日は難船の人を救ひたるとて悅て日を送れり天幕内に二枚の畫を掛けたり皆拾ひたるもの小兒の圖なり斯る天幕内に此圖あり大に慰むべし余等の不注意一も心身を慰む可き物品を携帶せず又缺點と云ふ可し

二日木曜日大風、早朝より造船にかゝれは隣人は船三艘を持てるか昨日一艘破れたる由に聞く弱き船は此激流に適せずその人繪畫を齎し來て余等に與へたり總て三枚の畫は天幕内を裝ひなせり何となく快く覺ゆ四月四日西班牙と合衆國との間の戰爭の新聞シャートル、デリー、タイムス五月五日と九日の分とを見たりこの行今日に到て初めて新聞を讀みたりき實に如此別天地にありて新聞を讀むは知人の通信を得るか如し午後曾て無き大風起り丘上にて働くべからず泥砂高く揚りて煙の如く誰人も通船する者あるなし彼の拾ひたる豆は余等の腹を四日間肥したり明日も二日の膳に上るなり内には白豆も黑色をなし苦きもの

あれども余等は敢て氣にせざるなり腐れても微びても平氣て食するに至ては自ら驚くの外無し

六月三日金曜日晴　早朝より終日造船に從事せり隣人より借りたる新聞にコロンタイキの物價を掲載するを見るに下の如し

| | |
|---|---|
| バター、バウス、ステーキ（上牛肉一人前） | 五弗 |
| テンダーロイン | 四弗五十仙 |
| ヒーロイン | 三弗五十仙 |
| ブレンド（普通） | 三弗 |
| ウライド、ハム | 三弗 |
| コーヒー、菓子 | 一弗 |
| コーヒー、パイ | 一弗 |
| コーヒー、ケラッカー | 一弗五十仙 |
| コーヒー、ハッパタイキ | 一弗五十仙 |
| ペエキセンス、ポイ少、パン、バタ | 一弗 |
| インキ | 一瓶 |
| 封筒 | 一弗 |
| ペン | 十枚 |
| | 四本 |
| | 一弗 |

以上の如く驚くべき物價なり當地は板一枚三弗麥粉五十封九弗なれども未だコロンタイキの高價に及ばざるや遠し若し銅河に出でなば或はコロンタイキの上に出づべきなり隣天幕の黑人トムなる者赤きハイの如き川魚を齎し余等に與へたれば今朝味ひたるに實にバルデス以來の魚にてその美味殆ど名狀するに堪へたり

六月四日土曜曇、前日の如く造船に掛れり今朝は船を以て前岸に渡るの便あれば直ちにケストンに至り鉋を借ることを頼み晩食後再びケーストンに至れり往く時は隣人余を前岸迄送りくれ尙ほ歸りには余の呼ぶを待て來り迎ふるを約せり鉋三挺を借り來り呼べども答なし或る細き流に木を倒して獨木橋となすあり流急にして細き木の先きは始終動搖せり余注意して渡らんとし曾て兵士たりし時に學び得たる術を以て渡り初めたるに豈計らん中途

に至て水に落ちたり幸に深からざるも水は股より靴に入れりもはや舟を頼むの要なきを思ひて川を渉り歸れり

五日、日曜日なれども已に鉋を借り來たりたれば空しく一日を徒費すべきに非ず早朝より鉋かけにて二人一日を消せり漸く午後七時迄に大概削り上たり恰も好しクーストンの連中二人彼等の荷物を持ち來り歸らんとして舟を呼ぶを見たれば早速余も仕度して鉋を持ち行き其船に托せんと長靴のまゝ砂礫の場所を疾走して僅に舟に間に合ひ鉋を返したりき若し此便なかりせば復危險の川を往復せざるを得ざりしなりこの川の名はキユートテナー川と名くる由聞けり地圖には名無し湖畔と三英里キャンプの近傍に熊を射殺せる由を聞けども其他は一向熊の獵を聞きたることなし亦兎糞は到る所にあれども其影を見す夏に至らば彼等徘徊するならん

六日月曜日晴、早朝造船にかゝれり隣人のトムなる黑人午後コン、ブレッドを一鍋持來り余等に與へたり余等コンミールを携帶せず桑港以來初めてこの類の馳走に出遇ふ食物に饑えたる余等この類のパンを見て殆と悅に堪へす仍て何そ珍らしき品を添へて晝飯を作らんと色々工夫すれとも矢張一片のベーコンと切乾とセンマイの外無く實に食物に窮するも亦甚し數日前川端にありたる人大魚の跳るを見たりと話せりこは鮭ならんと大堀君直ちに釣を垂れしかその糸河底に懸りて取れす漸くにして取り上けたり隣人の小舟三艘は（皆ヅイク製）にて其價五十弗つゝ拂ひたりとヅイク製の船は湖水若くは深水の川には便宜なれとも斯る荒川にして船底無きは危險なりと云ふ可し隣人底を改め作り以て危險を防けり余等か居る丘の下に三人の者露宿せり彼等湖より荷物を運はん爲め上流に行く者なれとも水に濕ひたれはこゝに陳せしなりと一人は桑港より伴ふ處の破落漢にして曾て水夫となり日本にも行けりと話せり雪無き故野宿も平氣の者と見ゆ余等未た此難に遇はす

六月七日火曜日曇、毎日風ありたるか此日殊に甚し余の心臟と思ひたる病氣は稍ゝ快癒せり平常何の苦しきとも無けれは唯注意し居らは再ひ侵さるのこともなからん然し此の旅行は何れの路困難を免るへからず本日も造船仕事なりしが漸く船體を組立つるまてに至りたれば板等を川端に下し其處にて工事せり風寒く堪えさりき夕方岩壁の陰に移したり六月上旬になれとも前後の山の雪尙ほ凍り地下一尺も堀れは凍りて岩の如し草は南陽に向て芽を

崩せども北向は雪尚は殘れりこの分にては種の如きは如何かと案せり然し銅河地方は多少暖なるとと思ふ本朝隣人に又川魚三尾を與へらる親切に余等を遇するとアラスカ上陸以來此人の如きは初めてなり斯く余等を親切に致しくるゝ人に對し余等何を以て酬ゆんかと殆と當惑せり聞く隣人船板四枚を五弗にて購入せりと三英里キャンプと稱するところに木材屋か出來十二馬力の汽關にて營み居る由余旅行中機關を運ふものを見たりしか果してその物ならん隨分機敏なる白人なりと云ふ可しこれ嘗てバルデスに上陸せる樵を率く機關に比して如何茲に居る者大概は縱挽き鋸を用意し居れば木材賣捌も左したる販路なかるべし果して四十英里を運ひ來りたる勞に酬ゆるや否や

八日水曜日晴、風あり本日も崖下にて造船に從事せり人々來り觀て冷笑せるもの〻如し詐して曰く縫合密着せざるべしと實に評の如く組立奇態なる船形となれり隣人昨夜一のビーバーを獵し得たり彼れはビーバーの性狀且つ料理の法をも知れる由ビーバーにもマスクラットの如く香袋ある由股の近傍なりと聲く一體寒國には香氣の獸多きものには麝香をとる獸も寒國の產なり近頃は午後八時半に至るも夕陽尚は山の半腹を照せり朝は三時頃に日出つ午夜と雖晩景の如し鳥徹夜鳴き居るも理なり

九日木曜日晴、早朝造船の爲め出掛けたるに川の片側に熊の徘徊するを見たり大堀君を呼ておれは熊にあらすやと問ふ果して熊なりければ直ちに射擊せんと思ひしも四百間も隔り居る故余か銃にては命中を期し難ければ川を渡り彼を追て射擊せんと直に靴を穿替へ出んとせば熊既に叢中に入りて見へす因りて川を渡り銃を負ふて熊を搜したり此邊丈餘の草茅は身を縫ふ如くして通らざる可らず十歩にして止り五歩にして立ち叢を押分け動物を窺ふ行くと英里餘遂に小山の麓に至り湖水に出合したり熊は影も狀もなしそれより鴨なりとも獵せんと湖水を見渡せとも湖上靜にして一鳥なし尚は進て小山を越ゆれは亦湖あり水淺くして小魚の躍るを見る又小鳥あり綠樹欝生しその一端渚となりて小山に續けり余その小島を一週し鴨を搜せとも遂に見當らす空しく歸路につきたりき而して流に沿ふて茅中に入る水淺き處豆の如きもの數十個水底に見へたり大堀君拾ひ見るに鮭の卵なりき鮭の孵化期には此小流に群るを見るべし往復三時間を消し空しく天幕に歸れり午後ケーストンの一連船を浮べて來れり而して或は荷物を水に落し或は人水に落ち濕て脚を沒せりとクレントン余

にコーヒーを恵むべきを以てしたれば余悦て之に應しコーヒーを作り一鑵丈け大切に殘し置きたるコンデンスミルクと砂糖とを出し十一人の一行に供せり彼等の悦ひ一方ならず爭ふて其コーヒーを飲むもの〻如し醫士及ひクレントン厚謝して去れり

十日晴金曜日、早朝より造船に從事せり大概舟形出來たり唯合せ目の處穴隙多きには困却せり或る處は指も尚ほ通る如きあり鉋無く凡ての器械缺ける作事は至難なると甚し大掘君は板を得んとて林に入りしか湖より落ちる川にトラウトの類夥多あるを見たりと仍てかすみ網を使用するに心付き直ちに至りて霞み網を小川に張り川を兩岸に仕切り水上より石を投して追ひ下せるに數十尾連續して下り一回に數尾を得四五回如此して十數尾を得たりそれは善けれとも霞み網數ヶ所破れたりき霞網を以て魚をとるは當地に限りたることとなるべし午後前溪に船を覆せる者あり舟は一人にて遣き來り小島に衝き當りたる由にて凡ての荷物を失ひ唯夜具幷にトランクを殘したるのみ彼れ金あるも誰れも衣食を賣るものあらざる可しこれらの人多きを見ては大に余等の舟行を警戒すべきなりこの人曾て余等の天幕に一泊せし人なりしなり今夜より殊に小形の蚊帳へ寸時も油斷すると能はすクーストンの連中



曉來湖畔より來れり彼等午前八時に出發し漸く午後七八時頃着せり僅か七八英里の處其難路推察すべしクレントン老人の如きは脚の定らざる如き體にて余の天幕に來りコーヒーを依頼せり早速これを煮て持ち行きたれば居合せたる五六人大に悦ひてクラッカーを持ち來りて食せり余これらの世話をなせし爲め十二時迄寢に就く能はざりき老人夜再ひ來り余に酢一箱を贈れりこれ此郷にありて七八弗に價するものなり余等元來酢を携帶せす幸に此物を得たれはこれより屢々酢の物の馳走に與るを得べし

十一日土曜日晴、早朝より造船にかゝれり昨夜遲く臥したれども眠り難く僅か二時間位の眠にて起き四時に食事せりクレントン亦來れり彼等昨夜川岸に徹夜せるものと見へ彼の塲所にクラッカーの少數く腐れたるもの一箱程捨てあるを見たれば大堀君は早々拾ひ來りこの置き土産にて暫く馳走に與るを得べし然し大半黴ひて色を成せり隣の天幕の連中舟を造らず十二頭の馬にて五噸余の荷物を運べり圖に見る如く數頭の馬に荷鞍を附け先頭には銃を手にして騎たる樣子その班白なる山麓を通り行くは殆ど畫圖の如く見へたり余等と同船にて來れる一人湖に出んとて途中に船を覆し寒慄船を牽き來りてケーズトンの醫士に助け

られたりと聞く大なる一隊の覆船するありその他幾多の船轉覆せしや知るべからず實に危險の船路と云ふ可し

十二日日曜日、大風日に水量増し舟路險難なれば造船を休むとなく木材を取りに出掛けたり其序に何かを獵せんと思ひ銃を背にせしも一も見當らず唯湖畔に一の動物の屍の浮着せるを見之を取り來りて隣人に問へり是れ豪猪なるものにして英名ポーキュパインと稱す隣人數日以前擊殺せるものなりとこの獸の皮に針ありかれ恐るる時は其針延て他の攻擊者を防ぐ針は尖鋭人の皮膚を通し又引出し難しとこの豪猪食すべし彼の食飼は樹の實又は野菜の類なりとその形ビーバーに似て小なり余其皮を保存せり湖に小なるタニシの如き貝を拾ひたれば之を煮味ひたるに砂多くして喰ふ可からず魚の食物なりとす余等の造船に最も不足を告げたるものは釘なりし當時前溪に流れ來りて砂角に止り居る筏ありその釘をとり來らんとすれども水増々多く渡るべからず止むなく隣人を頼み船にて出でたり隣人掉して余を載す中流にして櫂折れたり到り見しに細き釘七本を得たるのみ隣人に對し甚だ氣の毒に堪へざれば何か報酬せんと思ひたれども何も持たず致方なく夫のシャードルより持來れる



香水一瓶を持て到りたるに彼等大に悦て受取りたり晩方フランクなる者ビーバーの一切れを持ち來りて余等に與へたり

十三日月曜日晴、余は山手の耕作地を探檢せんと早朝出でたり先づ背後の林より湖畔に入りそれよりその湖の流れ下る小川に沿ふて下ること五英里兩岸柳密生し歩行甚だ遲し水流るに從て寛に小魚群をなし鴨又所々に遊泳せり土人の施工せるものとおぼしきビーバーのワナ二ヶ所にありき昨年頃のものならん如何にして土人等かこゝに至れるや疑はしきものなり且つ湖水の落口より水の處々に堰の如く柳の枝を集めて流れを仕切れるあり五英里程を下れども兩岸皆柳とハンノ木或は根深き草のみにして適當の耕作地無し小山ありたればこゝに上りしにその麓に湖あり遙にビーバーの遊ふを見る其處より一英里半も東に折れ渚を渉りてキューテナ河に出づ人あり濕れ物を林中に乾せるを見る聞く數日前その前岸に筏沈沒せんとして荷物を濕せる者なりとそれより岸に沿ふて上れば二人の騎馬に遇ふ大湖迄四英里ありと云ふ湖畔の樹林甚だ密生しこゝをくぐり漸にして天幕に歸れり余が今日探檢せる理由は他日之を記し置くべし大堀君は造船に此日從事せり

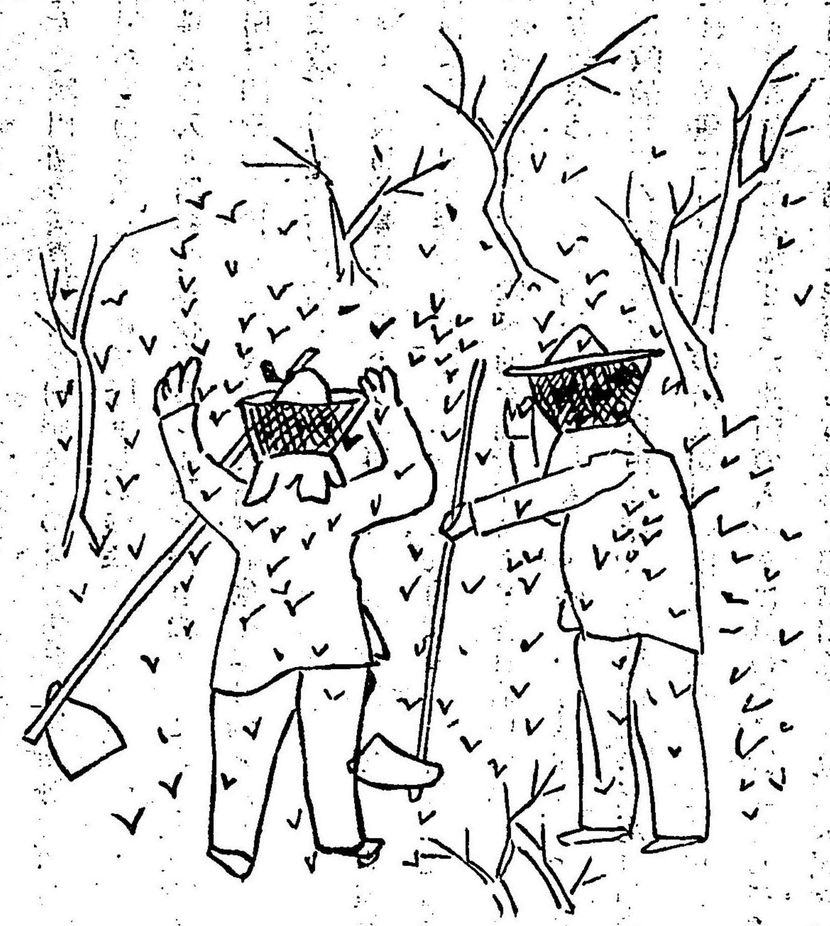
十四日火曜日晴、造船に從事せり仕事大概終へたれは明日進水式を成さんとすクーストンの老翁クレントン來り云ふにはこれよりバルデスに行くなりと一日にてバルデスに行く樣に話したり絶頂よりフォルスト、ベンチ迄櫂を以て通行すする由なりこれに同行せし二人ありてが過日下流に船を覆し荷物を失ひ歸りたるものなりと亦數日前余等の丘前に顚覆せし一人は下流に復も轉覆せし由此度は到底行く能はす之も空く歸ることならんクレートンに寢具を供したり而して蚊的の攻擊中に一書を認め同氏に托して郵便に出せり二仙の切手は既に盡き殘れる一枚の五仙郵劵を帖りたり桑港の知人に出し今後書信を出す勿れと書せり

十五日水曜日晴、早朝より造船に從事せり船は大概に出來たれは本日進水式を行ふ筈なりしも塗り物少敷不足し且つ其他の理由ありて進水式は延したり而して明日より耕作に取掛る筈なれば本日は日曜の代りに午後三時より休み馳走を作りたりし折惡く大堀君腹痛にて大に此の馳走を空ふせり

十六日木曜日雨、本日初めて耕地を開墾せり(開墾の記事は別に掲げ置くべし)大堀君病氣

(第四圖)

開墾中蚊帳襲來圖



なれば余一人にて拓きたり近隣四個の天幕は皆な同時にこの處を去れり唯余等の天幕のみ殘されたり此日初めて雷鳴あり雨も久し振りにて降りしが晩來霽れたりき

十七日金曜日晴、本日は耕地に入り開墾せる後直ちに小麥を播きたるところ二十五封の小麥四分の一を殘せり餘は明日開墾の上播くことゝせり大堀君病愈へ本日働きたり初めて蚊張を面に當てたり蚊的襲來數十疋常に面に當る

十八日土曜風、本日は早朝より腹痛致し且つ熱ありて何となく身體疲勞したれば播種の時節大多忙なるも强ゆるに由なく一日保養せり寢臺に臥せしに蚊的蚊張の一面に群集し來りその穴を通じて侵入すれば殆ど何も出來ず唯蚊的を捕殺すること終日病中の勤めなりき余桑港にありて蚊張切を四方に求めたりしが調製しありしものゝ外は一も見當らず止を得ず蠅除けを購ひ之に替へしに蚊的其穴の大なるを見て自由に侵入し五分間に二三疋は捕獲せらる又大堀君は全快したれば播種に行けり三人の白人銅河の附近に船を沈めたる由にて來り食を乞へり余病床にありたるを以て謝絶せるが此類の人多きは氣の毒と云ふ可し午後余は大に蚊に攻められ寧ろ困難しても働きに出掛くる方宜しと思ひ出んとすれば大堀君止め



て天幕内を燻べ蚊を拂ふを以てせり而して燻べたるに蚊稀少となれるを以て入口を閉ち居れり且幸に大風起り蚊は叢中に潜み來襲するなし夏期時々大風おらば太に助かるべし余熱九十二度二回の下痢をなす大堀君は播種に行けり

十九日日曜日晴、余未だ熱減ぜざるも耕作甚だ忙しく且つ一英里の難路往復一時間を消すは仕事上大障害なれば天幕丈けを移さんとし早朝より運べりこゝに留ること四十日十日の閑日月なく詩も出來ざりき此日三回運て正午になりそれより寢臺を作り天幕を張るなど晩の八時迄かゝれり今移りし天幕の住室及ひ開墾地の狀況は他に詳記すべし先づ播種の終る迄料理道具のみ持ち來りたり此度料理場を幕外に致したり天幕は唯寢臺のみ後日閑を得て卓を設くる心組みなりさて料理場は樹間に例のストーブあるのみ播種に忙しく何も作ることは能はす目下の方針凡て播種を終る迄何事も爲さすと期したればなり

二十日月曜日、大風起りたれば大に寒冷を覺へたり大堀君早起荷物を前記の天幕の場所より持ち來らんとて行きしに途中霜を見たりと此の分にては播種せる物の發育に氣遣はしきなり余等小麥を播くべき處を堀り起し胡瓜と二十大根を播種せり胡瓜は數時間水に浸した

る後播けり大堀君香魚を得たり初めて香魚あるを知れり後日網を作らは此の類の魚無數を得べし湖の西畔に煙を見たる故注意せしに旅人の露宿せしなりこの邊漸々絶頂より湖に出つるの通行路の如くなれり殆と無人の境唯余等二人の占有地と思ひしに俗客如此見えるに至りては多少興を欠くなり本日は大風なりければ蚊的叢間に潜みたるものと見へ蚊無き日を送り大に快かりし余か病大に癒へ殆と平常に復せり唯仕事して難義を覺ゆるのみ祈を聽き玉ふの神はその御手に癒し給へることを感謝の至りなり

二十一日火曜日大風、早朝より小麥を播くところを開墾し漸く午前蒔きたり大麥も小麥も二十封位さい播くこと能はざりき土地既に盡きたれば亦新に開墾地を探さいるべからず余等大概明年一ヶ年の食料さへあれば充分とし此麥類播きたる丈けにて收獲通常とせば充分なり明日よりはコーンを播くべき土地を拓くことゝせり何種類も時節後れたれば大に忙しくその上二々土地を拓きて之に播くことなれば手間とれ朝五時より晩八時迄開拓して播種じ少も休む時なし荷物も舊の天幕跡に其儘棄て置きたるのみ余病後力無く斯る苦勞に堪へ兼ぬれども今は致方なし倒るゝ迄働くかと思ふ迄に至れり第一食物疎惡元氣復する遲し朝夕は粥雲はパンケーキその他薄切れのベーコン一個亦は二切のみ魚を捕ふる暇なくビーバーを獵する日もなし本日は大風なりし爲め蚊的の襲來なかりしは宜しけれども寒冷にして種子發芽の防害となりしを恐れたり

二十二日水曜、昨日より風少しく定まれども寒風尚ほ蚊的を吹き飛すに宜しく大に凌ぎ易かりしなり朝より豆とコーン麥の殘りを播種すべき地を拓きたり且つ先日蒔き殘せし葱を蒔き終へ桑港なる支那店より高價を以て購ひたりし山東菜の種子を蒔けり今朝舊の天幕の場所に二人にて行き荷物を持ち來れり河水少しく減じたるは近來寒冷なるが爲ならん對岸にありし天幕も點々五六を殘せるのみ彼等今尚ほ造船に忙しきものゝ如し余等も舟路に忙しきなれども播種に迫られ殆ど閑暇なく勞且つ疲れたり隣人五枚にて五弗を出せる屑板の殘りを一枚余等に殘し置きたればこれを以て食卓を作りたり食卓に向ひ食事せるはアラスカに入りてより以來初めてなりき唯それ樹下寒風に洒され食物盡く寒冷にして折角の粥も味なきに至るは致方なし

二十三日木曜日晴、麥及豆コーンを播きたり玉蜀麥の播種地は暇なき爲め柳の枝を切り拂

び根株は其儘に打棄て草原の間を一鍬堀に致し隨分急でなせりこれ不本意ながらも暇無く時節に迫られたる爲めなり所謂墨國土人の玉蜀を蒔くに均しき狀體なり豆類は稍々整地せり余等が食用に充てし豆も試みに蒔きたり

二十四日金曜日晴、風あり早朝より十九種の種子を下したり毎日風寒氣を送り作物の發芽を妨ぐ若し此分に行かば全園無作なるやも知れず素より危險の路に乘りあれ余等少しも驚かざれども希くは暖氣加はりて作物の成熟を見度きなり開拓してより八日目なるが大概播き終へ殘るは粟と蕎麥とのみ夜九時頃より獵に出でたりそは充分疲れ居れども喰ふに肉無く毎日粥のみ喰ふて働き體が衰へて致方無き故强て出掛けたり湖を廻り行きしに小島の間に頭のみ出して泳ぎ來るものあり何ても好しと一發を放てるに彼れ跳り上り再び水に入りて影なし想ふに命中せるも即死せず或る處に潜みたるものと思ふ見出し能はざれば又上流に行きしに同樣の姿に泳ぐものあり試みしに彈丸一間も隔りたりこれ疲れ且つ眠氣ありて手元定らざるによる歸らんとすれども空手を遺憾とし進むこと二英里殆ど湖の上流に出て遂に空しく天幕に歸る十三時過ぎなりき

二十五日土曜日曇、風あり早朝より粟を播くべき土地を開墾し午後之に播種せり大概六十坪程拓きて蒔けりその他三十坪程昨日野菜を播き殘せし處へ播けり尙ほ種子半分を殘したれば次の月曜に他處を拓きて播かざるべからず粟は寒に堪ゆるものなれば萬一に備へ爲め種子のあらん限り播かざるべからず鴫の雛を伴ひ流を下るを見たれば直ちに追ひ捕へんとせるも彼等必死となりて逃げ捕ふ可らず鴫兒と雖も必死となれば鋭敏なること如此余等も此郷にあり必死となりて蹂躪せば目的を達し得べきか毎日寒氣去らず蚊的の襲來なきも耕作物の發育せざるは氣遣しきことなり大麥及び蓮は初めて發芽し其寸綠を見て快きこと云ふべからず大麥は九日間になれども未だ顯はれたるものなく余等互に疲れ正體なき迄に働けり晩七時過ぎ天幕に歸るの時は歩行定らざるに至る實に朝の五時より晩の九時迄暇なく働くなればなり夜十時頃ムースの鳴く音しければ大堀君出掛け十二時過ぎ歸れり而して大牒を見ず

二十六日日曜日曇、此間中の疲勞を癒さん爲め殊に日曜なれば休みたり而して近來何も肉食せざれば獵り且つ漁せんと二人にて下流に出掛けたりしも一も得るものなかりき中途に

赤き二尺餘の大魚砂上にあるを見たりこれ獸の業ならんと思ふそれより三英里程行きたるに赤魚二尾を見たりこれこそ今日の獲物ならんとモリを飛し衝きしに幾回衝きても當らず魚尚ほ悠々として淵に遊べり最後に魚遂に隱る余等も水に入り足濕て冷たければ遺憾ながら余等の業の不熟なるを談じて歸り例の砂上の魚を拾ひ尾の邊を持ち來り今日の馳走にせしに其味鮭に似たり大堀君は頻りに鮭なりと主張す今日の馳走は皆な拾ひ物なり拾ふに妙を得たる笑止の至りなり

林麓沿溪拓草菜　漁水樵山計悠哉　絶卿天地無人訪　鴻雁空看日下來

二十七日月曜日、早朝荷物を舊の天幕の處より取寄せんと行きたりき荷物殊に箱四個は其蓋を開きありければこは慥にトランプの所業ならんと其の内を檢せしに牛乳一鑵とキナエンプとを失へり牛乳は兎に角にキナエンこそは大事の藥なりき余は熱痛に侵され易きことなれ共若し失はゝ致方なしと嘆息せり然るに歸宅後他のカバンを檢せしにそこに入れてありしを以て大に安堵せり唯牛乳のみと覺ゆれとも其他を未だ能く檢せす彼等は湖より銅河に出つるの下流に舟を覆し荷物を失ひ歸る者にして或者は旅行中の食物さへ持たさるものあり斯る者は饑餓に堪へす何にても手當り次第竊む者なり此輩毎日の樣に山手を通るその難路幾多の人の覆沒するや知る可からす余等こゝに止り耕作して冬期旅行をなし却て得策なるやも知れす本日は蕎麥を播く所を拓きたり余は疲勞と少しく熱を感し居れば少時間休息せり

二十八日火曜日晴、蕎麥地を拓き且つ蒔けり(大方二十封程三畝歩位の地に蒔けり)これにて一先つ播種は終へたり十七日開墾を初め今日に至る十二日間此短日月の間に於て六反餘の地を拓き四十五種の種子を播きたること甚た繁忙を極めたりと云ふ可し而して今は大麥葱二十日大根は發芽し他のものも近々發芽すべき時となれり何分寒氣日に續き發育の遲きを恐る今日充分體を休せ保養するの時を與へられたり

二十九日水曜日雨、又風舊の天幕の處に行き大切なる荷物丈け荷ひ來れり且つコーンの種子馬の喰ひ殘したる處に發芽しあるを見たれば之を拾ひ來りて植ゑたりき發芽せざる分は他日閑暇の慰となるべし小麥山東菜及甘藍發芽を初めたり

三十日木曜日雨、又風午前厨場を造らんとて板を處々より運びたりこの板は遂に人々造船

の爲め挽きたる板ありしが大分澤山集りたり午後に賄所を作りたり唯風を拒くに止る迄にして屋根は板を並べたるのみなれば少しく雨あれば漏るを免れず南風の烈しき處故南の方のみ板にて圍ひ北も東西も明け放しなりされども此賄場の出來たる爲め大に天幕も娯氣になり何となく慰を加へたり

七月一日金曜日曇、前溪に橋を架する爲めに家居し晩來九時より獵に二人にて出掛けたり林叢の間を通り行くこと四英里曾て余が耕地探檢の爲め行きし路を通り雜木叢生簇立一歩一歩に縫ひ行くこと當地方にあらざれば見る可らざる林なりとす斯くて河に沿ひ天幕の跡に出て棄てありし豆など一握り程拾ひそれより又渚を渉り山手に出て小河に沿ふて上れり時既に十二時空腹を感じたれば用意のパンケーキを出し蚊を追ひ乍ら立て喰へりこれを包みたる新聞紙の字を尚ほ讀む可き程明かりさ北地は午夜と雖日沒の如く日光は絶へず雲間より空を照せり二時頃に至れば全く曙となる白晝の如し而して大陽の光は北を廻りて東に出づ如此故に鳥は晝夜鳴吟するものあり獸の類は夜のみ出廻る故獵者の爲め暗夜無きは一の幸ひと云ふべしアラスカは夏期に於いて暗夜なしと云ふ可きか往復八英里午前三時に歸れども一の獲物を無く一も見當らず唯疲勞を持ち來りしのみなりき



二日土曜日曇、昨夜の疲れにて午前十時頃迄眠れり此日も大堀君は何か獲物あらんとて出掛けたれとも四時間程にして無手にて歸れり余は蚊張を改作など致して居れり肥田野錦川翁

曾て余か初めの渡米に送れる詩ありハンカチーフに書きたるもの余常に之を使用しその書の磨滅を恐れ茲に詩を詠し置くべし

男兒立志亦雄哉　赤手欲探異域財　忍耐唯能成大業　研磨應識養真材
繙書夜對幾螢雪　荷鋤朝開舊草萊　此去太洋波萬里　期君功就賦歸來

三日日曜日曇、此日は風無き故に蚊的羣集天幕を取圍み前面の入口より入ること甚し如何にしても防くことは叶はざれば入口を袋狀に作りその口をくゝりて防ぐことゝせり空氣の流通は烟突なりし尚は烟突には蚊のくぐらざる布にて塞げり此にて天幕の内には蚊の入るべき筈なく初めて蚊無き室に居るを得たり余等暇次第に網を作る余は糸を捻り大堀君は網すきなり大堀君網を作るを知る余等未た道具整はされは魚を捕ふることを得すベーコンも僅々三四封を殘せるのみその他肉類少も無し故に毎日粉と米と乾葉とのみ本日は日曜日なれば拾ひたる苹果と無花果とを以てパイを作りたりその味比するものなし余昨夜胸を痛め午前は不快なりしなり余のこの病氣は何となく氣遣しき病なれども醫師に問ふの便なく藥を得ることも出來ず唯運命を神に任せ奉るのみ

七月四日月曜晴、本日は米國獨立祭なるも余等に於て關係なきものなれば余等は明日進水式をなさんとて舟用瀝青を作るべきヤニをとれり朝九時頃遙か對岸キャンプより連續發銃し且つ汽笛の如き聲を一時に鳴せり始め彼等が進水式をなしたりきと思ひしに數多キャンプより發銃するを聞き其獨立祭を祝せるものなる事を知れり午前殆と間斷なく所々にて發銃せり此地には無上の高價なる彈丸をかくも惜氣無く放棄するかと疑はる米國人か獨立祭に熱心なる感すべし午後余等は家居何となく御祭の風ありしも例の網仕事に從事せり然とも蚊的尚天幕に襲へ入りしに困し漸々入口を嚴にしたるも又從て入る針の程の穴を彼等探て入る困却の外なし大堀君は怠りなく差網を作り早速小魚を捕へんことを企てたり引網は中々落成容易の事に非らず此の絹糸は霞網の修理の爲め嘗て日本より用意し置きたるものなりき

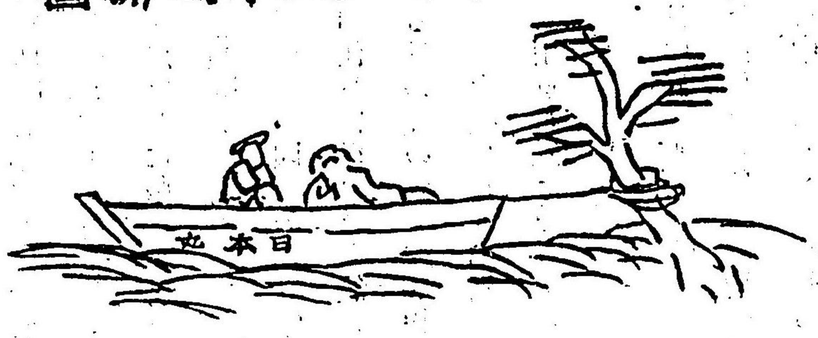
五日火曜曇大風、早朝より河岸に出掛け本日こそ進水式を爲さんと舟の底へ瀝青を塗り水の漏泄を防きたり尚追て瀝青を完全に塗る手筈なり午後一時進水式を爲したり舟は造船の場所より難なく岸を廻る小流に落せり拍手一番日本丸を唱へり續て舟中に入り持ち來れる

御馳走例のクラッカーと大豆の煮たるものを出して喰ひ終はりて神に祈りたりそは此の舟は始終神の默示し依りて成り其成功運命は神に任せ奉り居ればなり舟の長さ十八英尺幅は底にて二英尺五寸兩側をくりたるものなれは先づ丈夫の方なれとも總て造船の器械なく板を引くも鋸を借り鉋を試むるも總て借りて僅かに出來たるものなれば何となく不手際たるを免れす然し斯る不完全なる余等の手の用意より能くも水に浮び一噸を乘する丈けの舟が出來しやを疑ふ程神の御助けたりしを感謝すべきなり歸りて進水式の御馳走としてプッデングを作り用意し來れる豆粉を取出し喰へり實に珍らしく舌を鳴せり明日は絶頂へ行く心組にて大堀君は食事の用意をなせり夜來雨明日の行を遲疑せしむ

六日水曜晴、夜來雨なりしか早朝より晴れ渉り珍しき晴天

（第六圖）

日本丸進水式感謝圖






とはなりぬ、本日は漸々絶頂へ出掛けんと一日半の食物を用意し寢具整ひ大概四十封つゝ背に負ひ十一時半頃家を出てたり水を河の右にとれも山澤を渉り鬱生せる林藪を推別け進む例の通りにて仲々進み難く二時半漸く一英里半位の山頂に登り一面を瞰下したり時に林火余等の進まんとする進路を妨くるの狀あり且つ此處より山澤を跋渉して尚ほ進むとしても今夜に三英里も六ケ敷一日半の食糧にては絶頂に至るの目的を達する事到底能はざるを以て更に舟路をとりて行く事にし歸れり其澤口に路を成せるは熊若くはムースの通りしものならん余歸路花草類を集めたり珍らしき野花溪谷深林の中を裝ひ尚ほ人を慰むる又感すべきものあり余等此行初めてのトランプなりしが四十封餘の重荷を負ふて熊か鹿の路を跋渉し得る上は大丈夫アラスカの目的を遂げ得べしと互に語りて笑へり然し歸宅せし時は肩いたく打たれたる心地ありし夜來大堀君は舊キャンプに至り余等の荷物を見廻りしにトランプ亦も箱なとを明け置きたれども何も持ち行かずして歸れり

七日木曜曇、余久し振にて衣類の洗濯を爲し午前を消せり一ケ月以上留め置きければ衣類千數點以上ありたりき然し川流直下に在れば獨木橋上に再洗するに宜しく大に都合宜し大

堀君は差網を造らんと終日掛り六英尺の長さと三英尺の幅ある絹糸の差網を作りたりこれにて余等は前溪に遊泳する魚を捕へんとす夜來試みたれども得ず晩來余等舊きキャンプに行きたりしに四人のトランプ余等の日本丸を繫ぎ在る處に火を作り居れり彼等は三月頃同旅行者として氷上の邊に在りし者なりしが既にタナナ河の上流に至れりと彼等云ふ誰人も金を見出す者なし銅河には金なけん而して多くの人々は倦て歸る者ありと彼バルデスに至り復た行くものゝ由彼等の云ふ所素より信を置くに足らずと云ども數千の探檢者が容易に金塊を見出し兼たる事は然らん而して多數のものは銅河に出づるに川路に依るの危險を恐れ湖畔に在りて寒氷を待つ者の如し彼等の衣袴破れて下衣を顯はし面を蔽の蚊防なく水防の靴なき者の如しその困難見に堪へず而して余等の日本丸を横奪せんと計るものゝ如し余其舟の余等が非常に困難して作れるを話し若し奪はゞ大に決心あるを以てせり

八日金曜晴風、昨夜トランプ等の言葉の穩かならざるより早朝大堀君は船を見舞たりしに安全なりしなり余は野菜等に灌水し午後尚船を塗る瀝青を取りに出掛けたり昨日作り終れる差網にて五尾の魚を得たれば大に大勝利を祝して喰へり此の網を繼ぎ加へて四五間となすとせり暇あらば大堀君は今日よりこの差網を作らん余瀝青を取り乍ら山巓に昇り四方の景色を觀望し書中に在る心地せりアラスカは殆と支那風の畫なり若し吾友大野君をして共に遊ばしめば同氏の筆古今に互りて稀なる働を成さん者にと想起したりき今朝大堀君舊キャンプより荷物を背に負ひ前溪の獨木橋を渡るの姿甚だ面白かりき

九日土曜曇、微雨余甚だ疲勞し居れば瀝青採り見合せたり而して余は糸捻にて終日家居したりき早朝天幕の前に立て叫ふものあり大堀君出て見ればタナカ鑛山會社の二人なりとて湖より四英里キャンプの歸途茲を通り掛り路を尋る者なりき且彼等はコーヒーを作り與れとて二十五仙を與へければ大堀君は早速起きて作り遣れり砂糖も與へさるに彼等は悅ひて尚も二十五仙を出し與へり四杯のコーヒー五十仙となる亦ベイコン二切を與へたり中々能き御客樣たりき余等キャンプをこゝに作りし以來初めての通行人なりき彼等云ふ湖畔に金を發見せしも少量なりと人々湖畔に冬期を待つもの多く且つ上流にも此類の人多しと湖畔は寒暖こゝと相去る少なきも南風暖なれば植物も從て速なる由にて野びるを持來り喰へり且云ふ鮭魚を捕ふる人ありと鮭魚既に湖に入るを知る未た余等の上流へは來らさるなり

十日日曜微雨、日曜且つ雨なれば休業し大堀君は漁して五尾の香魚を得初めて團子を作り晩餐に喰へり美味云ふ可らす余は終日糸捻りしたり嘗て拾ひたりしビヨフテーの空瓶を利用し花瓶とし薔薇の花を挿みたり薔薇は此の地の花王なり花艶絶にして葉も美しく殆と花園に培養せし物の如く且つ香氣を放てり天幕の内初めて花瓶の装ひありその旅情を慰むる中々なりき

十一日月曜微雨、舟に瀝青を塗らんと朝來舟場に至れり舟水に浮べあれば全く濕りて塗る能はざるを以て陸に上げ乾し歸れり明日は例のトランプにて河の左岸を取り行かんと企てたれば本日休業して元氣を養へり午後より明日此山絶頂探險の用意を爲したり今度は往復三日間の食料を備へ毛氈も二枚に減じたりき不在の間にトランプの來り見舞ふを恐れ色々と荷物を片付たりき

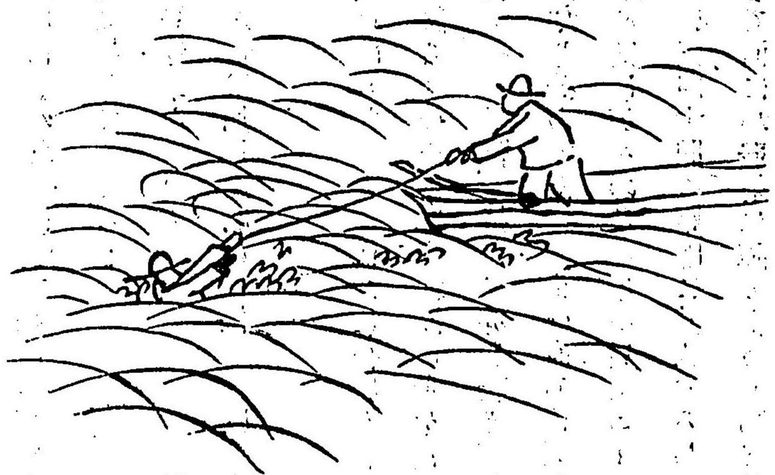
十二日火曜曇雷雨、偖て此の行こそ絶頂の目的を遂し得べきとて昔日來養ひ置ける元氣を振ひ例の五十封近き荷物を背にし早朝に出掛たり河岸に到り舟を下し流れに迄引出したりしに近來水量增し激流奔端矢を射るが如しこの舟にてこの中流を渡るは初めの事なれば大に心配せり舟を斜に漕ぎ出したりしが百間も流されて漸く支流に入りたりそれより支流を亦遡らんとせし時大堀君はその場所淺きと思ひ舟を下りたりしに胸迄水に入りたり而して綱を以て漸々に岸に寄せ岸を攀て陸に上り船を程能き場所に繫ぎ直ちに火を作り大堀君の下着より一切衣類を乾したりき最早正午近ければこゝにて中食せしが家を去る僅に一英里程にして既に半日を消したりきそれより進で或るキャンプの場所を經て道を山手に取りしが其キャンプの近き林の内に桑港人の幕あるを見たりこの旅行の不幸者と知らる路なき經路を攀つる殆んど猿猴の如くにして漸くにして復河岸に出で又廻て經路に進む小流あり數本の木之に架せしも水に浮て漂へり余一番之を渡らんと進みしがやがて木動き水に落ち胸より下總て濕したり砂礫の處に至りて衣類をシボリ尚ほも進で行けり三英程行きし處に大河あり幅三十間奔端その深さを知らず兩岸に船あり綱を以て往復すべし一人こゝにありて渡船を營むものゝ如し余は渡船の便を頼みしに彼云ふ一弗づゝ拂へと然るに余懐中僅かに一弗三十仙あるのみ到底之を拂ふに由なく且僅三十間位の處一弗を拂ふは不當なりとし上流に到り歩みて渉らんと進めり岸皆沼泥進一英里水流廣く半英里位に分れ激流益甚しく岸

に衝き流るゝの樣慓然として見るべし余屢々試みれとも足定まらず流さるゝが如し尙進て遂に兩岸壁立の山に到れりその山を超へたるトランプの跡ありければ上流には渉る處あるならんと思ひ尙ほ昇りたり一英里程行きて壁立の處を百尋位も下りそこにて試みたり水深き事胸に達すべく且水勢烈しく危險極りなし大堀君は水に慣れず繩もなければ渉るべき便なく生命ありてこそなどゝ恐を懷きし言葉出てたればこゝも亦渉るを得す最早到底絶頂に登るの目的を達し得す斷念せさる可らすと思ひ歸路に就けり最早八時頃になり空腹となりたる故溪間に溜池あるを見こゝにて晩餐を食ひたり然るに折角こゝ迄來り絶頂に至らすして歸るは殘念至極なりとす今夜は茲に露宿し明日又登らんかと思ひ直し再ひ上りて懸瀑千尋の岸上に至り此所に火を作り蚊的を拂ひ露宿の塲を作れり而して濕ひたる衣類を乾はかしなどして夜十二時頃眠りしも兎角心地惡く數時間睡りしのみにして翌朝に至れり然るに何處まて行くも溪深く遂に流れに下る事能はざる如き體なれば種々の考を起して遺憾ながら遂に歸路に就きたりこの所の瀑の下る小流は水清くして氷の如く快言ふ可らす曩に徒歩を試みんと余の川廣き所を渡りしとき脚皆濕ひたる故火を作り乾かせしとき雷山地に轟き



妖雲天を捲ひて擴かり驟雨來りしが僅にして雲は西に走り幸に大雨に遇はさりしなり

十三日水曜晴、本日は彌々歸宅せさる可らすとし前夜露宿せし所を拂ひ朝食をなして歸路に着きた第）り山を超て下り漸くにしてキャンプのある所に出てたりそこにて久し振に白人に遇ひ種々の話を聞きしに却て吾等が中途より歸へりしは幸にして到七底川を渉りて登るも空しく歸る外なき由を知り得たりこの處に一夫婦あり余等に瀝青を持ち居るならば賣れと云ひし故數封を一弗に賣ることにし彼（圖余等と同伴し來りしか大流の處に至りて彼危險を恐れ引還せり余等は空腹となりたれは砂上に中食を喫し中流を渡りて難なく五時頃歸着せりキャン



漁の圖

プの白人云ふこの河より遠からざる處に金を發見せしと然し少量の由亦彼等は鮮魚を漁する者の如く鮭ある場所を知れり昨日この河に二艘の覆沒せしものあり且つフォールスト、テンパーブレースより歸るもの五十人ありしと銅河不景氣甚しと云ふ可し

十四日木曜晴、昨日來の疲にて終日何事も成す能はず唯網仕事をなせり

十五日金曜晴、本朝瀝青を河の向ふに賣る約束なりしも水量增加し渡船に難儀なれば不本意なから之を止め終日網仕事せり疲れ尙ほ未た癒す

十六日土曜、朝來雨降れり五時頃人あり喚び起せり出見れば八九人背に僅かに荷物を持ち陸續出來れり一人余等に向て道を問ふ彼等或は湖畔より歸るもの或は昨夜河流に舟を覆して歸るものなりき八九人相合じて歸途に就くその不幸察すへし長靴も持たす亦食物も充分なき樣見受たり余等は家居網仕事をせり前溪馬の渡るが如き聲ありたれば余は直ちに天幕内より窺ひしにこれぞムースなりき初めはミールならんと見しがその角あるを見てムースなるを覺り直ちに銃を取り出で二發を射しも中らず僅かに三四十間の距離に其大なる馬の如きムースを射殺する事能はざりしは大に遺憾至極にして何にか發射に障りありし事と覺えられたり溪には水量日に增し畑に上るの恐れあれば水を漏す第）爲め堤（是れはビーバーが作れる）を切り破り八たり余は一兩日前より胃弱の如し兎角余は身體（圖衰へて弱りたり

十七日日曜晴、

終日網仕事にて

鹿の圖

日を送れり大堀君は菅を刈りたりこれ草鞋を作りて白人に賣るを試みん爲めなり菅は前溪瀑の落口にありて頗る能く生長し三尺位の長さに達せり香魚の一尺位のもの破れ網に掛り本日の御馳走となり刺身を作りたりしに美味言ふ可らず

崭巖躋上路難前　一水中横望渺然　欲訪湖南行旅客　林端空指起炊烟

十八日月曜雨、終日網仕事せり蟄居して運動せざるは余等に大害なり精神鬱屈し胃弱を來たす余はこれ兎角働きの性に慣れたる人間なれば勞働が天職なるべし

十九日火曜曇、本日は或る品物を大湖畔のキャンプに賣り徐々と歸路に就く用意せんものと余單身して寢具及二日間の食量など凡四十封位のものを背にし小流に沿ひ林に入りて出掛けたり道なき叢や荊棘の如き茂げき灌木を推開き漸く八時間を消し五六英里行き湖上の上に出でたり然るにキャンプは湖の對岸に在りて林之を繞らし二英里程も隔り且つその間三流の河ありて船なければ渡るべからず到底其處に達する能はざるを知り四時頃歸路に就きたり今度は往く時の林中に分け入るを厭ひ路を山腹に取らんと山を登りて溪谷を越へし此に大に便路を得て三時間位にて居所に歸る已に十時過ぎなりきこの歸路嘗て馬匹の通りし路ありて林叢の間自然の路をなせり馬を牽く人は能く通路に注意するを知れり處々清泉流れ寒烈齒を透すが如し多數のトランプこの流れに沿て難路を取る愚なりと云ふべし余湖上の上に居り山上より垂るゝ寒泉を酌て大湖を望み平野を眺めたる詩あり景色甚だ佳にして殆ど人なきアラスカの湖とも思はれず

二十日水曜、終日網仕事せり聞く余等のキャンプより東の方二日路の處に或人金塊を見出したりとてその砂金を箱に入れ持歸りしものありければ其附近に在る三百人程のものは大に意氣込此に赴ける由然るに一の金もなく何もなく空く歸れりと人々今は金なきに倦み疲れ居る時なれば斯る馬鹿らしき事もあるべき事なり日々銅河の上流より歸るもの十數人皆己の荷物を棄賣して歸る故不人氣言はん方なし曩に余等のキャンプの處にて五十封九弗の粉を今は六弗にても五弗にても買人なき事ならん余等も大に目的とする作物が不作と云ふ事を知る時は不日荷物を賣り航海費を作り歸裝を理し再擧を謀るの止を得ざるに出ずんばあらず

二十一日木曜雨、終日網仕事せり余等は穀物を六種播きたれば何か一種は結實を見るなら

んと期せしに何一とつとして生長の思はしきなく殆ど絶望せり（第九圖）

唯葱と廿日大根位は余等の食物に充て得るなら

ん是に於てか大に余等の進退に窮せり

二十二日金曜曇

雨、本朝は余等の荷物を賣却せんとて舟を漕出し對岸のキャンプ二英里程の間を見舞たり然るに一週間程前より銅河の景氣頓に變し何處を試みるも金を見出す事能はずとて歸路に就くもの日に十數人にして到る處のキャンプ歸らんか行かんかと二の足を踏むもののみにして買氣は更になく中には己の荷物をシャートルの半價位に賣拂ふものある故最早人々金を出す事なし爲めに余等の本日の目的も一をも達する事能はざりしなり唯僅かに圃場作物の收入九十仙位のものを得たり内玉葱を一把二十五仙に賣りたり余等か圃より金を得たるはこれが初めてのとなりき河の中島に留れる五人の一組みは余等か其河を渡る時己に引上げ出發せり而して余等には二個のクラッカーと四分の一の袋のコンミールを殘せり皆水に濕ひたるものにて殆と喰ふに堪へざりし前岸のキャンプにレストランありこゝに曾て同船者の歸る者留れり彼等はタナナ河に達したるものの由それよりこゝまて歸るに五十日を費せり其困難料るべからす

二十三日土曜日雨、最早網仕事をもなさゝりしが折角の網棄つるも遺憾とし之を携ひ歸らんとし午後大堀君は尚ほ其の網を作り續けり午後四時頃五六發の銃聲岸に響きければ或は人余等を呼ふ相圖ならんと直ちに岸迄到り余も亦四發續け擊たれとも向ふより何の返答も

船に山の圖

なき故他の理由ならんと其の處にありしキャンプの人と種々の話を爲して歸れり對岸の一夫婦曾て余等を呼ふ相圖なりとて十數發を發銃せし事ありき當時余は人を呼ふに發銃を以て相圖とする事を知らず何故に斯の如き無益の彈丸を消するものなるやと其愚を笑ひしに今日始めてその人を呼ふ相圖なる事を知れり本日朝より醬油及び酢を煮詰めたり二升程の醬油は一握りのかたまりとなりたり少しやけくさき氣味あれとも味には變りなし此の醬油の内に鰹節三本をけづりき又酢は普通の果物より製せる上等の酢を十二培に煎したる物を更に余等は十五培位に煎したりこれも香を失ひたるも味ひ唯鋭きのみ此酢はクレートンの贈物なりき如此凡のもの〻量を減して輕くし歸路に便するに取かゝれり

二十四日日曜曇、風あり初め余等は凡て節約しィンキも最早殘り少ければ日記を鉛筆に換へたりき然るに今日の有樣は最早總の物を放棄して歸らざるべからざるに至れば殘せるインキも棄てざるべからず因て餘れる丈け總てのものを數日間に消費するとせり實に余等はアラスカにありて奇體なる生活を送れるものと云ふ可し萬難に堪へたる時に喰ふ物も何もかも窮狀見る影無く節約し三年位の品物今尚ほ殘せるに今や唯穀物不足の爲め凡て他の物を棄てゝ歸る事となれば本日は十分の食物腹に充て砂糖コーヒーもパイもクーキも總ての御馳走を喰ひ彈丸も近日迄は大獸を獵する丈けにて鴨などには一發を失ふをも惜みたりしに今日は射撃として數十發を試みるに至る今はアラスカに於て贅澤なる避暑の遊びを爲すに似たり奇妙千萬と云ふべし嗚呼尚ほ四百封の粉に十弗を投じて桑港に用意し來らば假令作物不作に終るも尚ほ一年の日子を支へ得べくして今回の愚を見ずして止まんに當時二年の食物を用意せんことは夢にも思ひつかざる所なりきこれ余等のみならず此旅行にあるもの十の八九は皆一年の食物のみなれは余等と其歸路を同ふするもの感又同じかるべし然るに余等は豫め種子を播くの企てありし故に殊に一年の食にて足れりとせしなりき大堀君は例の網仕事をなせり

二十五日月曜晴、早朝より所持品を賣らん爲め對岸に漕ぎ出て第一に鋸の大なるものを某なる一夫婦に賣附けたれども一弗を得る事出來ざりきそれより五英里川下のキャンプ、プレース所謂十二英里キャンプと云ふ處に至り賣初めり當時最早銅河には金の產出無きに倦み歸路に就くもの陸續絶へず中には棄賣して行く者或は衣類道具等は殆ど棄てゝ顧みず十

三弗を出したる毛布路傍に七枚も棄てあるなど話居る時なれば誰も相手になるものなく殆ど賣るべき見込みなかりき奇妙にも靴と鶴嘴鍬と斧との希望者ありければ余等明日再び之を持ち來る事に約束し唯大なる鍋を五十仙に賣りたるのみ此場所は此近傍に於て最も好ましき處にして其山手六七英里の場所は只今採金し居れり毎日其谷に入りて働く者十數人の上に出づ若し下層迄堀て澤山の金を發見せば大なる繁昌を見るならん微小なる金は時々發見さるゝと云へり

二十六日火曜日曇微雨、昨日靴を賣りに十二英里キャンプの處へ行かんと早朝より出てたり此處に至るの路はこの邊の往來に最も宜き路なるも皆猿公の眞似やムースの如く這ひ行くなりやがてその處へ到り見しに昨日約束せしもの直ちに違約し二足にて五弗に購はんと云ひしに一弗ならば購ふべしなど法外の言ひければ遂に賣らず其近傍に晝食し居りしに他の人來りて之を一弗二十五仙に買ひたり歸路金の附着しある石を拾ひたり此地方は金のある處と見ゆ他日金塊を拾ふの時あるべし

二十七日水曜日曇風、此頃來の疲れを癒さんとて終日休息せり大堀君は例の網作りをなし



遂に本日を以て終へたり其長さ三十尺巾は四尺の物なり之を用ゐば小川を張り大小の魚を捕ふに宜し製粉機械に種子用に殘せる小麥をひきしに仲々粉末に出來篩を用ゆるならば上等の粉となる樣になれり此機は大に便なれども播種の麥類未だ五寸も伸びざるには用ゐ方なく閉口せり余等此頃大に顏の邊膨れたる如し何の故にや時々斯る事あり薄氣味惡きなり

（第十圖）

二十八日木曜日、余等は爰に越年の計として曩に種々作物を播種せしも悉皆不作に終り最早逗留策なく旅費

に充てんと荷物を賣らんとせしも買ふものなく百計盡たる末對岸なる探檢者の往來する要路に出て旅店及飲食店を開き其の利益を以て歸途の旅費に充てんことを計畫し其開業せんとする場所の探檢に行きたり向ふ岸に某なる者犬の對岸に在るを呼ふに過たればその犬を引き來る爲め向ふ岸へ舟にて送りくるゝ事を諾したり然るに白人他の一人を誘ひ來れりこの人己の舟を向岸に置きあるなりやがて二人を乘せ漸にして向岸に至り五十仙を得る事に約束せり余等又對岸に歸りてキャンプの處を過ぎしに嘗て桑港より同船したりしノルウエーの人も居れりそれよりガーチガの居所も知れりこの人々は直く向ふの山に居りしなり仍て余等の探檢を終へたる后彼等の天幕を訪ひしに皆不在なりしが暫くにして歸り來れり夫婦共瘠て見る影なし彼等云ふ冬季迄こゝに居り冬季人の新に來るあれば荷物を賣りて歸桑するなり今夥多の荷を棄てゝ歸るに忍びずと毎日探金に林に入る者の如し他の老人は四十九歳の由なるが家には三十三歳の娘と十四の息子とを殘せりと家鄉を想起して語れり彼の仲間はレーキに行けりワッソン、ブラザーもレーキにある由話せり

二十九日金曜、曾てなき大雨となりしが午后より水量增加し吾等の畑も危く水に浸されんとす櫂流れたり己にして大豆畑の一端は浸されたり若し作物收穫の見込あらば是より堤を疾に築くべかりしに一向放棄せし事とて唯望觀するのみ余獵に出てたるも獲物無しマスクラットの棲所を見當りしにビーバーと其棲家を同樣に作れり終日製粉器械にて蕎麥粟を引けども殼交りて喰ふ可からす殼ある小麥のビスケットを喰ふて余は下痢を起せり余は兎角胃弱と見へ少しく異れる食物を爲すときは直ちに下痢となるこれてはアラスカの生活も覺束なきを感ぜり大堀君仲々强く容易に下痢など起さすこの水量の增すは絕頂の氷雨の溺くるに由る絕頂の氷裂け通路の難を妨ぐるに心配せり

三十日土曜日曇、余は洗濯し大堀君は網を作り終へたりき午後に網を下せしが出水の事として水勢烈しく且つ泥水なれば引くべき便宜を失へり一尾を得る事能はざりき初めて畑より廿日大根と蒜と山東菜とを摘て汁に入れ味ひたり大堀君は亦小麥の荒粉と米とをふかして餅を作り味ひたり美味云ふ可からず

三十一日日曜日微雨、終日聖安息日として天幕内に呻吟せり

八月一日月曜日微雨、本日は引網を以て漁せんと川の下に行きたり七尾の香魚を得たりき

鴨あり流れを下る射て仆せるも微傷と見へ芝の内に隠れ見失へたり歸りに居處の上流の湖に出て小鴨二羽を射たり一羽は湖中の萱に掛りて得る能はず筏を以て得んと漕ぎ出し筏破れて余は腰迄水に入りて早々歸れり

漁溪流又獵山林　時或繙書到夜深
自徼日東長征客　一刀秋水伴高吟

八月二日火曜曇風、本日は對岸に移らんとて荷物を方附け或は背に負ふ道具を修覆などせり昨夜湖邊に至りマスクラットを獵したればこれをロースとして喰へりこの鼠にはマスクアリ皮と肉との間にあり麝香の如し曩にはそのマスクの所在を知らざりき曾て或る人の取去るを見たれば此度はこれ

（第十圖）



を除きとれり乾し置かば或は香料となるべし故に此の獸には香ありて喰ふに好しからず一度煮て其所を棄て而して料理して喰ふ可しビーバーも同樣の料理すべきなり近頃は九時になれば燈火を幕内に點すべきに至れり余等蠟燭充分なれば點燈して居れり又バルデスにありては空鑵の石油惜しみて日記を書く時の如き比にあらず何品も充分にて富める者の如しこれもはや歸路に就かんとして殘れる物も賣れず品によらば米も粉も棄て行かざるべからざるに由る實にアラスカの生活は奇々怪々余曾て數十種の花を集めたれども此も持歸る事能はず凡ての道具唯五六弗以上の品にして輕きもの丶外凡て棄て行くべきなり

（圖一）

八月三日水曜日微雨風、午前三時大堀君は起て銃獵に出掛けマスク、ラットを獵し來れりこれ先日余が獲し配偶なりき余は洗濯などして午前を消せり午後二人の白人珍らしくも余等の門前に來りけれはその内一人は曾て知る者なるを以て招きて休息すべきを以てせり彼等來りて休息せり彼等は昨日十一時に湖を發し難路を經て來れるもの頗る疲勞の體なれば食事は如何にと問ひたるに一飯を得たき旨請ひければ直ちに料理して彼等に與へしに五十仙を置き彼等大悅して行けり内一人は湖に至りて彼の荷物を賣りたる由なるが粉は百封二弗七十仙なりと云ふ砂糖は一封十仙の由四十位のテント湖畔にありと彼云ふ二十五英里東方に金を發見し三十人の採金者ありこゝに到るの路至難なりと去れども金は未だ多くは產せざる由なり余等今夜獵に出掛けんとせるも降雨なれば止めたりき

四日木曜日曇、昨夜降雨なりしに山嶺は既に降雪を以て斑白となれり溪谷の雪未だ消えず亦降雪を見る蚊的爲めに甚だ稀なりき川の水も減したれば余等は對岸の方に居を移さんとて早朝より荷物を川岸迄運び出したりこの居を移せしも固より一時の見込なりし故大概の物品を捨てゝ唯一ヶ月間の必要品のみ持行くことせり溪畔の圃場も其儘打棄て行くなり内に晩來收獲せしものは甘日大根と蒜葱からし菜山東菜蕪菁菜甘藍の一番移植に適する位のものなりき他は見込なく僅に寸縁伸び居るのみ晩來余は鴨三羽を獵したれとも草間に妨けられ一羽のみ手に入れたりこれ出立の悅として食せり

五日金曜日晴、早朝より尙も荷物を運び出せり且つ本日は天幕を疊み川岸に移しこゝに一宿せり又船體の損所を修理したりき

六日土曜日晴、早朝起きて天幕を疊み荷物を船に積みたり川を渡るに一度にては危險なれば二度に致さんと先つ渡りて對岸の林叢に荷物をおろし亦行きて積み來りそれより支流をとり下りしに川を蔽て大木の流れ來るに遇ふ斯くして其大木を片隅に寄せ下りて湖より出つる流に出つその水碧波鏡の如く曾て見さる清水なれば余等大に歎稱したりこの湖は先に居りし處と正反對の川の東にありて大小の湖細流を以て續き中央に百間四方位の島あり綠樹欝生し處々斷岩を以て圍み風景絕佳なり湖に入らんとするところに鮭の水底に沈み斃れあるを見たれば之を檢するに未た腐敗せさる故直ちに之を獲物とせり先つ初めての首尾能き事として悅べりそれより湖畔に上りこゝに上陸し先つ天幕を張るべき處を探り小湖迄廻

りたりしか大湖に突出せる半島の佳なるを見てこゝに居を占めたり天幕を張れるのみにして晩食後疲をおして船を出し網打に行けりそは小湖を見るとき數人の旅客棒を以て鮭を打ち捕ふるを見たれは鮭群聚するを知れるなり到り見るに果して淺き僅かの場所に鮭數十群り居れり亦他に逃入るべき處なき樣になり居れり余等鮭の斯の如く多く群り居る處を見しは初めてなりこゝは水底小石交りのところ故產卵する處と知らるその邊深き處にも群をなして遊び廻はれり云ふ可らざる悅の內に網を下し引きたりしが一回に四五尾を得たり網の鎭み輕き爲め逃るもの多し三十分位の中に二十四五尾を得船底は鮭を以て蔽ふはるゝに至れり歸りて之を裂き乾す樣に作れり先には數ケ月間僅に數人に出遇し程の寂寥なる所に住じ今は出でゝこの通路に客を需むる生活となりければ新しき話は日に耳に入れり境遇も變るものなり余等が此奇異なる生活は人も亦驚きけん出遇ふ人每に余等を注視せり元來日本人はこの數千人の內只余等二人のみなりければ大概の人は余等を知れり而して往復の人々皆余等と絕頂の難を經たる者なりければ何となく知人の如く感ぜるなり故に此商業も大に心安く思はる

七日日曜日晴、余等はこゝに天幕內に客を宿泊させ且つ食事も供する心組みなれば第一庖厨の勝手を能く作らざるべからず終日之を爲し漸くにして庖厨場を作れり夜來四人のペルプスより來れる人あり余等のてんと已に出來居れば一宿するやと尋ねしに彼等悅て宿せり然し來た廣告せざる前なれば宿料を求むるを憚り金をとる理に參らず恩惠的に宿泊せしめたり裏手の湖上に鴨の居るを見一羽を獲たり

八日月曜日曇、昨日余等は大概に庖厨場等も方附けたれば先づ早々廣告札を出すべしとて大堀君は午後北に向て行けりタナナ會社の二人外十人道に遇ひたりとて余等の此業を營むを知り來りて晩食を求めたりこれ余等の業の開始とす初めの客には昨日得たる鴨のローストを供すべき心組みなれば彼等大堀君よりこの事を聞き大に之を賞せり然るに余等は未だ客の來るを期せざりければ薪の用意も諸道具の用意も何もなさゝりき十二人の多勢に余は唯二人前の食器を以て供せんとすこれより大騷ぎにてゴールド、パンにビスケットを作り或は鮭をフライし「この晝頃余等又網を落して十九尾を得たれば船に置きたりき」などせしに續々客亦來り合して十九人となれり十九人の客に二人前の食器を以て供せんとするの

心配推して知るべし五時頃より掛りて夜九時頃食事を作れり然し彼等は皆満足せしもの、如しテントに容るゝ丈けは泊り其他は露宿せり余等は庖厨場に足を横にし眠るのみ明日も四時に四人の客に賄ひ六時二十二人と十八人に供せざるべからす今度薪や其他のもの今夜の中に用意すべきとて其仕事に掛り朝の二時頃漸く眠に就きたり鮭二尾を賣れり鮭の群れる處は恰も旅人の通路に當る故通りの人皆其鮭の多きに驚き銃を携ふる者は必ず發銃して之を試む北より來るものは其群れ居る場所を知らず余等が隨分難儀して獲るものと思へるならん而して其場に至りて手握みする如き捕獲の容易なるを見は初めて余等の思ひ付の宜かりしを知るべし僅か三十分間に二十尾内外の鮭を網するは實に容易なり而して網を下すの好場所は一は二十間位の灣を爲せる一尺五寸位の淺瀬と一は其近くに同樣の淺瀬にて四十間位の灣形を爲せる二ヶ所にして無數の細流支川より上り來りてこゝに聚まる鮭の孵卵場なりとす現に今その孵卵するを觀る

九日水曜日、晴　二時に起て食事に掛れり四時に出來たれば四人の者に其旨を通ぜしにこの朝迄食事を待つと云ひし者共ははや既に彼等自身で作れりとて切角昨夜約束し余等を早く起さしめ且つ四人前の料理せしものを無用に歸せしめたり實にヤンキーの所爲笑ふべきものとす僅か食料二十五仙を惜て目前に斯の如し亦外三名程も早々食事をなさず行けり殘る十二人に五時頃食事させたり余等の料理を二十五仙とせしは大に廉價にて昨夜も其廉なるに驚けるが如しそは隨分澤山に喰はせ且つ品數もあり先ず鮭ベーコン、野菜米ビスケット及び最も強きコーヒーと菓物とす若し器具備はり居らば五十仙の價を徵するは至當なるべし然し此の奔走を爲せし爲め一夜の中に七弗七十五仙を得たり大に滿足し食事店なるものは如斯利益ある者にやと一笑せりローグーローなるもの桑港に歸りて眞篠君を訪問すべしと云去れり本日も鮭二尾三十仙に賣れりルンと云ふ鴨より大なる鳥二羽を得たり天幕外に掛け置きけるに人皆其奇を稱賛せり大堀君がガーチガを訪ふて大麥を與へ來れり彼等望みしもの余等播き殘したるものなり彼これを以てビールを造ると云ふ一英里の森を隔てゝこの友人あり大に往復慰むべし彼の處は通行路ならざれば寂しき事余等從前の居の如し夫婦唯空溪に閉さる

十日水曜日晴、天氣定りて晴空亦二月の天の如し斯る天氣はアラスカに珍らしき事となれ

り夜風無く新月東山に昇り孤島影を倒して魚細波を起し鴨は水草の間に泊して時々鳴く其の光景書裏にあるが如し本日同船たりし者二人伴ふて來り晝食をなせるのみ通行稀なる日なりき晩來網を下して鮭十四尾と香魚二尾を得たり昨夜三英里キャンプより獵に來れる六人のものゝ余等も彼等の所に至り網を下したれども夜中と云ひ彼等已に數回かき廻せし跡なれば唯鮭四尾と香魚二尾を得たるのみ二尾を彼等に與へたり彼等各國の外人種々快豁の遊戯を爲し野火を圍んで談話せり其狀實に小説に見る如し

十一日木曜日快晴、本日は終日客なく唯靴下一足を賣りしのみ靴下一ターズン程と云ふ賣札を掲げしに意外にも買客ありき余ガネガ上を訪ふて鮭一尾を彼れに與へたり彼漁具無く曾て鮭を味はざるものゝ如し

十二日金曜晴、近來大に暖くなれり本日は起床するや否や朝食もせず例の漁場に至れり鮭群をなし常より多く半時間頃にして六十六尾を得船中鮭を以て充されたり人あり價甘弗を以て余等の一切の荷物を買はんと欲す曩には甘弗にて一切を賣却せんことを希望せしもの後旅店を開き十弗を得たれば今前日の價を以て一切を賣ることを好まず余等の衣類及熊の皮一枚小銃とを除き餘は一切二十弗にて約束せり實に余等にとりて大なる幸なりとす神は常に吾等を守り給ふ今この事ある亦神の攝理の余等に厚きを感謝せりこゝに於て食事店をも閉店し明日は彌々歸路に着くべき事となれり彼の名はチャーレー、ルーセルとてアイオワ州ジイルノックス市の人なり彼の仲間は歸國し彼一人ダウソンに向て進まんとの心組の由思ふに彼は船を覆し大半失ひたるものゝ如し彼對岸にある荷物の處へこれを一處にせんとて余等に船を送るを賴みたりしが之に應じ三人にて行きしに水增加し大に難儀したれどもこれがアラスカに於ける最後の事としてこの難に堪へたり余等腰迄水に入りて之を運びたり余等窮して成すべきに際し旅店を營み今亦此幸機を得て漸く歸途に就くを得んとすこの湖上の光景は永く腦裏に印して忘れすこゝに來りて鮭を捕り鳥を獵し白水青山の間に驅馳せし狀況は他日必ず夢寢の間に往來するならん余等が作りし疱厨場はそのまゝに存し置けり通行人に便し且つ余等が殘せる多少の食料品等も彼等に便すべきなり

十三日土曜日晴、余等は本日を以て彌々歸路に就く事とし早朝より起床して旅裝の用意をなせり携帶の物品は一人にて五十封の上に出づる事能はざれば唯必要の品のみを持行くと

としたるも食料品三日分を持ちたれば中々重くなりたり置き殘せる諸道具及び疱厨場並に鮭百尾ほどその他の品は皆通行人に便する爲め標札を樹上に掲げたりき六時頃余等は此景色佳なる湖畔の巣窟を辭して歸路に就きたり既に材木會社の處に至り晝食をなしそれより尚ほ進で絶頂の麓に達しでゝに一夜を明す事とせりその場は濫木を横に柵としある誰人かトランクの殘し置きたるなれば之を食卓とし火を焚きなどして一夜を過したりきこの間の行路頗る難なりしも敢て歩み難にあらず眼前に當る氷山の絶頂は碧皚峨々何の邊よりか通路を求む可きか知れる人の案内に因らされば通行六ヶ敷き由その麓の飲食店に聞けり店主且云ふ多分フォルスト、ランバー、ブレースより明朝三人の通行者あるへけばそれと同伴すべしと仍て余等はその同伴者を見失はざる樣早朝に起き一日間の食料をこゝに作りたり我等持參せる蒜は材木會社に於て二十五仙に一把を賣れるのみ他に需用者なけれ余等の所用となし持參せるが曾て余等のキャンプに來りコーヒーを飲たるタナヽ會社の社員に遇ひたれば余は此の人々に蒜其他野菜を與へたりしに大に悅ひ居れり

十四日日曜雨、年前三時に起き喫飯せり通行人を待ち若し來らざるときは時間を空過し登るに不都合なりとし直ちに發足し氷山に上りたりしが僅かに路らしく見ゆる處あれば之を取れり上る事一英里半程所々決裂し且滑かにして危險甚しく到底此路を進むべからす聞くに一週間前程兵隊三十餘名馬を率きて通行せしと其の足跡を尋ぬれとも知れす多分右の山手を通行せしならんと思ひ山畔岩石のところを飛ひ渡り進めり遂に上る四五英里殆と山上に達すれども道を見出さすこゝに空腹を癒し考一考するに若し路なき處を進みて氷の裂くるに遇ふときは墮落を免るべからすとされども到底見出し難し仍て意を決したり幸に途上に拾ひたる細ありたれば二人にて兩端を持ち若し落ちたらば互に助くるとと戰々恐々として歩を進み遙に見ゆる砂礫の丘に達せんとす然るに其の處に二人の樵を引く者あるを見出し大に力を得往きて路を尋ねしか彼等は絶頂に天幕を置く者にして其處に飲食店を設け置けりと彼等に導かれ其天幕に至り小憩し尚ほ路を聞て絶頂に達す飲食店あり今や亦移りて下らんとす時々雲四面を蔽ひ細雨寒を送る下りて右側の山手に入り進む二英里これよりフォース、ベンチに掛らんとすフォース、ベンチは其通路に於て最も危險とするところにして夜に入れば進む能はさるを以てこゝに一夜を明さんと大岩石を楯にし礫上に居を占めた

り時に遙に馬の度り來るを見たれば相圖の爲め小銃を放ちたるに二人の先つ來るあり其一人は郵便配達ジャクソンなり大に悅び同人の小憩を請ひ道を聞き圖を畫きもらひたり馬三頭人五人續て來り總勢九人となれり余火を焚きコーヒーを作り彼等に饗せしに彼等意外の處にコーヒーを得悅ぶ事甚だしジャクソン余等に種々の食物を與へたり夜雨蕭々の下氷上に居を占め一夜を明したりき

十五日月曜雨、余等は同宿者と南北に別れ余等は第四氷山を渡れり氷決裂縱横僅に馬糞のあるところ人跡の雪上模糊たるを認め或は飛び或は廻りて進み漸くにしてこの難塲を過ぎたりそれより亦砂礫を踏み進む四五英里フォルスト、ミール、キャンプの處に至るこれより右に折れ山手に入るべき經驗あれども霧深くして知れず唯氷上決裂を飛越て處々徘徊し居るのみ漸くにして山腹雪を見出しこゝに達しそれより尙ほ進て第三氷上の難處を下らんとす八方路を求むれども知れず今は致方なしと山下に戻り僅に枯木の梢を集めこゝに火を作りて一夜を明さんとせり是より先余等三發を發銃せしに二發の遙に對するものありしかこの時大堀君は遙に外人の氷上に立てるを見て頻に大聲之を呼び居しが間近くなれは一人の外國人にして彼も同行せんことを話せり彼も路を知らざる由なれども三人の勢にて打越んとし立出てたり時に六時半なりきそれより彼れは路を山路にとりて進めるか彼は大男にて脚長し大概の裂目を越ゆる容易に見ゆ然るに余等は五十封の重荷を負へ彼に從ふ困難甚し一度余は危くも裂目に陷んとす漸くにして止まれり嗚呼こゝに落ちなば生命こゝに落んのみ八方掛廻りて夜の十時頃となり霧深く夜暗く僅に數歩の間を認むるのみ險難極まれりと云ふ可し余は意を決しこゝに一夜を明す汝勝手にすべしと云へしに彼れ外人水のあるところを認め度しと云ひしに幸に裂目の間に水の在るあればこゝに泊せり烈寒凍るか如く吾等の食物を煮ざれば他に喰ふ可きものなき故こゝに於て凡て衣類諸道具を焚き唯聖書と數品の輕きものを殘し焚火一夜を保ち寒を防き食を作れり其慘名狀すべからず余等若し眠りなば必ず寒に觸るゝを知りたれば大堀氏にも眠るべからずと注意せしも氏は倦疲甚しく氷上に横臥して少時間眠れり余は外人と四方八方の話をなし凡て大切なる書類殊に余か十七年間携帶せる詩本迄も焚き盡せりこの朝余は磁石を落したり明日は食物朝僅に一食分を餘すのみなれば若し道を見出さすばこの氷山に凍死する外なしとし荷物を輕くして意を決せ

り

十六日火曜日、四時になりたれば天明け道求むを得べき故直ちに朝食も喫せすこの場を去り又も東西南北に裂目を渡り路を求めたり余等昨夜凡ての物を棄て荷物を輕くしたれば本日は飛ひ廻るに便なりしも其危險一歩を誤らば生命を氷下に失ふ可きなり漸くにして路を見出し雀躍して下り其山下に出てたる時は脚余が物の如くならずこれより四英里のペルテスに十英里の如く覺へ漸く達せりグラシヤー旅店に投し全身の雨露を乾し未た朝食をも喫せざりしこの倦體を以てグランド旅店に至り食畫せり食後余は胸惡く嘔吐を催せりそれより歸りて直ちに眠りに就きしが一睡前後を知らず晩食をも喰はず翌朝に至れり余曾て昨日來の如く危險を冒せし事なく亦疲れ眠りし事なし余等のペルデスに達するとき余を知れる人多く皆路に出て余等の安否を訪ふヂーストンの一と組能く觀喜して門に迎へり余等曾て湖畔のキャンプを去る時多少の食物及ひ衣類疱厨具など殘しこれに掲示して自由に便すべき旨を以てせしに余等と同日に來り而して余等より一日早くペルデスに着せるもの余等のキャンプに至り飲食なせしとて大に感謝の意を表せり且つ人之を聞き其義心に感せる者多



し多の者は皆之を焚きて去るならんロファテにグランド旅店に遇ふ彼は銅河を下りヲルカより廻航してこゝに達せる者なりと余等が先夜氷上に泊し凡ての物品殊に十七弗も價する網迄も焚き盡して一夜の寒を凌ぎたる旨話したればその余等の決心を知りて驚く者多かりき實に今朝若し余等路を得る事能はざれば氷山の上凍餓に仆るゝの外無きの慘狀を招きたるべし實に神の導は難に臨みて彌々顯るゝに感謝すべきなり

十七日水曜日雨、昨日午后より一睡九時頃に至れり朝食の鐘聲に醒まされたりそれより朝食し尚濕衣を乾し而して街を徘徊し旅店にありては一日二人にて一弗つゝ費さゞるべからず且つ船は二十五日に着する由なればこの間に於て蠣中大概買し復た船に乘るに由なからんとす他に宿料の廉價なる處も無きやと探したり海濱に至りしに小屋の内に十數人立食する處を見る一人余等を招き屋頭に坐せる老人の許に至り皿を乞ひ來り食事せよと云へり余等その何の故たるを知らず老人に皿を求しに彼何程所持金あるやと問ふ余は答を四十弗未滿なりと云ひし處へロファーテー來り老人に何か云ひたれば老人皿を與へたりロファーテー云ふこれは政府が金無き歸路人を扶助する所なりと一食を成せりされども余等日本人と

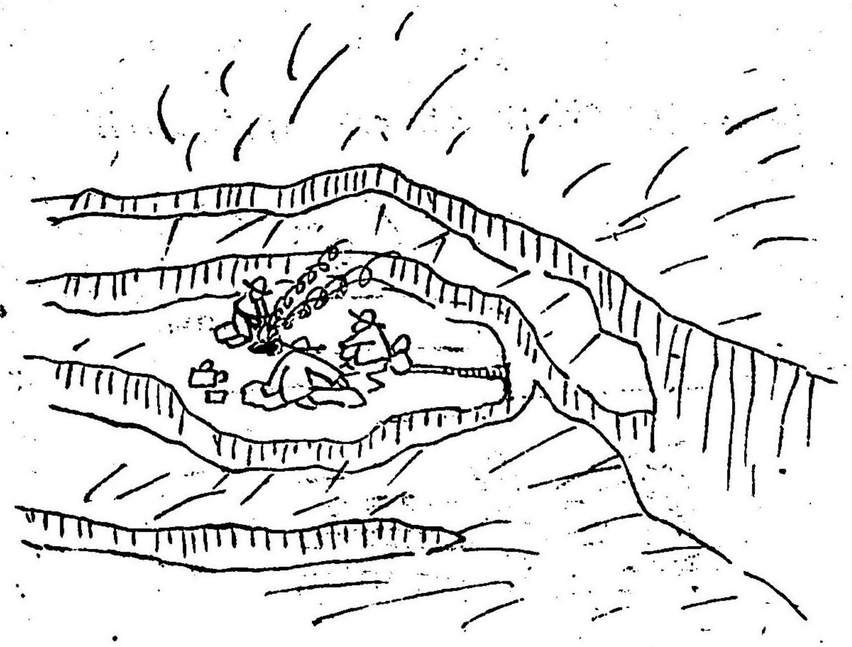
して唯二人今日迄白人に背後を見せず今この扶助を受くるは心に安せず他に宿料廉價のところあらば之に移るべしとす余は尋ねて一週間二弗にて天幕及庖厨の器具を借るべき處を得老人及びロフアーテーにその旨を話して之に移れり此海濱の小流に鮭群をなせり余一尾捕獲したるはロフアーテー鮭の頭部の損せるを見て兵士か銃殺せしものなりと語れりこゝに於て亦余等は天幕の生計を營む事となれり余は熊の皮を三弗五十仙に賣却せりこれも已に前夜の露宿に薬つべかりしなりき茲に於て嚢中三十六弗を所持して此天幕に入れり政府のこの扶助を仰く者日々多し元と兵士の天幕たりし處に起臥し毎日食后少時間の薪材を作る由なり聞く郵便局も次便の船より設けられ已に局長は來りて此地にありと人あり土人の狀況を語るものあり其談話に仍れは漁業の甚だ幼稚にして拙劣なるを知る而して土人は此の漁業の外生命を保つべき業なしその生計の難推知すべしバルデスにサルモン、パリーあり余が鄉の莓なり其實成熟し居れり

十八日木曜日雨、早朝大堀君は捕鮭に出て二十尾以上を獲たる由僅か二間幅の淺き河に夜來より早朝に至りて群を成して上る手つから捕獲するを得べし此處の鮭はハンバーダ、サ



ーモンと稱し味劣等なり終日唯天幕に潜み居るのみ木莓を摘めりこれは余か鄉の品と同しけれとも雨多き爲め味更になしサルモン、パーと稱する地に野菜を播種せるを見るに廿日大根チシヤ葱ビーツ二度豆などの發育するを見たり絶頂の方は風ありたれともさまて雨なかりしか當地方は

第十二圖



毎日の雨僅に余等着前三四日の天氣ありしとのこと着後毎日の雨なり雨量はシテカ世界有數の場所にて九尺以上も降るとの事なればその近傍故斯くもあるべき事なり

一灣藻碧水成紋　無復來時氷雪紛
稍見人炬及退僻　寂寥猶鎖滿村雲

十九日金曜曇、無聊に蟄居するの外なし

（第十三圖）

當地にある者皆無聊の徒なれば往復訪問閑斷なき者の如し而して多くはグンサー及び銅河上流の困難話なり

二十日土曜日雨、天幕を守る事例の如く頗る無聊を感ず時に土人の若者二人シテ

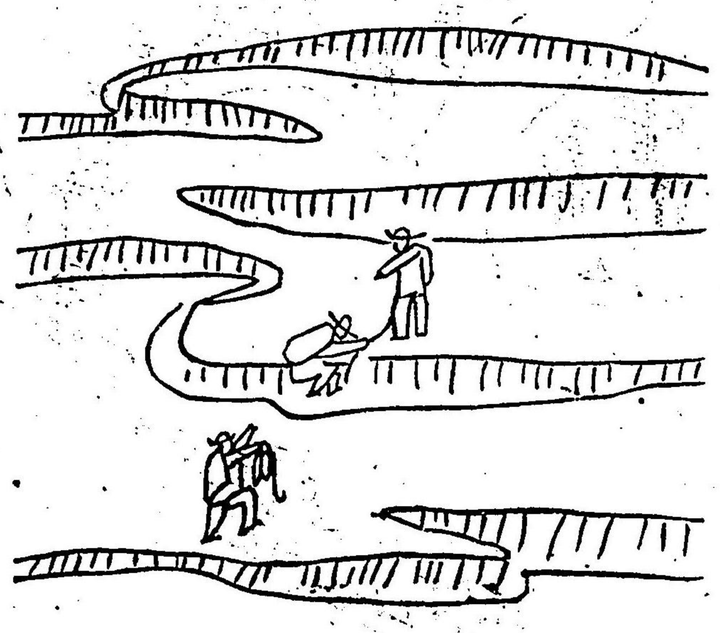
カより來れるありその村落は三十英里を隔てるとの事其容態日本人に絶似せり余等彼れを天幕に招きコーヒーを與へ且つ一二の品物を與へて土人語を聞取れり彼等の祖先は露國より渡れる者の由にて（サィベシ）と稱す

（第十四圖）

二十一日日曜日雨、本日も天幕を守る例日の如し毎日人あり來りて四方山の話を爲せり銅河行の難を聞く

肅氣入衣秋正闌　還家何日路漫々
北辰影落銅河上　過鴈一行霜月寒

二十二日月曜雨、終日天幕内にある事例の如し途上貝殼の放棄あるを見出し介類の產出す



（第十

（圖五

るかを思ひ濱に沿ふて散策せしも一も見當らず泥深きに由るべし唯見るものは鮭の群泳ずるものゝみ

二十三日雨火曜日、毎日降雨と霧とは此地の夏期を通して斷へす故に木苺その他の野菜は余が國の物と同形にして色澤の美麗なる數等の優れるを見る去れども其味更になく生食するに堪へす

二十四日晴水曜日晴、日は此地に於て四十二日目の由にて人々快顏を開て徘徊せりグレシヤグを越て來る者七八名を見る何れも例の困難に疲れ敗兵の歸陣を見るが如し本日は氣船か來る筈なりとて待ち疲れたるもの頭を延て待居れり夜十時頃スター、ヅオルコット號着せり仍て余等も此船に投せんとし先つ夜半起き船長を訪問せしが遇はず人の話によれば船は明朝十時に出帆する由なり余等の懷中には三十三弗あるのみシテカ迄四十弗無ければ二人にて行く能はす止を得す太堀君はるかに止り余先つ到て金を作り大堀君を呼はんと計れり而して大堀君食用の爲めとて殘れる粉とパンを用意し船に入る

二十五日木曜晴、早朝起て數回船長を尋ね漸く遇てシテカ迄便船すべきを話し二人にて三十弗にて送る可き事を頼みたれども彼聞入れす止を得す余のみシテカに至る事とせり茲に六ヶ月間艱難の生涯に疲れしバルデスも今は一瞬の間に見送り船は平滑なる灣を迂回して走れり島嶼相續きて曲灣連續し恰も大河を走るが如し夜六時オルカに着せり冬時の風景到る處に變し碧翠大流を挾て大魚淵に躍れり余は直ちに棧橋に上り徜徉したりこれより先き余は船長に談し余等所持の日本刀と金五弗を出し大堀君をシテカに同船すべきを乞ひたりしに彼れオルカに至り謀るべきを以てせり爰に於て余は日本刀を出し示せしに彼れ大に歡へる狀の如し仍て余は必す大堀君の乘船を諾すべしと信したれとも尙ほ彼の決答を得さる故に如何になるかを心配しこの夜甲板の上にその儘假眠したりこの船に料理人二名日本人乘れり一人は長くアラスカに居るもの他は年々料理人としてオークランド(加洲)より來れるものゝ由こゝに於て船中四人の同胞を得久し振りにて同胞人に遇ひたる事とて大に悅び且つ四月の日本時事新報や太陽なども借り見たり船客はセント、マイカルより來る者ありアンガより來る者ダウソンよりするもの多少の金砂を囊にすると云へども銅河よりするものは皆余等の輩なりこの船の庖厨場に居りしに近傍の島に住する日本人に遇へり彼土人を

妻とし五年も居る由且つ云ふ此の土地頗る氣樂なりと獵を業とすれども近來獸皮の價低落且つ年として獵の稀なるに遇ふ故金を得る事能はずラッコを獵し其皮二百弗に賣れども入費に百弗を費す由同胞の乘客二枚の獵皮を持てりその良褐色我國の狐と異ならざれども稍柔毛に覺ゆ

二十六日金曜日晴、珍敷晴天にて海上晴快碧流綠を沈めて鮭魚躍る朝來石炭と水とを積み込めり今拔錨すれば大堀君は遂に乘船することを得ず余は船長の樣子を伺ふて彼日本刀と五弗にてシテカ迄伴ふ可きを以てせしに彼諾せず此に於て止を得ず先つ同船せし日本人に謀る彼快く承諾し其用意金少き懷中より五弗を出して余等に供せり余は日本刀を彼れに與へんとせしも彼辭して受ず實に奇特の人と云ふ可し尙ほ二弗の不足なりければ短銃を料理人なる日本人に渡して茲に漸く大堀君もシテカ迄の切符を購ひ同船するを得たりユーコンより來れる博徒二人あり彼等余を導て製造場の傍に誘へ一人ユーコンの金砂金塊を出して余に示し以てユーコンの博奕の仕方を示せりこれ余をして此の仲間に入らしめ以て爲すあらんと企てたるものゝ如し余其意を知りたれば早々晝食に托じて逃去れり

二十七日土曜晴、波平なれども自然波は大なるを以て小船頗る動搖し余も終日パン一切れにて困臥せり大堀君は何も食はず大に困難せるなり船は今夜ダクテートに入る筈なりき夜來セント、マウント、ユリアスを左舷に認むこの山は昨年伊太利の皇族殿下の山頂に登りし有名の高山にて一萬八千〇十尺あり海岸に屹立し雲表を衝けり十時頃北光は此の山より海上に輝き變幻雲狀を成が如し北光を見る初めてなり冬期に至れば光輝鮮明奇觀の由なり北斗星は中天に輝けり

二十八日月曜日晴、聞く近來無き好天氣なりと實に幸なりと云ふ可し今朝一時頃船はヤクタートに着せり曉來甲板に出て見れば土人男女種々の物品を持來り例のカヌーなる掘船を船の片側に繫ぎ居れり或は海豹の皮を以て作れるもの或は小刀細工その小刀細工は我國の北海道に住するアイヌと異るところなし而して其狀態は日本人と殆ど絕似せり婦人は稍口大なるを異れりとすヤクタートは灣深く入りたる好風光の地たりこゝより冬期ダウソンに向て進みたる四百人の內目的地に達する能はずして中途に滯りたるもの六人の乘船するあり午前六時頃ヤクタートを發したり船は岸近く走りたれば海岸の峯頭兀立銀色を裝ふも

の奇觀云ふ可からず鯨の躍るあり破船と覺へし檣頭の波間に顯はるゝあり本日日曜なればとてユーユンを廻り歸れる傳導者の說敎ありたり

横空光曜似長虹　極北天文氣象雄　踏破千山遊未倦　揚々又駕滿帆風

二十九日月曜晴、船は漸く海峽に入れり波平にして乘客初めて元氣に見ゆそのジュノーに近くディア號に向ふ船舶に遇ふと頻なり午後五時頃ジュノーに着せりドーグラスには冬期立寄りし時左程に思はざりしは今は仲々盛大の金山となれり世界有數の中に顯はれ居る由にて目下鑛夫も三四百名内日本人の料理人十數名ありと聞くジュノーも冬時より一面目を替へ山半より一面に見渡す家屋中新築せしもの累々指すべし扨先つ上陸してこゝに働き金を得んと企てたり日本人の料理店あればこゝに至りて樣子を聞き且つ宿泊丈け依賴せんと思ひたるも承諾の氣色なく大に疎外するの氣味あれば止を得ず出てたり

三十日火曜日快晴、午前十二時ジューノーを發したり快晴嘗てなき航海なりし夜星野某故郷の談話を開きしに同君の知人は矢張余の知己なるを知り大に興に入れりそれより甲板に出で見れば滿月山頭に掛り平波金帶を曳き其快絕云ふ可からず仍て叫て曰く今夜詩歌の出づるあるにあらざれば寢に着く可らず漸く苦吟せり

渺々金波湧　皚々氷塊流　清涼今夜月　不識長途愁

三十一日水曜日雨、船海峽を廻りて水波穩に烟雨の内にシテカを望見せりやがて船は午後二時頃シテカに着すそれより上陸して先づ日本人の在所を尋ねたり不在なりし爲め支那人の食事店に至り星野君とこゝに一宿するとしたりやがて日本人來りたり彼れは七年間も此地にある由なるが故當地の事情を審にするを得たりきそれより支那料理を得大に珍味を貪れり日記は此シテカ市着を以て終る事とし他は更に筆に隨てアラスカの生涯を述べんのみ

寒雨蕭々として天幕を叩けり七月雪猶背後の深谷に埋れて、溪流水增し魚躍る、氷山は十一英里の東南に見るべく蚊群日夜に襲來り暫くも手足を休むべからず時に是月二十三日余等が此行の既往を憶ひ卓に凭りて筆を執り所感を記して以て余が此日記を補ふ所あらんとす

昨九十七年は余が米國加州に於て小作農事を營める年なりしが其八月ユキザミナー週報

(桑港の一大新聞紙)は余に報ずるにアラスカ金鑛の宏大無限を以てせり蓋し余のみならず世界に紹介して一時人を狂奔せしめたりき然れども此に赴くべき旅用なくして看過に屬せしのみ然るに本年は小作農事稍〻收利の見込立ち居れば明年こそ余がアラスカに事を營む時機なりと密かに之を期し共に小作に從事せる大堀君に余が意中を語れり君は北海道の人能く寒國の習慣あり且つ堅忍剛毅共に冒險の大事に當るに足るを觀ればなり君直ちに之に應じたれば此事時流に狂するに似て世間の笑を招き且つは他を奬勵するの可ならざるを知り萬事秘密を守りたり時に柏萬次郎君余が居所に來りて消夏せり君の歸桑を送る途中余が企望を告げたりき野田君にサクラメントに遇て之に告げたるのみ故に知人と雖も余が企を知る者他に無かりし依て余は熊の皮及び油紙などを市川君に注文して東京より取寄せたり蓋し當時余はカバー、リーバーを上りてドウソンに出て夏は菜園を作り冬は材木或は漁獵し或は働きたらば一日十五弗の給金を收め鮭一尾二十五弗薪材一棚五十弗の代價を收め以て目的を達すべし且つ其内には採金の好機を見出得べしと期したりしなり去れば油紙は温床用に充んとせり萬事秘密を期し居ることゝて凡ての用意をなさんとすれども人に知られんことを恐れ數枚のリンクス皮を得たるのみ偖十月も終り小作約束を解くの時來り十一月中旬余は一年有餘棲慣れたるダンビルの農園を去りて出桑したる往年伴ひ來れる余が同村の水戸部の歸國するを送り而して余等はアラスカ行の用意を爲さんとて居をカーヂ街一千八百九十七番なるヒイシヤー老翁の一室を借りてこゝに住せり是れ吾同邦人の足跡の到らざる處必竟余等の行の秘密を保つに由る既にして余想ふにアラスカ行は春三月以後ならざれば寒氷深鎖して足を容るべからず其迄は野田君の處に至らんと思ひたりき然れども余をして竟に桑港を去る能はざらしめし一事は余が當時の地主たりしエ、エイチ、コープ氏は余に殘金四百有余弗を送りたりしに其書の紛失より起りて金を受る能はず延引余が足を止めしめたり然れども想ふに余等の在港せるは幸にして他所にありては此準備を全ふすること能はざりしなり天幕より皮の衣類に至る迄悉く余等の手にて作れり或は藁靴を作りて第一にフィシヤーを驚かしたりき余が友下飯坂武次郎君は鄕里に在り余書を以て余が意を通せり君は積年余と事業を共にすべきを期せし者今此行君の伍するなかるべからず然るに君か家累俄かに斷絶す可らず余の先行する止を得ざるに至る漸くにして余等の用意は備りた

り一年間の食料及數年間の準備の衣類などに費せしは五百弗に足らずと雖も船賃より滯在せる費用を合して千弗以上となれり余等の金充分ならず小田代君に返すへき金を返す能はずして其儘謝狀を殘せしは慚愧に勝へざることなりき余等を乘するアリアンスなる船は二月の十日に桑港を出帆することを知れり其前已を得すして余等か此行を通せし知友等は屢々會食などして告別送別の意を殘したりき余等か此行若し意の如くならされば幾年アラスカに勞苦するも歸る可らずと期したることなれば吾身内なる肥田野や今井君等に何となく意を殘したりき郷里の方は唯一年間遠方に旅行するのみ報して來書を招かざることとし當方よりも書信を絶つことを告けたるのみ故に故國の兩親知己に何處に行くや何の目的なるや一向知らざるものゝ如し然し大概書中の意にて推料せるならんか嘗て水戸部には此企を話し置きたれば彼より竟に漏れたるやも知るべからず

十月十日アリアンス號は棧橋を浮び去れり余等を見送るは柏君一人のみ余は殊に他の知人の見送を謝せしに由り柏君が始終余等の用意を助け君が頻繁なる事務ある内に親切を盡せしこと忘る可らず既にして海荒れ余も嘗てなかりし船暈を起しなどして困り果たる間もなくシャートル港に着しフートゝランクルに水を得ジューノーに食物を得たり冬期アラスカに航海することゝて海は穩ならず十七日間を經て漸くにペルデスに着したりき其時ペルデスの近傍に最初の上陸者數名居殘りしのみにて瀕海は名の知れざる落葉林濱を廻り劍立せる峰嶺天を衝て四圍せる處に上陸せり長き航海に疲れ余等は一二週間保養せり其より人の行く道を求め橇を牽出しこゝより銅河に旅行せんとし初たりき船ペルデスに着するや船長一方の山を眺て云ふグレシアはあの邊にあり彼の處を經過するなりと余等グレシヤーは何たる者にして如何なる狀況のものなるや知らざりき唯氷山なるとを知れり今橇に百ポンドの荷物を積み到り見れば如何にも氷山巍峨として勢崩れんとするものゝ如く雪之を蔽ふて或碧或は白慘然として前路を塞げるものゝ如し其左右溪の如き處を以て路とす人は云ふ此處三十英里復一本の樹なければ薪材一棚程を用意し行かざる可らずと因て余等も漸くにして荷物を氷山の中腹に運び天幕をこゝに移し一棚位の薪を作りたり此よりサンミット（絶頂）に到る迄二回天幕を移し三十八日間を消して漸く絶頂を越え林に入る其當時の狀況は日記に詳記せりやがて其より湖に向て進む此より天幕の塲所呼聲を異にし余等は七英里キ

ヤンプと云ふ處に天幕を移したり此より湖水迄は八英里なるが今や雪已に消え通路斷絶し進むべからざれば已を得ずして船を造るとと定め此より造船に從事せり余等桑港にありてアラスカには大木ありて土人は大概刳船を作りて便すると云ふことを聞き居れば此くは船の道具丈を用意したりしに左程の大木もなければ板船を造らざるべからず因て先づ船の兩側丈を刳り舟の如く作り一側に板二枚づゝを加へ底には廣き板一枚を當て先端は水切れの好き樣に尖らしたり幸當國の國民兵や瑞典の人など近傍にありければ彼等より鋸を借り得て此の板を挽きたりしが中々慣れぬ事とて余は遂に胸部に痛を起したりき斯て船は種々の困難の内より漸くにして出來したりそれより此激流を下らんとせし中に遂に氣候は播種の節を催し寒暖計八十度にも達するに至る此より湖に至らんとすれば今後尚一週間以上を消し穀物播種の節を失せんことを恐る因て遂に此近傍に圃場を營むの已を得ざるに至り余は此場を撰定せんと一日山麓を廻り遂に湖の落ち口なる二エークル程の平地を見出しこゝに開墾を初めたり開きては播き播きては拓き其間天幕も其場に移し今は人なき林中湖畔の一小境に閑々農事を試むるの時とはなれり然るに茲に余等をして一大失望を來したるは氣候の變化にして初め種子を播きし時は熱度日に增し此分ならば蕎麥大麥などは勿論收穫を見るべしと悅び居りしに六月廿日頃より寒冷日に加はり雪も降りなん天氣具合となり爲に蚊的の襲來は多少減じたれども圃場の作物發育思しからず去れども未だ七月にならず七月八月九月の中旬頃迄當地の夏期なれば其内には天氣恢復し再び熱度の高騰することあるべしと安心し居りしに七月中旬となれども熱度面白からず折角發育せる穀物も其儘の寸緣にて到底發育の見込なし於是初めて當地の氣候は最早見込無きを知ると同時に余等をして余等の目的を轉ずるの已を得ざる一大事に移したるなり

初め余等は素より充分の金なく唯一年丈の食物を用意したり此一年の食物わらばカパー、リバーの狀況を視察し若し不可ならばドゥンに行くべしと然るに途中常に饑に攻められ實に言ふ可らざるの節約をなし或は人の棄てあるパンの屑を拾ひ或は微て犬も顧ざる菓子にても食物とあれば一小片をも見當り次第拾て食物を補ひ氷山の内唯米と粉と鹽位の粗食にて難苦し來れるに兎角饑は余等をして餘分に豫備食を消せしめ十二ヶ月の食物が今は九ヶ月位さい支ふ能はざるに至れりされ共何か一種にても穀物出來なば之に依て明年の夏迄

支ふと出來且つ網を作りて魚を捕へ魚半分穀物半分として支んとせしに圖場の狀況此の如し當時余等は一日二度粥のみとし晝食丈けは粉を喰へたりき五十封の米二人一ヶ月の食料と減ずるも十一月か十二月迄支ふるに足らず顧ふに余等何を喰て此寒山に栖み此雪路を進んが元氣雄往アラスカを呑むと雖ども魚のみにては余等の生命一年を支ふ難路を進む能はざるなり於是乎日夜其進退に熟考を凝せり是時に當て前進の人多く金は何れの處にも見出し能はずとて歸路に就くもの日に十數人且つ舟路の難き往々船を覆し其荷物を失て歸るものありければ或は其失なる荷物を拾ひ取りて余等の目的を達せんか或は背て氷山絶頂に於て雪に紛失せる荷物を捨取らんかと遂に絶頂の探檢に出掛たりしか行路不通歸路絶頂の狀況を聞き到底其紛失せる荷物の塲所に到る能はざるを知れり聞く其塲所は氷山龜裂危險云ふ可らず今通行する路は他の方向にして先つ安全なる方なれども尙ほ數人隊をなし棒と繩とを用意して終日進み纔に絶頂を越ゆるものなりと吾等如何にするも紛失せる荷物の舊路を求むると能はず又人の水中に沒せし荷物は激流の爲め泥沙の埋沒する所となる且つ人の歸るも或は賣却し或は人に托す其果して棄て歸り余等が之を拾ふを得べきや否やは十一月にならされば知るべからす此のあてなき品を待て余等の食物を消費するは死を竢つと異ならざればこゝに余等も全く策盡き運命天の氣候に定められ歸るの已を得ざるに出てたり直ちに余等か殘せる食物及道具を人に賣らんと試みたり其品附を持して他の天幕に行き問ひしに時已に悪く到る處皆不人氣にて拋棄して歸る如きものゝある由にて誰れも金を出すものなく二回近傍を馳廻はりたれども合手にする人なきに至れり余等の懐中三弗位のみ此金にてバルデスに出るも船を離れて何處へも行くと能はす固よりカリフォルニア洲に歸りて知人に遇ふの氣はなく飽迄バルデスに在りて金を作り或はシテカ或はシューノーなりへ行きて本年の冬中に來年再擧の金を作らんと心組たれども其處に至るの金なければ如何すべきバルデスの不景氣は銅河より及ほし居ると明なればバルデスに往きて働き金を作らんと固より思ひよらずバルデスに往くには余等背に負擔するの外なければ食物は此に至るの途中即ち氷山の絶頂迄二日絶頂よりバルデス迄二日合せて四五日の食物を背にし充分なれどもバルデスに往くや否や先つ第一に食物なきとなり余等の運命亦隨て窮せりと謂ふべし何とかして余等の食物其重なるもの米百十七封粉百封砂糖廿六封程を賣なば二三十弗を得

べく去ればヂユーノーなりの船便を得るに充分なればこれを賣るとに盡瘁せざるべからざるに至る因て大湖の畔に目下天幕の聚れるを聞き及べる故余は先つ致て試に賣らんと一日谷を渉り密生せる林叢を推し分け行くと四五英里已に大湖は眼下に見ゆれども此處又二里程渚水を渉らざるべからず且つ更に二三の流水ありて竟に渉る可らざるを視て己を得ず歸路に就けり然し此にて己む可らざれば今度は十二英里の處にも天幕の聚れるを望見しこゝに至らんとて大河を漕き對岸の路を取て下りたり漸くにして到り賣らんことを試みたれども何れも下景氣にて人々皆歸らんずる勢にて粉は二弗十二仙(百封)他之に準し衣類の如きは十三弗も出したる毛氈路傍に棄てあるも何人も拾得する者なき意外の景氣なれば何も賣れべき見込なし唯茫然として歸れり斯くて止むべきにあらざれば尚ほ考を凝らし今度は有合の食物を應用して飲食店を開き以て歸路の資を得んとしたりされば早々に農圃の始末を片付遂に八月五日此農圃を打棄て天幕を六英里キャンプの處に移すこととなれり滋々として發生せる五十餘種の穀菜は無情のものながら露を含て余等か去るを慽むが如く毎日友の如く訪來る(カゲス)は却て歎て彼が自由に食物を得るを自得するが如し幾多の器械も皆農場の片隅に打棄てたり今ほ日本丸に投して六英里キャンプに移りて飲食店を開んと其夜は川岸に一泊せしが忽ち思を變へ七英里キャンプの湖畔こそ通行者の能く泊する處なれば茲に移るべしと定めたり其より荷物を日本丸に積み込み二回にて對岸に渡りたる毎に滿載したる事なれは此急流を渡るは頗る危險を覺へたれとも二人注意を加へ無事に渡りたり細流を下り行きしに大木ありてこゝに横り舟行を絶す漸くにして此大木を取除き湖端に出づ湖水清涼なれは大に悦ひ急きて舟を漕き行きしに鮭の水底に沈めるを見桿を以て引揚けたり鮭を獲たれは是より先きに鷗の捕へて大半喰殘したるを得たるのみにして之か第二なれば大に悦べり進て灣曲せる阜頭に船を繋き先つ喫食し何れに場を占むべきやを檢せしに湖の中央にして半島の平坦にして各人の通路に當る好位置を見出し茲に天幕を張るとしたり船を移して此に到り先つ天幕を張り庖厨場を作りなとして漸く食事店に應用する丈に作り且つ天幕も人を宿すべきとなれば體好く作り終りたりき大堀君は直ちに廣告を出さんとて一英里半南北の道に告示し以て客をして余等の天幕に來るべきを通せり時にヅーナノ會社の者十二人にて來れるに遇へたれば彼等は喜んて余等の天幕に來り宿するとせり初ての

客にして此大勢二人の食器さへなき處あれば是より大騒ぎとなれり然るに追〻來り總て十九人の客となれり如何にして二人前の食器に此大勢を賄得べきやこゝがドランプ、キヤンプの事なれは皆々其不準備の食器に滿足し六時頃より九時頃迄に漸く濟ませたり初ての開店なれば何に彼に不揃にて頗る目を廻したり然しこれにて七八弗を得たれば先づ余等も滿足し尚客の來るを待受けたりき此湖の背後に細流を遡りて小湖あり鮭其淺處に群聚す毎日余等は此處に棹て捕鮭す嘗て斯の如き大漁せしことなし鮭湧が如く或は棒を以て打ち或は銃を以て捕ふ恰も池に養ふものゝ如し余等網を打ち捕へたれば一網にて初めは二十四尾を得たりき小舟の底は鮭を以て充たさるゝに至れり或は鴨を獵し或はルンなる鳥を獵す湖畔は余等に於て最も快樂多き日を與へたりき或は四五英里の邊より來り一宿して捕鮭するものあり一夕六人來り漁す數十尾を得たり其夜余等舟を棹して彼等の露天の處に至り一網して四尾を得其中二尾を彼等に與へ共に野火を圍て話せり喬林の中焚火盛にして煙林頭に鬱き談話快豁頗る樂かりき歸艇棹して湖に入る輪月山角に昇り波光島影其絶景幾んど桃源の遊を思ふ此地に止る一週間十弗程を得たり或は掲示して總ての食物を賣り道具は自由に任すべきを示しなどあらゆる策を盡して金を得んと試みたりき思ふに余等の食料一ヶ月客を招くに足れども砂糖なり粉なり一品先づ盡なば早々方付け餘物は棄却して歸路に就なん何の道九月上旬には此を去るべきよと決定したり時に八月十二日の午前なりき余等是朝例の捕鮭場に至り二網して廿六尾を得舟に充てゝ歸り此鮭を割き乾さんと致したる處へ一人來りて余等の總ての物を買はんと話したりき余等以て好機失ふ可らずと爲し彼と談示して漸く二十弗に賣却するとに成したりき天幕も舟も毛衣三枚も銃も粉も米も凡ての物を含みたることなれば殆ど捨るも同樣なれども今後余等此處に客を招けばとて二十弗を得るは頗る困難而して其後矢張り棄却せざる可らず寧ろ今彼に賣却して二十弗を得尚ほ彼に諸品を與ふるは棄つるに勝るの感あれば此事に一決したり彼尚ほ對岸に荷物あれば持ち來り呉れよと請ひければ無止三人にて對岸に到り頗る困難を凌ぎ往復し直ちに荷物を片付余等の所持品を別にせり而して此夜は庖厨場の片隅に一宿することゝし明日携帶すべき壹食のパイなどを作りて此夜を過せり十三日は彌々余等が歸程に就くの日なりき幾んど六ヶ月進行せるアラスカ中央の旅行はこゝに斷絶し今日より歸路に向ふ困難辛苦の時日は何の爲めなるか

顧て此に至る轉た斷腸すべく又笑ふべきものあり五十封位さい背にすると能はざれば大概のものは賣却したれども餘の物は皆こゝに棄て置き庖厨の傍の木に掛示して曰く（我々諸君に向て總ての物を置き殘したれば要用の人は取る可し）而して乾せる鮭百尾程横木などに懸け置きたり時に快晴朝暾殘雪の嶺を照らし漫々たる金波孤島を浮べて我等の歸去を慽むもの如くなりきゾリヤルの天幕に到て晝食を喫し彼の氷山の麓迄至れり此に抵る凡そ十一英里なり長が道路例に因て密林を通り水を涉り山を廻る此山麓に食事店あり（茵よりてんとにて一時のもの）其傍に露宿し明日は掛念せる氷嶺を越へんと食物の用意を致したり且つ飲食店の婦女は云ふ明日第一テンポリヤ（ブレアス）より三人のベルデスに向ふものあり其中一人は善く道路を知る者なり若し其れ道路を知らざれば容易に二十六英里氷山を超ると能はずして或は中途に迷へ或は到底危險を免る可らず因て余等も早朝三時に食事し人の來るを待てり若し四時迄に來らざれば不得止先行すべきに決定せり然るに終に人の來るものなければ餘儀四時にこゝを去りて絶頂に向へり先づ登りて何れよりして進み始めんかと八方通路を見出んとすれども氷上なれば足跡もなく一面唯氷のみなれども橇の棄ある處又棒など捨てあれば此より登るならんと行くこと二英里程なりしが龜裂甚しく到底こゝを超ゆると能はず顧ふに他の路あるべきなり六週程前に兵士のユーコンに進むもの三十一人三十二頭の馬を牽て氷谷を超へ且つ通路を作れるを話すものあり馬の行き得べき徑將に他にあるべしと戻りて又右側の山に沿て上る山岩石纍々頗る險惡行くこと一英里半て馬の登る如き通路を見ず唯氷山劍立聳る壁の如き行く四五英里を登り幾んど此山の巔に達せり然るに氷山は坦の如く平遠にして此處より對岸の砂礫に渡るべきを思ふ蓋しグレシヤは處々に砂礫堤防の如く亦小丘の如く起り其狀殆んど碧波萬里の海上に孤島の點在するが如し時正に午過なりければ先づ氷山の小石に踞して氷水を掬飲し喫食しそれより此處を渡らんと試みたり若し此處を渡らざれば他に行くべき通路を見出すと能はずして再び麓に戻り幾日にても通行者を待たざる可らず然るに余等の食料は今後二日間あるのみ頗る危險なれば遂に意を決し進みたり先づ長き繩を麓に拾ひたるを幸として此繩の兩端を兩人にて持ち若し一人裂目に落ちたらば一人上に在りて之を助くべきを以てせり其碧色恰も水の流るが如き處に至る今にも此氷倒れ落ち余等を氷底に斃ふべきと戰々悚然として爆裂彈の上を蹈むが如き思をなす

漸くにして渡る一英里遙の砂礫に沿ふて橇を牽き過ぐる者あり人の此氷上に橇を牽くことは思掛なき事兎に角人を見たるとなれば大に悅び急ぎ至り視れば三人あり彼等其の荷物を卸さんとせるなり彼等の天幕は一英里程上に在り其仲間に食事店を營み居ると仍て彼等に伴はれ險處も難無く過き彼等の天幕に到り小憩せり洵に彼等の案内を受け巔に容易に達するを得たりき余等當時悅びに堪へざりければ嘗て闘場にて獲たる廿日大根の一束を與へたりしに此氷山の巔に於て此賜ある萬金得がたきものとし大に悅て直ちに口にせるを見る此山巔には夫の飲食店の天幕あり數人ありて今や移り下らんとするものゝ如し頂上に多く荷物を積み置きたるものあり是れ雪後歸れる者の殘したるものならん其より下りて余等が嘗て天幕を張りたる麓より其近傍を過ぎしに殆んど戰場の跡の如く惡臭鼻を撲て過ぐ可らず是れ馬の斃れたるものか或は人の埋沒せるものならん群鴉此近傍を見舞ひ居れり嗚呼時も四月廿四日の事なりき恰も余等が天幕を離なく樹林地に移せし其翌日風雪大に作り此絶頂を吹き暴し多くの荷物を埋め二人を雪下に葬り六人の行先を失はしめ二人の夫婦をして危く亦氷下の客とならしめんとせり馬は倒れ犬は失ひ數百の人曾て此處に陳せるもの多少の損害幾多の苦艱を受けさるは無かりき薪材を失ひたるもの幾日となくこの冽寒に吹酒されて食を得ると能はず爲めに五尺の丸木一本七弗に價するに至る當時の慘狀實に想起に堪へざるものあらん幸に余等は僅々一日の差にて此の災害と苦難を免れたりき余等嘗て此の麓に陳せしは最も悪しき場所なりげれば余等の生命もこゝに在りしならば恐くは免れ難からん漸にして右側の麓に沿ひ二英里程進み其よりペド、プレス(惡場所)と名くる處を過くるとなれとも時既に午後の六時頃なればこゝに露宿することとし先つ其場所を搜したれとも別に風を防くの石もなく唯小礫に上に火場を作りたり時に遙かに馬の啼くを聞く因て人の來るを知れる故彼等をこゝに招きて共に野宿の友と爲さんとし小銃を放ちしに案の如く先つ二人來れり然るに其の一人は郵便配達し居れるジャクソンなりき因て悅て先の路案内を請ひ且つ余等カーヒーを作りて供する旨を話したりしに彼等大に悅ひこゝに同宿するものとなりしやがて三馬五人も來り此處に團欒し一夜を守れり氷山僅に小礫を散しある處其の冽寒云ふ可らす余等嘗てキャドテールに石油を浸したる者を用意し來りたれば一本の棒を拾たるを本とし火を作り霧と雨とに斷間なき處にも能くコーヒーを作りパンケーキを作り